史　跡

上之国勝山館跡 XIX

―平成９年度発掘調査環境整備事業概報―

1998・3

上ノ国町教育委員会

史　跡

上之国勝山館跡 XIX

―平成９年度発掘調査環境整備事業概報―

1998・3
上ノ国町教育委員会

序

昭和54年の発掘調査開始以来、国指定史跡上之国勝山館跡の環境整備事業は多くの汗と資金を費やし進められ、今年で19年目を迎えました。

5月下旬から始まった今年度の遺構確認調査の範囲は、勝山館跡中央部の台地中央北西側約1,300平方メートル、約6ヶ月にわたる天候と土との苦闘の結果、数々の成果を得ることができました。

本年度の事業推進にあたり、文化庁記念物課を始め関係各機関の諸先生、勝山館跡調査研究専門員としてご指導をお願いしている朝尾直弘、網野善彦、石井進、榎森進、仲野浩の諸先生には、懇切丁寧なご指導ご助言を賜り衷心より感謝申し上げます。また、建築学の立場からご指導を頂戴しております文化学院の鈴木亘先生には、ご多忙中のところ貴重なご助言を賜り心より厚く御礼申し上げます。

さて、今回検出された遺構の中で関心を惹くのが、井戸跡です。いまでも地下水脈を探し出すことは素人には容易でありません。ましてや標高100メートル前後の台地に誰が地下水脈を探し出し、誰の手により掘られたのか、興味をそそられるところであり、その背後に「道々の輩」の末裔、井戸掘り職人や番匠などの技術者の姿を思い浮かべ、また、出土した銅製仏具の六器碗の後景に、大地の神を鎮める地鎮祭と、それを司る陰陽師の存在を想起してみたい誘惑に駆られています。

発見された遺構や出土遺物の背後に見えてくるものを、歴史学や民俗学、地理学、建築学など周辺諸学の助けを借りて検証し、勝山館とその時代の一齣一齣を丹念にデッサンし、その全容を描出し、地域の人々と共有していくことこそ、私たちの使命であり、大いなる願いでもあります。

決して十分とは言えない調査研究体制ではありますが、関係各機関、諸先生方には、より一層のご指導ご助力を賜りますよう切にお願い申し上げ、概要報告書刊行のご挨拶といたします。

平成10年3月

北海道檜山郡上ノ国教育委員会
教育長　上野秀勝

本文目次

序
本文目次／挿図目次／表目次／写真図版目次
例言／引用参考文献
Ⅰ　調査の概要…… 1
Ⅱ　遺構確認調査…… 2
1．調査目的…… 2
2．検出遺構と出土遺物…… 2
(1)　位置・概要…… 2
(2)　層序…… 2
(3)　掘立柱建物跡……14
(4)　竪穴建物跡……58
(5)　土壙……65
(6)　柵列跡……65
(7)　井戸跡……68
(8)　出土遺物の概要……76
Ⅲ　小括……84
Ⅳ　保存処理……85
Ⅴ　まとめ……86

挿図目次

第１図　遺跡地形図・調査区位置図…… 2
第２図　調査区範囲図…… 3
第３図　調査区土層堆積図－１…… 5
第４図　調査区土層堆積図－２…… 7
第５図　調査区遺構配置図……11・12
第６図　第１号建物跡想定図……19
第７図　第２号建物跡想定図……20
第８図　第３号建物跡想定図……21
第９図　第４号建物跡想定図……22
第10図　第５号建物跡想定図……23
第11図　第６号建物跡想定図……24
第12図　第７号建物跡想定図……25
第13図　第８号建物跡想定図……26
第14図　第９号建物跡想定図……27
第15図　第10号建物跡想定図……28
第16図　第11号建物跡想定図……29
第17図　第12号建物跡想定図……30
第18図　第13号建物跡想定図……31
第19図　第14号建物跡想定図……32
第20図　第15号建物跡想定図……33
第21図　第16号建物跡想定図……34
第22図　第17号建物跡想定図……35
第23図　第18号建物跡想定図……36
第24図　第19号建物跡想定図……37
第25図　第20号建物跡想定図……38
第26図　第21号建物跡想定図……39
第27図　第22号建物跡想定図……40
第28図　第23号建物跡想定図……41
第29図　第24号建物跡想定図……42
第30図　第25号建物跡想定図……43
第31図　第26号建物跡想定図……44
第32図　第27号建物跡想定図……45
第33図　第28号建物跡想定図……46
第34図　第29号建物跡想定図……47
第35図　第30号建物跡想定図……48
第36図　第31号建物跡想定図……49
第37図　第32号建物跡想定図……50
第38図　第33号建物跡想定図……51
第39図　第34号建物跡想定図……52
第40図　第35号建物跡想定図……53
第41図　第36号建物跡想定図……54
第42図　第37号建物跡想定図……55
第43図　第38号建物跡想定図……56
第44図　第39号建物跡想定図……57
第45図　第85号竪穴建物跡平面図他……59
第46図　第83・88号竪穴建物跡平面図他……60
第47図　第86・91号竪穴建物跡平面図他……61
第48図　土壙１・２・４平面図他……66
第49図　土壙８・17・23・27平面図他……67
第50図　井戸平面図他……68
第51図　井戸土層堆積図他……69
第52図　調査区出土遺物（陶磁器）……72
第53図　調査区出土遺物（国産陶器）……73
第54図　調査区出土遺物（金属製品他）……74
第55図　調査区出土遺物（金属製品他）……75
第56図　調査区出土遺物（骨角器）……77
第57図　井戸跡内・調査区出土遺物……78
第58図　井戸内出土遺物（陶磁器・木製品）…79
第59図　井戸他出土遺物（木製品）……80

表目次

表1　東西セクション南壁土層＜A～A'＞…7
表2　東西セクション南壁土層＜B～B'＞…9
表3　南北セクション東壁土層＜C～C'＞…9
表4　東西セクション南壁土層＜D～D'＞…10
表5　南北セクション東壁土層＜E～E'＞…10
表6　南北セクション東壁土層＜F～F'＞…13
表7　東西セクション北壁土層＜G～G'＞…13
表8　第85号竪穴建物跡土層観察表……62
表9　第83号竪穴建物跡土層観察表……62
表10　第88号竪穴建物跡土層観察表……62
表11　第86号竪穴建物跡土層観察表……63
表12　土壙1土層観察表……63
表13　土壙2土層観察表……63
表14　土壙4土層観察表……63
表15　土壙8土層観察表……64
表16　土壙17土層観察表……64
表17　土壙23土層観察表……64
表18　土壙27土層観察表……65
表19　井戸跡遺物観察表……71
表20　井戸跡土層観察表……71
表21　出土遺物観察表（陶磁器）……81
表22　出土遺物観察表（鉄製品他）……82
表23　出土遺物集計表（陶磁器）……83
表24　出土遺物集計表（鉄製品他）……83

附図　調査区遺構配置図

写真図版目次

ＰＬ．1　調査区全景
ＰＬ．2　遺構検出状況
ＰＬ．3　遺構検出・遺物出土状況
ＰＬ．4　井戸跡調査状況
ＰＬ．5　遺構検出状況
ＰＬ．6　遺構検出状況
ＰＬ．7　遺構検出状況
ＰＬ．8　遺構検出状況
ＰＬ．9　遺構検出状況
ＰＬ．10　遺構検出状況
ＰＬ．11　遺物出土状況
ＰＬ．12　遺構検出状況
ＰＬ．13　遺構検出状況
ＰＬ．14　遺構検出状況
ＰＬ．15　井戸跡　木製品出土状況
ＰＬ．16　遺構検出状況他

例　言

1．本書は史跡上之国勝山館跡の平成９年度発掘調査及び環境整備事業について概要をまとめたものである。

2．本年度の発掘調査は次の体制でのぞんだ。

調査主体者　上ノ国町教育委員会
教育長　和泉　定夫（４月１日～９月30日）
上野　秀勝（10月１日～）
指導　上ノ国町文化財保護審議会特別委員
福山工業大学教授　足達富士夫
文化学院講師　鈴木　亘
同勝山館跡調査研究専門員
国立歴史民俗博物館　石井　進
橘女子大学教授　朝尾　直弘
神奈川大学特任教授　網野　善彦
東北学院大学教授　榎森　進
東北芸術工科大学教授　仲野　浩
主管　上ノ国町教育委員会文化財課　課長
松崎水穂　課長補佐　渡部孝之　博物館・整備係長　笹浪甲衛　文化財係長　斉藤邦典　臨時事務補　細川より子
勝山館跡修景技術専門員　北島譲（上ノ国町建設課長）
発掘担当者　学芸員　松崎水穂
調査員　学芸員　松田輝哉、発掘調査員　長内孝幸
調査補助員　山崎洋子　笠谷奈智子　竹内江美子、阿部知子　田中恵子（東北芸術工科大学）、広田晶子　橋口亘　松田朝由　田矢杏子　森本裕美（奈良大学）、若松重弘（山口大学）
作業員　青木千秋　浅原すみ　井越祥子　小田川喜美子　大谷弓子　奥寺京子　川合冴子　川口泰子　斉藤圭子　笹浪竹志　杉山稲子　鈴木千春　住吉泰子　田畑康子　沼沢国枝　八田綾子　八田揚子　藤田裕美　細川キヨ子　松本津枝子　目黒加奈子　森恵美子
保存処理作業員　木村洋子　油谷和枝

3．本書の編集は松崎、松田、長内が協議の上、松田が行った。
本書の作成はⅠ・Ⅲ・Ⅳを松田、Ⅱを松田・長内、Ⅴを松崎の分担で行い、文末に氏名を記した。尚遺物観察表・集計表は山崎、土層の観察表は竹内、掘立柱建物跡の想定図は笠谷の各調査補助員が作成したものに基づいている。

4．挿図の作成は担当者、調査員の指示により調査補助員、作業員が行った。挿図中の方位は真北を示す。

5．土層の土色は「新版標準土色帖」（農林水産技術会議事務局）を遺物の色調名は「標準色彩図表Ａ」（日本色研事業株式会社）を用い、目測で比定した。

6．本書の調査時の写真は松崎、松田、長内が撮影した。

7．調査にあたっては次の関係機関と各位に多大な御指導と御援助を賜った。
文化庁記念物課　田中哲雄　本中眞　磯村幸男　伊藤正義　岡村道雄　坂井秀弥　小林克　澤田利夫、北海道教育庁文化課　木村尚俊　竹永良美　成田敬紀　石栗正　大沼忠春　種市幸生　藤原秀樹、東京国立博物館　伊藤嘉章、国立歴史民俗博物館　小野正敏　椿坂恵弥、国立科学博物館　松村博文、北海道大学天野哲也、札幌医科大学　石田肇、北海道教育大学函館校　紀藤典夫、跡見女子大学　泉雅博、神奈川大学短期大学部　田島佳也、昭和女子大学　平井聖、一橋大学　池享、立教大学　山浦清、関西外国語大学　佐古和枝、高知大学　市村高男、北海道開拓の村　野村崇、函館市立北方民族博物館　野村裕一、青森県立郷土館　三宅徹也、八戸市博物館　佐々木浩一、角鹿町歴史民俗資料館、千葉県立房総のむら　榎美香、一乗谷朝倉氏遺跡資料館　南洋一郎　岩田隆、若狭歴史民俗資料館　水野和雄、愛知県陶磁資料館　井上喜久男、堺市博物館　吉原恵雄、日本モンゴル民族博物館　金津圧伸、広島県立博物館　佐藤昭嗣　下津間康夫　福島政文　鈴木康之、吉田町歴史民俗資料館　川尻真、北海道埋蔵文化財センター　花岡正光　石井淳平、今金町教育委員会　寺崎康史、江差町教育委員会　藤島一巳、乙部町教育委員会　森広樹　藤田巧、奥尻町教育委員会　木村哲朗、松前町教育委員会　久保泰　前田正憲、福島町史編纂室長　永田富智、南茅部町教育委員会　福田祐二、

江別市教育委員会　佐藤一志、北広島市教育委員会　遠藤龍帆、白老町教育委員会　乾哲也、青森県埋蔵文化財センター　木村鐵次郎、市浦村教育委員会　榊原滋高、浪岡町史編纂室　工藤清泰、八戸市教育委員会　工藤竹久、東通村教育委員会、南部町教育委員会　永井治、二戸市教育委員会　小野寺宗祐　男鹿市教育委員会　泉明、秋田城跡調査事務所　小松正夫　日野久、福島県文化センター　飯村均、太田市教育委員会　宮田毅、安土城城郭調査センター　藤村泉　木戸雅寿　小竹森直子　西家淳朗、安土町教育委員会　石橋政嗣、堺市埋蔵文化財センター　鳴谷和彦、神戸市教育委員会　谷正俊、広島県教育庁文化課中世遺跡調査班　小都隆　木村信幸　沢元保夫　尾崎光伸、千代田町教育委員会　佐々木直彦、吉田町地域振興事業団　新川隆、　中村五郎、札幌稲西高等学校　中村和之、野屋敷裕康、佐々木稔　（順不同　敬称略）

引用参考文献

美濃焼　1983年　田口昭二
ものと人間の文化史25　臼（うす）1985年　三輪茂雄
肥前陶磁　1988年　大橋康二
民具実測図の方法Ⅱ漁具　1989年　神奈川大学日本常民文化研究所
尾張陶磁　1992年　井上喜久男
中世須恵器の研究　1993年　吉岡康暢
瀬戸市史陶磁史篇四　1993年　瀬戸市史編纂委員会
『概説　中世の土器・陶磁器』　1995年　中世土器研究会編
志苔館跡　1984～1986年　函館市教育委員会
浪岡城跡Ⅲ～Ⅶ　1979～1984年　浪岡町教育委員会
特別史跡朝倉氏遺跡発掘調査報告書Ⅰ～Ⅴ　1979～1996年　福井県教育委員会　福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館
草戸千軒町遺跡発掘調査報告書Ⅴ　1996年　広島県草戸千軒町遺跡調査研究所編
史跡上之国勝山館跡Ⅰ～Ⅹ　1980～97年　上ノ国町教育委員会
「15・16世紀の染付碗、皿の分類とその年代」『貿易陶磁研究２』　1982年　小野正敏
「16世紀末から17世紀前半における中国製染付碗・皿の分類と編年の予察」『関西近世考古学研究Ⅰ』　1991年　上田秀夫
「根城東構地区の遺構変遷」『八戸市博物館研究紀要　第７号』　1991年　佐々木浩一

Ⅰ　調査の概要

1　調査

史跡上之国勝山館跡は、檜山郡上ノ国町字勝山に位置し、前方には天然の良港大澗湾を臨み、後方には標高159ｍの夷王山を配する。館の主体部は、両側を華ノ沢、寺ノ沢に挟まれた台地となっている。主体部は大きく３つの平坦面に分かれており、下から第一平坦面、第二平坦面、第三平坦面としている。第一平坦面は虎口から大手側の空壕までの平坦面で、面積約5,000㎡。第二平坦面は面積約7,000㎡と最も広く、勝山館の中心的建物をはじめ多くの建物跡が検出され、館主体部の最も重要な住空間として考えられる。また第一平坦面との境には深さ約２ｍ（第二平坦面までの落差８ｍ）の空壕が２本掘られている。第三平坦面は、館神八幡宮があった箇所で面積は約3,500㎡。最後部には土塁が作られ、さらにその外側には空壕が切られている。更に第二平坦面と第三平坦面を囲むようにして櫓列が巡らされ、館中心部の守りを固めていた。

本年度は、平成２年度より継続している館中心部の第二平坦面の調査を行い、北西中央部約1,300㎡を発掘調査した。

調査方法の概要は以下の通りである。発掘区の設定は、20ｍ×20ｍの大グリッドを分割した４ｍ×４ｍの小グリッド方式を採用した。また、建物の概要を知るために柱穴配置略図（縮尺1／40）を作成し、柱穴間の重複・覆土の状態を観察しながら、掘り下げた。焼土・土壙などの遺構は半裁し、セクション図を作成後掘り下げ、土壙のサンプリングを行った。遺物の取り上げ方法は、Ⅰ・Ⅱ層は４ｍ×４ｍのグリッドを２ｍ×２ｍに４分割して一括して取り上げ、遺構面のⅢ層は実測図に記録した後にレベルを付して取り上げた。尚、遺構図は柱穴・溝・竪穴建物跡は1／20、焼土・土壙は1／10、遺物分布図は1／20で、平板及び遣り方測量を採用した。

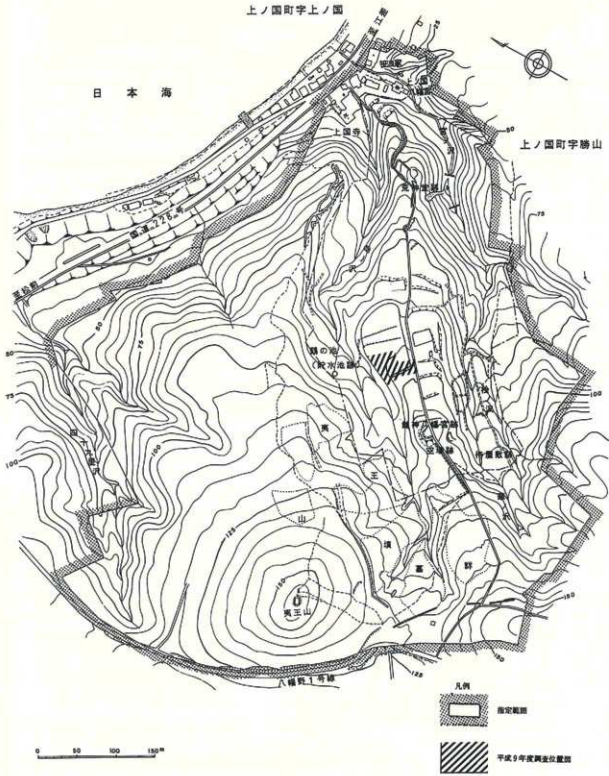
５月22日　作業員に作業内容、就業規則その他説明。
発掘調査開始。
６月中旬　調査区内層までの土層除去作業終了。
20Ｋ１・20Ｌ３・19Ｍ15区周辺調査
６月23日　溝18より延出土。30日、溝５より瀬戸美濃小壺出土。
７月上旬　20Ｋ１区第９号建物跡調査他。
７月下旬　第83号竪穴建物跡、第86号竪穴建物跡調査。中央通路地区写真撮影。井戸跡調査開始。
８月下旬　19Ｋ22区・20Ｌ６・19Ｍ14区周辺地区調査　第85号竪穴建物跡調査。第84号竪穴建物跡調査　土壙８・23調査。第16号建物跡P420より六器鍋出土。
９月上旬　19Ｋ16・19Ｌ２・19Ｍ４区周辺地区調査。櫓列調査。井戸跡より箸、下駄、挟板などの木製品多数出土。
10月２日　鈴木亘先生による建物遺構調査現地指導。
10月25日　現地説明会実施。
10月29日　井戸跡調査完了。
12月10日　埋め戻し作業終了。

2　基本層序

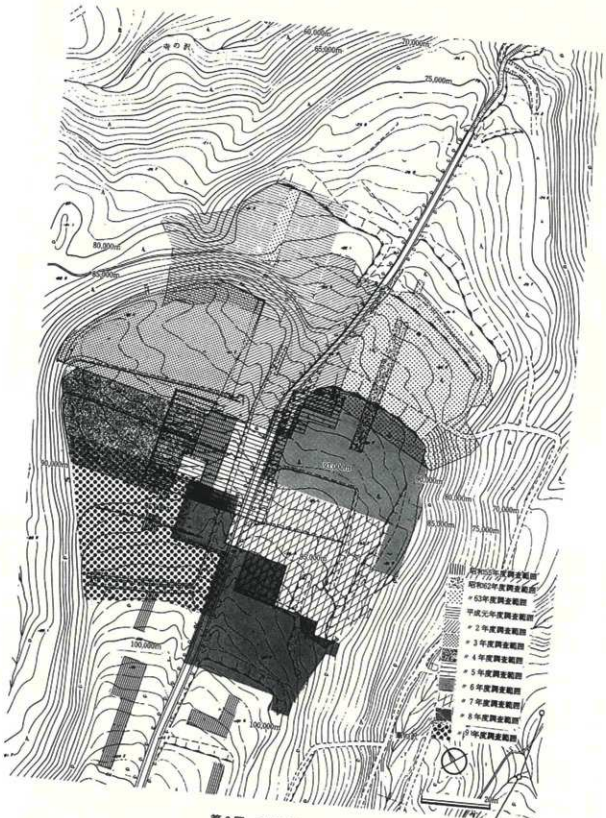
Ⅰ層　表土層。10ＹＲ3／3暗褐～10ＹＲ4／4褐シルト、草根多量、やや密。
Ⅱ層　館廃絶後の自然堆積層。10ＹＲ3／3暗褐～10ＹＲ4／4褐シルト、やや密、炭化物混入。Ｏｓ－ａ、Ｋｏ－ｄを含む。（従来Ｏｓ－ａとしていた白色火山灰は、Ｋｏ－ｄの可能性もあり確認調査中である。）
Ⅲ層　館機能時の整地盛土層。10ＹＲ4／4褐～10ＹＲ5／8黄褐、密、ソフトローム粒、炭化物等多量に含有する。細分される。
Ⅳ層　縄文期以後館が形成されるまでの堆積層。
Ⅳａ層　黒褐色土層　10ＹＲ褐～10ＹＲ褐。
Ⅳｂ層　明黄褐色火山灰。10ＹＲ6／6明黄褐火山灰。やや密。
Ⅳｃ層　縄文期包含層。10ＹＲ4／6褐シルト、やや密。
Ⅴ層　ソフトローム。10ＹＲ5／4にぶい黄褐～10ＹＲ5／6黄褐。
Ⅵ層　ハードローム。7.5ＹＲ5／4にぶい褐～10ＹＲ4／6褐。

3　保存処理

本年度は鉄製品800点、銅製品122点、骨角器500点の処理を行った。



第1図　遺跡地形図・調査区位置図


昭和60年度調査範囲
昭和62年度調査範囲
＊63年度調査範囲
平成元年度調査範囲
＊2年度調査範囲
＊3年度調査範囲
＊4年度調査範囲
＊5年度調査範囲
＊6年度調査範囲
＊7年度調査範囲
＊8年度調査範囲
＊9年度調査範囲

第2図　調査区範囲図

Ⅱ　遺構確認調査

1　調査目的

平成２年度以降、館の中心部である第二平坦面の調査を行ってきた。その結果、平成３年には勝山館の中心的建物とその屋敷地、平成４年には、鋼鍛冶鋳造遺構、平成５年度には中央通路に跨る門跡、平成６年度は帯曲輪を、平成７、８年度は中央通路や帯曲輪に面する数多くの建物跡を検出した。この様な多種多様な遺構の検出や大量の遺物の出土により、勝山館跡の中心部の様相が、少しづつではあるが見え始めてきた。しかし、中央通路を機軸に一見まとまりを見せる遺構群も毎年異なる様相であり、中心部の実態解明には更なる調査も必要である。

今年度の調査は、中央通路を基軸とし展開する勝山館中心部の建物群（屋敷地）の更なる実態調査。第二平坦面と第三平坦面における様相の差。平成４年度調査で検出された通路跡と考えられる遺構の行方。戦後間もない頃の勝山館跡周辺の航空写真上に今年度調査地区に方形の影が見えている。それが何らかの遺構痕跡と考えられるため、その解明が課題となった。

2　検出遺構と出土遺物

(1)　位置概要

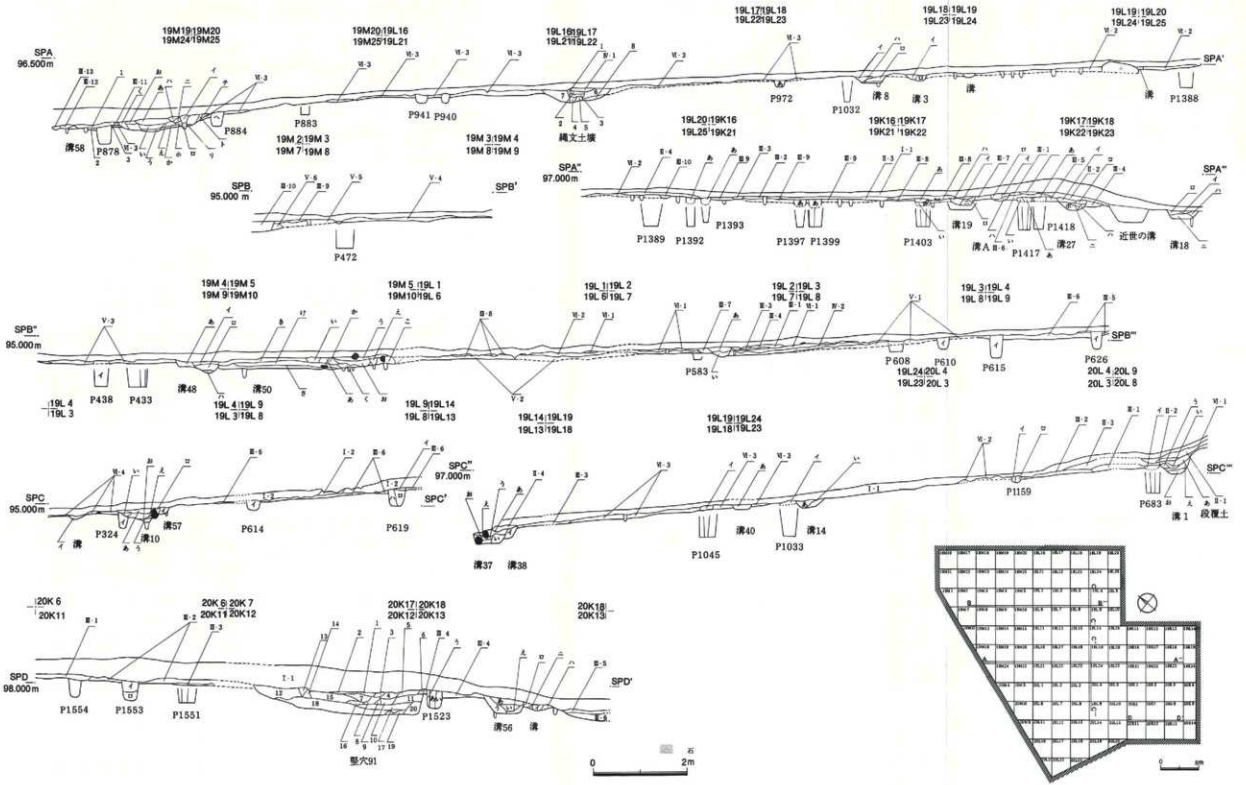
平成９年度の調査区は、第二平坦面中央（第２図）平成８年度調査区と平成４年度調査区西に接する。勝山館の中心建物跡と考えられる「客殿跡」の屋敷地後方に当たる。平成４年度には鍛冶鋳造遺構、平成８年には、中央通路に面し立ち並ぶ部屋を複数持つ建物跡を多数検出している。

第20Ｋ区周辺では地表から土塁と溝が確認されていたが、Ⅱ層白色火山灰を切っていて幕末期の参道改修の溝と繋がることが明らかになった。この溝によって第８号建物跡・第39号建物跡等の一部の柱穴が破壊されて検出不可能であり、図上で柱位置を想定した。

調査の結果、中世の掘立柱建物跡39棟、竪穴建物跡10棟、井戸跡１基、土壙24基、焼土６基、柵列跡、通路跡、幕末期の溝を検出した。課題の内、航空写真に見える方形の影は、各々別建物を区画する溝の一部（溝）が四角く囲繞するものに見えただけで、実際の地割の形を写し出している物ではなかった。

(2)　層　序

遺構の形成過程等を把えるべく調査区を縦横断する土層断面を設定し第３・４図、表１～７とした。19Ｋ16・17、19Ｌ16・17、19Ｌ23・24区周辺を中心として全体的に堆積が薄く、後世の耕作による攪乱を受けていることが推測される。このため中世の整地盛土層（Ⅲ層）を確認できなかった箇所が多くある。逆に、19Ｌ11・20Ｍ15区周辺では、中世の地業によって削平され確認されることの少ないⅣａ・ｂ層を確認した。この周辺は自然地形の状態では窪地の様になっており、むしろ盛土によって整地されていると推される。20Ｋ６・７区付近では近世幕末期の溝がⅡ層より掘り込まれ、溝１を切っている状態がはっきりと観察できた。また近世幕末期の溝は中世の溝の様に白色火山灰の堆積が認められないことからも、火山灰降下以降構築の溝であることが、あらためて確認できた。



第３図　調査区土層堆積図－１

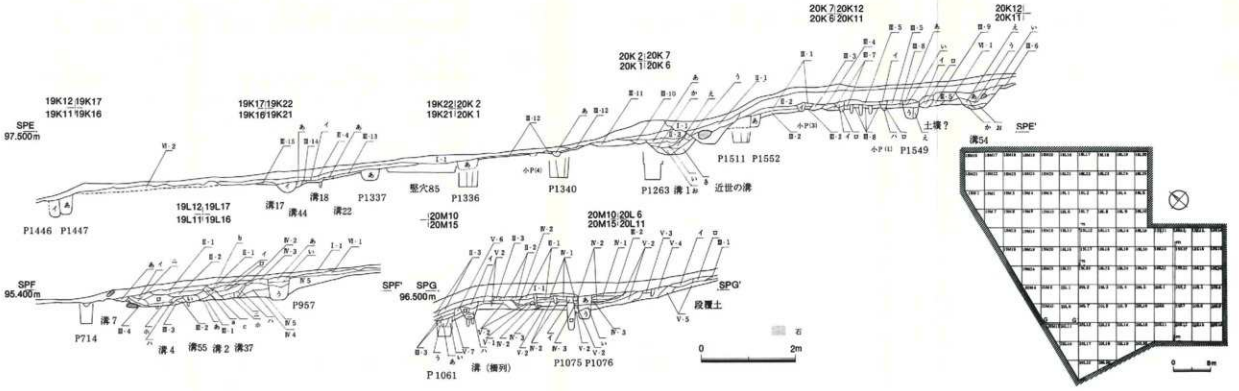


表1　19M24・25、19L21～25、19K31～23東西セクション西壁土層（A～A'）

I－1	10YR　4/4 褐色土主体	ローム粒微量	褐粒少量　玉砂利微量	基盤礫微量	ハード		C微量
II－1	7.5YR　3/2 暗褐色土主体	ローム粒微量	褐粒微量		ややハード	焼土粒微量	
2	7.5YR　3/3 暗褐色土主体	ローム粒多量	褐粒多量		ハード　しまり有り	焼土粒微量	
3	7.5YR　3/3 暗褐色土主体	ローム粒	褐粒		ややハード	焼土粒	C少量
4	7.5YR　3/3 暗褐色土主体	ロームブロック	褐粒　玉砂利少量	基盤礫	ハード		C微量
III	7.5YR　3/2 黒褐色土主体	ロームブロック　ローム粒	火山灰少量		ややソフト	焼土粒	C微量
II－1	7.5YR　3/3 暗褐色土主体	ローム粒	褐粒		ややソフト		
2	7.5YR　3/3 暗褐色土主体						
3	7.5YR　3/3 暗褐色土主体	ローム粒	玉砂利少量		ソフト	焼土粒	C少量
4	10YR　3/3 暗褐色土主体	ローム粒多量	褐粒多量	基盤礫	ソフト　しまりなし		C少量
5	7.5YR　3/2 暗褐色土主体	ローム粒	褐粒	基盤粒	ややハード　しまり有り		
6	7.5YR　3/2 暗褐色土主体	ローム粒	褐粒		ややハード　しまり有り		C微量
7	7.5YR　3/3 暗褐色土主体	ローム粒　火山灰微量	褐粒		ややソフト		
8	7.5YR　3/3 暗褐色土主体	ローム粒	玉砂利少量	基盤粒	ややソフト		
9	7.5YR　3/3　暗褐色土主体	ローム粒	褐粒		ややハード	焼土粒微量	C少量
10	7.5YR　3/3 暗褐色土主体	ローム粒	褐粒　玉砂利少量			焼土粒微量	C微量
11	10YR　3/4 暗褐色土主体	ローム粒微量	褐粒微量		ややソフト		
12	10YR　3/4 暗褐色土主体		褐粒微量	基盤粒微量	ややソフト		C微量
13	10YR　4/6 ローム主体	暗褐色土（10YR3/4）少量	褐粒少量	基盤粒少量	ハード		C微量
IV－1	10YR　7/1 黒褐色土主体	暗褐色土（7.5YR3/4BK黒）少量	ロームブロック微量		ソフト	焼土粒微量	
V－1	7.5YR　5/4 にぶい褐色土主体	含粘土質			ハード		C微量
2	7.5YR　5/4 にぶい褐色土主体		褐粒　玉砂利少量		ハード　全面粘土質		C少量
3	10YR　4/6 ローム主体	暗褐色土（10YR3/4）少量	褐粒少量	基盤粒少量	ハード	焼土粒微量	C微量
縄文土層	10YR　4/4 褐色土主体	暗褐色土（10YR3/4）少量			ソフト		C微量
2	7.5YR　3/3 炭実　暗褐色土主体	ロームブロック微量	ローム粒微量		ややソフト		C微量
3	10YR　3/3 炭実　暗褐色土主体	ローム粒微量			ソフト		C微量
4	10YR　3/3 暗褐色土主体	ローム粒微量　黒色土少量	火山灰少量　褐粒微量		ソフト		C少量
5	10YR　3/4 暗褐色土主体				ややハード		C微量
6	10YR　4/4 ローム主体	ローム粒微量		基盤粒微量	ハード	土器片	C少量
7	10YR　4/4 ローム主体		小礫微量　褐粒微量	基盤粒微量	ハード		C微量
8	10YR　4/4 粘土質　ローム主体		褐粒微量		ハード		C微量
溝18	イ 7.5YR　5/4 にぶい褐色土・火山灰土体	火山灰多量			ハード　しまり有り		
ロ	7.5YR　4/3 褐色土主体	ローム少量　火山灰少量			ややハード　混性		C少量
ハ	7.5YR　4/3 褐色土主体	ローム少量　火山灰少量	褐粒少量		ややソフト　混性		
ニ	7.5YR　3/3 暗褐色土主体	ローム少量	褐粒少量		ソフト　混性	焼土粒	C やや多
溝27	イ 7.5YR　3/3 暗褐色土主体	ローム粒	褐粒		ややハード	焼土粒微量	C少量
ロ	7.5YR　3/3 暗褐色土主体	ローム粒			ソフト		C少量
ハ	7.5YR　3/3 暗褐色土主体	ローム粒	褐粒		ソフト　混性	焼土粒	C少量
ニ	7.5YR　2/1 黒色土主体	ローム粒			ソフト　混性	焼土粒微量	全体に
ホ	7.5YR　3/3 暗褐色土主体	ローム粒	褐粒		ソフト　混性		C少量
溝A	イ 7.5YR　3/2 黒褐色土主体	ローム粒	褐粒		ややハード	焼土粒	C少量
ロ	7.5YR　3/2 黒褐色土主体	ローム粒微量	褐粒		ややソフト	焼土粒微量	C微量
ハ	7.5YR　3/2 黒褐色土主体	ローム粒	褐粒	基盤礫	ややソフト		C微量
溝19	イ 7.5YR　3/2 黒褐色土主体	ロームブロック	褐粒		ソフト	焼土粒微量	C微量
ロ	7.5YR　3/2 黒褐色土主体	ロームブロック	褐粒		ややハード	焼土粒少量	C少量
ハ	7.5YR　3/2 黒褐色土主体	ロームブロック	褐粒		ソフト		C少量
ニ	7.5YR　3/3 暗褐色土主体	ロームブロック	褐粒		ソフト　混性		C微量
溝？	7.5YR　3/3 暗褐色土主体	ローム粒　火山灰少量	褐粒		ソフト		C ブロック状

溝13	イ 10YR　3/3 暗褐色土主体	ローム粒	褐粒少量	基盤粒微量	ややソフト		C少量
ロ	10YR　3/3 黒褐色土主体	ローム粒	褐粒少量		ソフト		C微量
溝8	イ 10YR　3/3 暗褐色土主体	ローム粒微量	褐粒微量	基盤粒微量	ソフト	焼土粒微量	C微量
ロ	10YR　3/3 黒褐色土主体	ローム粒微量	褐粒微量	基盤粒微量	ソフト		C微量
ハ	10YR　3/4 暗褐色土主体	ローム粒中量	褐粒微量		ソフト		
溝5	イ 10YR　3/3 黒褐色土主体	ローム粒	褐粒	基盤粒微量	ソフト	焼土粒微量	C
ロ							
ハ	10YR　3/3 暗褐色土主体		褐粒微量		ソフト	焼土粒微量	C微量
ニ	10YR　3/3 暗褐色土主体	ローム粒微量	褐粒微量		ソフト		C微量
ホ	10YR　3/3 暗褐色土主体	ロームブロック微量　ローム粒			ややソフト		C微量
ヘ	10YR　3/3 暗褐色土主体	ローム粒中量　にぶい黄褐色土（10YR4/3）中量	褐粒微量　玉砂利微量		ややソフト		C微量
ト	10YR　3/3 暗褐色土主体	ローム粒少量			ソフト		C微量
チ	10YR　3/3 暗褐色土主体	ローム粒少量　にぶい黄褐色土主体					C微量
リ	10YR　3/4 暗褐色土主体	ローム粒少量			ソフト		
溝24	ル 10YR　3/3 暗褐色土主体	ローム粒少量	褐粒微量	基盤粒微量	ややソフト		C少量
ヲ	10YR　3/3 暗褐色土主体	ローム粒少量	褐粒微量		ややソフト		C微量
ワ	10YR　3/3 暗褐色土主体	ローム粒少量	褐粒微量	基盤粒微量	ソフト		C微量
カ	10YR　3/3 暗褐色土主体	ローム粒多量	褐粒多量	基盤粒多量	ソフト		C少量
ヨ	10YR　3/3 暗褐色土主体	ローム粒微量	褐粒微量		ソフト		C微量
タ	10YR　3/3 暗褐色土主体	ロームブロック多量　ローム粒	褐粒微量	基盤粒微量	ややソフト		
レ	10YR　3/3 暗褐色土主体	ローム粒多量		基盤粒微量	ややソフト		C微量
ソ	10YR　3/3 暗褐色土主体	ローム粒微量	褐粒微量		ソフト		C微量
ツ	10YR　3/3 暗褐色土主体	ロームブロック少量　ローム粒少量	褐粒微量		ややハード		C微量
ネ	10YR　3/3 暗褐色土主体				ソフト		C微量
溝16	1 10YR　4/3 にぶい黄褐色土主体	ローム粒中量	褐粒中量		ややハード		C微量
2	10YR　3/4 暗褐色土主体	ローム粒中量	褐粒少量	基盤粒少量	ややハード		C微量
3	10YR　3/4 暗褐色土主体	ローム粒少量	褐粒微量　玉砂利微量		ややソフト		C微量
P1418	あ 7.5YR　3/3 暗褐色土主体	ローム粒	褐粒		ソフト	焼土粒微量	
P1417	あ 7.5YR　3/3 黒褐色土主体	ロームブロック　ローム粒	褐粒		ソフト		C微量
い 7.5YR　3/3 暗褐色土主体	ロームブロック	褐粒		ソフト	焼土粒微量	C少量
P1403	あ 7.5YR　3/3 黒褐色土主体	ロームブロック　ローム粒	褐粒	ややソフト	焼土粒	C少量
い 7.5YR　3/3 暗褐色土主体	ロームブロック　ローム粒	褐粒		ソフト		C微量
う 7.5YR　3/3 暗褐色土主体	ロームブロック	褐粒	基盤礫	ソフト		C少量
P1399	あ 7.5YR　3/3 暗褐色土主体	ロームブロック	褐粒	ソフト		C少量
P1397	あ 7.5YR　4/4 褐色土主体		褐粒	ハード　全面粘土質	焼土粒微量	C微量
P1393	あ 7.5YR　3/3 暗褐色土主体	ロームブロック多量　ローム粒		ややハード	焼土粒	C少量
P1392	あ 7.5YR　3/3 黒褐色土主体	ローム粒	褐粒	ソフト	焼土粒	C少量
P972	あ 10YR　4/4 褐色土主体	ロームブロック・ローム粒中量	褐粒微量	基盤礫微量	ややハード	焼土粒微量	C微量
P894	へ 10YR　3/4 暗褐色土主体	ローム粒少量　火山灰多量	小礫微量　褐粒微量		ややハード		C微量

第4図　調査区土層堆積図－2

表2　19M7～10、19L7～9東西セクション南壁土層（B～B'）

	I－1	10YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒微量	礫粒　玉砂利微量	基盤粒少量	ややソフト		C微量
	II－1	10YR	3/2 黒褐色土主体	ローム粒中量	礫粒　玉砂利微量		ややソフト	焼土粒	C微量
	2	10YR	4/4 ローム主体	黒褐色土少量　火山灰	礫粒　玉砂利微量		ややハード	焼土粒	
	3	10YR	3/2 黒褐色土主体	ローム粒	礫粒微量		ソフト	焼土粒	C
	4	10YR	3/3 ローム主体	黒褐色土少量			ややソフト	焼土粒微量	C
	5	10YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒少量　火山灰微量			ソフト	焼土粒	C
	6	10YR	4/4 ローム主体	火山灰微量　黒褐色土少量	礫粒		ややソフト　粘質土		C
	7	10YR	3/3 暗褐色土主体	ロームブロック・ローム粒少量	礫粒		ややソフト	焼土粒微量	C
	8	10YR	3/3 暗褐色土主体			基盤粒少量	ソフト		
	9	10YR	3/3 暗褐色土主体	ロームブロック中量　ローム粒	礫粒	基盤粒少量	ややソフト	焼土粒微量	C
	10	10YR	2/3 黒褐色土主体		礫粒	基盤粒微量	ソフト		C少量
	IV－1	10YR	7/1 黒褐色土主体	ロームブロック中量　ローム粒	礫粒微量		ソフト		C多量
	2	8YR	2/2 火山灰主体	ロームブロック中量　ローム粒			ソフト	焼土粒微量	C
	V－1	10YR	5/6 ローム主体	黒褐色土少量	礫粒	基盤礫微量	ハード		C微量
	2	10YR	4/3 にぶい黄褐	火山灰少量			ソフト　全面粘土質		
	3	10YR	4/6 ローム主体		礫粒	基盤粒	ソフト		C微量
	4	10YR	4/3 ローム主体		礫粒	基盤粒	ややソフト	焼土粒微量	C少量
	5	10YR	4/4 褐色土主体		礫粒微量	基盤粒少量	ややソフト	焼土粒微量	C
	6	10YR	3/4 暗褐色土主体		礫粒微量	基盤粒	ハード		C少量
溝	あ	10YR	3/2 黒褐色土主体	ローム粒　火山灰微量	礫粒	基盤粒	ソフト	焼土粒　骨片微量	C
	い	10YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒少量	礫粒		ややソフト	焼土粒　骨片微量	C中量
溝50	あ	10YR	2/3 黒褐色土主体		礫粒少量	基盤粒やや多	ソフト	焼土粒少量	
	い	10YR	3/3 暗褐色土主体		礫粒少量	基盤粒少量	ソフト		
	う	10YR	3/3 暗褐色土主体	ロームブロック少量	礫粒少量　玉砂利少量		ソフト	焼土粒微量	C少量
	え	10YR	2/3 黒褐色土主体		礫粒　玉砂利多量	基盤粒少量	ソフト		C多量
	お	10YR	3/3 暗褐色土主体		礫粒　玉砂利多量	基盤粒少量	ソフト		C少量
	か	10YR	3/3 暗褐色土主体		礫粒	基盤粒	ソフト	焼土粒微量	C少量
	き	10YR	3/2 黒褐色土主体		礫粒少量	基盤粒少量	ソフト	焼土粒微量	C微量
	く	10YR	2/3 黒褐色土主体		礫粒少量		ソフト	焼土粒微量	C少量
	け	10YR	3/3 暗褐色土主体		礫粒少量	基盤粒少量	ソフト	焼土粒微量	C少量
	こ	10YR	3/2 黒褐色土主体	ロームブロック少量	礫粒	基盤粒	ソフト		C微量
	さ	10YR	3/3 暗褐色土主体		礫粒少量	基盤粒少量	ソフト	焼土粒少量	C少量
溝46	イ	10YR	3/3 暗褐色土主体		礫粒	基盤礫少量	ややソフト	焼土粒微量	C少量
	ロ	10YR	3/4 暗褐色土主体	ローム粒少量	礫粒		ザラザラ		C
	ハ	10YR	3/4 暗褐色土主体	ローム粒多量	礫粒		やや粘り有る	焼土粒	C
溝48	あ	10YR	3/4 暗褐色土主体		礫粒		さらさらソフト		C
P626	イ	7.5YR	3/2 黒褐色土主体	ローム多量			ソフト		
P615	イ	7.5YR	3/2 暗褐色土主体	ローム多量		基盤粒	ソフト		
P610	イ	7.5YR	3/2 黒褐色土主体	ローム多量		基盤粒	ソフト		

表3　19L3・8・13・23、20L3・8南北セクション東壁土層（C～C'）

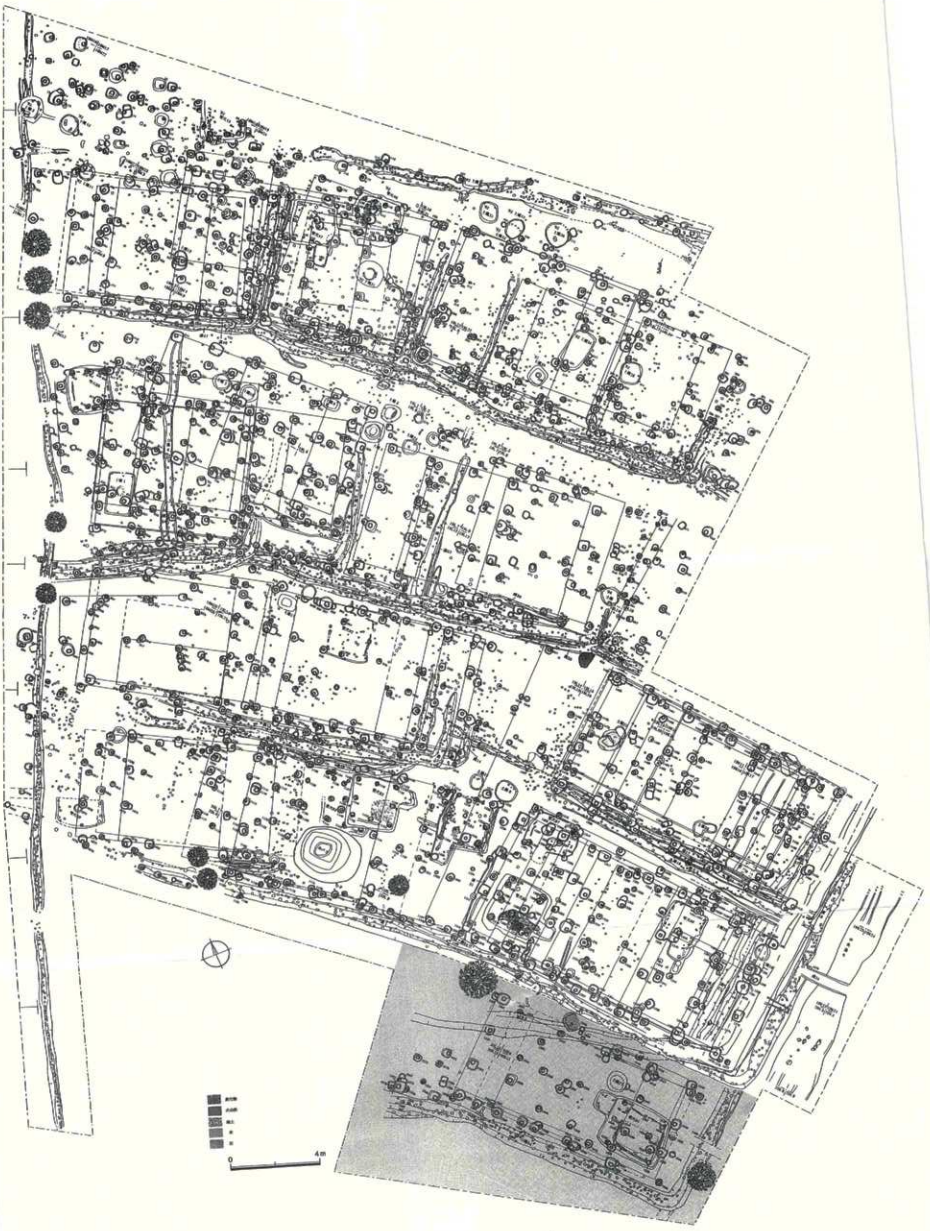
	I－1	10YR	2/3 黒褐色土主体	ローム粒微量	礫粒少量　玉砂利微量		ソフト		C少量
	2	10YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒	礫粒	基盤粒	ややハード		C微量
	II－1	10YR	3/3 暗褐色土主体	火山灰微量			ややソフト	焼土粒微量	
	2	10YR	4/3 褐色土主体	ローム粒　火山灰微量		基盤粒	ややハード		C少量
	3	10YR	4/4 褐色のロームブロック状		礫粒		ハード	焼土粒微量	C微量
	III－1	10YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒			ソフト		C微量
	2								
	3	10YR	3/2 黒褐色土主体	ローム粒少量	礫粒少量	基盤粒少量	ややソフト		C少量
	4	10YR	5/6 ローム主体		礫粒中量	基盤礫少量	ハード	焼土粒微量	C微量
	5	10YR	4/6 ローム粒主体	暗褐色土（10YR3/3）少量	礫粒少量	基盤粒微量	ややハード		C微量
	6	10YR	4/4 褐色土主体	ローム粒　火山灰少量	礫粒		ややソフト		C少量
	IV－1	10YR	4/6						
	2	10YR							
	3	10YR	4/6 ローム主体	暗褐色土（10YR3/4）少量	礫粒少量	基盤粒	ハード	焼土粒微量	C微量
	4	10YR	4/4 ハードローム主体				ハード		
溝7	イ	10YR	3/4 暗褐色土主体	ローム粒	礫粒	基盤粒	ややソフト		C微量
溝10	あ	10YR	2/3 黒褐色土主体	ローム粒　火山灰少量	礫粒		ややソフト	焼土粒微量	C少量
	い	10YR	2/3 黒褐色土主体	ローム粒	礫粒		ややソフト		Cやや多
	う	10YR	2/3 黒褐色土主体	ローム粒　火山灰少量	礫粒	基盤粒	ややソフト		C少量
	え	10YR	4/4 褐色土主体	ローム粒　火山灰微量	礫粒	基盤粒	ソフト		C少量
	お	10YR	5/4 黄褐色ハードローム主体	火山灰やや多		基盤粒	ややハード		Cやや多
溝57	イ	10YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒	礫粒		ややソフト		C多量
	ロ	10YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒　火山灰多量	礫粒		ソフト		Cやや多
溝37	あ	10YR	3/2 黒褐色土主体	ローム粒微量	礫粒	基盤粒	ややソフト	骨片	C微量
	い	10YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒少量	礫粒	基盤粒	ややソフト	焼土粒微量	C少量
	う	10YR	2/3 黒褐色土主体	ローム粒微量	礫粒	基盤粒	ややソフト		C微量
	え	10YR	2/3 黒褐色土主体	ローム粒	礫粒	基盤粒	ソフト	骨片微量	C少量
	お	10YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒　火山灰微量　ロームブロック	礫粒		ややソフト	焼土粒微量	C
溝38	イ	10YR	2/3 黒褐色土主体	ローム粒微　火山灰多量	礫粒		ややソフト	焼土粒微量	C
溝40	あ	10YR	5/6 ローム主体		礫粒中量　基盤礫少量	基盤粒	ハード	焼土粒微量	C
溝14	あ	10YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒少量	礫粒主体　玉砂利微量	基盤粒微量	ややソフト	焼土粒微量	C微量
	い	7.5YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒少量	礫粒微量　玉砂利微量	基盤粒微量	ややソフト	焼土粒微量	C微量
溝1	あ	10YR	3/2 黒褐色土主体	ローム粒微量			ソフト	焼土粒微量	
	い	10YR	4/6 褐色土主体	ロームブロック			ややソフト		
	う	10YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒			ソフト	焼土粒微量	
	え	7.5YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒			ソフト	焼土粒微量	C微量
	お	7.5YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒やや多い			ソフト		
P324	い	10YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒	礫粒		ややソフト		C微量
P614	イ	10YR	2/3 黒褐色土主体	ローム粒	礫粒	基盤粒	ソフト	焼土粒微量	Cやや多
P619	イ	10YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒　火山灰微量	礫粒		ややハード	焼土粒微量	C微量
	ロ	10YR	4/3 黄褐色土主体	ローム粒　火山灰やや多い	礫粒		ややソフト		Cやや多
	ハ	10YR	4/6 褐色ローム主体	火山灰やや多い			ハード		C少量
P1045	イ	10YR	4/6 ローム主体	火山灰微量　暗褐色土（10YR3/4）少量	礫粒微量	玉砂利微量	ハード		C少量
P1033	イ	10YR	3/3 黒褐色土主体	ロームブロック中量　ローム粒	礫粒微量	基盤礫微量	ややハード		C微量
P1159	イ	10YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒微量	礫粒少量　玉砂利微量		ソフト		C少量
	ロ	10YR	4/6 ローム主体	暗褐色土（10YR3/3）少量	礫粒微量		ややハード		C微量
P683	イ	7.5YR	4/2 灰褐色土主体	ロームブロック　火山灰			ソフト		

表4　20K11～13東西セクション南壁土層（D～D'）

Ⅰ										
Ⅱ－	1	10YR	3/4 暗褐色土主体		礫粒少量		基盤粒やや多	ややハード	焼土粒微量	C微量
	2	10YR	3/3 暗褐色土主体		礫粒少量		基盤粒やや多	ややハード	焼土粒微量	C微量
	3	10YR	3/4 暗褐色土主体		礫粒少量		基盤粒やや多	ややハード	焼土粒少量	C微量
	4	10YR	2/2 黒褐色土主体		礫粒微量		基盤粒やや多	ややソフト		C少量
	5	10YR	3/4 暗褐色土主体		礫粒微量		基盤粒少量	ややソフト		C少量
	6	10YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒少量	礫粒やや多い		基盤粒	ややソフト	焼土粒微量	C少量
竪穴31	1	10YR	3/3 暗褐色土主体		礫粒微量		基盤粒やや多	ややソフト	焼土粒微量	C微量
	2	10YR	2/3 黒褐色土主体		礫粒微量		基盤粒やや多	ややソフト		C微量
	3	10YR	2/2 黒褐色土主体				基盤粒やや多	ソフト	焼土粒・骨片微量	C少量
	4	10YR	2/3 黒褐色土主体				基盤粒やや多	ややハード	焼土粒微量	C少量
	5	10YR	3/4 暗褐色土主体		礫粒少量		基盤粒やや多	ややソフト	焼土粒微量	C微量
	6	10YR	4/4 褐色土主体			基盤礫少量	基盤粒やや多			
	7	10YR	3/4 暗褐色土主体		礫粒少量	基盤礫少量	基盤粒やや多	ややソフト	焼土粒微量	C少量
	8	10YR	3/3 暗褐色土主体				基盤粒やや多	ソフト	焼土粒微量	Cやや多
	9	10YR	4/4 褐色土主体				基盤粒やや多	ややハード	焼土粒微量	C微量
	10	10YR	4/4 暗褐色土主体				基盤粒やや多	ややハード		C微量
	11	10YR	4/4 褐色土主体			基盤礫多量	基盤粒多量	ややソフト	焼土粒微量	C微量
	12	10YR	3/4 暗褐色土主体	礫	礫粒微量	基盤礫やや多	基盤粒やや多	ややソフト	焼土粒微量	C少量
	13	10YR	3/3 暗褐色土主体		礫粒微量		基盤粒やや多	ソフト	焼土粒微量	C微量
	14	10YR	3/4 暗褐色土主体		礫粒微量		基盤粒やや多	ややソフト		C少量
	15	10YR	3/3 暗褐色土主体		礫粒微量	基盤礫少量	基盤粒やや多	ややソフト		C少量
	16	10YR	3/4 暗褐色土主体		礫粒微量		基盤粒やや多	ややソフト		Cやや多
	17	10YR	4/4 褐色土主体		礫粒少量	基盤礫少量	基盤粒多量	ややソフト		C少量
	18	10YR	4/4 暗褐色土主体		礫粒少量	基盤礫やや多	基盤粒やや多	ソフト	焼土粒微量	Cやや多
	19	10YR	3/4 暗褐色土主体			基盤礫やや多	基盤粒やや多	ソフト		C少量
	20	10YR	3/3 暗褐色土主体		礫粒少量		基盤粒やや多	ややソフト		C微量
溝	イ	10YR	2/3 黒褐色土主体		大礫		基盤粒少量	ややソフト		C微量
	ロ	10YR	3/4 暗褐色土主体				基盤粒やや多	ややソフト	焼土粒微量	Cやや多
	ハ	10YR	3/3 暗褐色土主体			基盤礫やや多	基盤粒やや多	ややソフト		C微量
	ニ	10YR	3/3 暗褐色土主体		礫粒少量		基盤粒やや多	ソフト		C微量
溝56	あ	10YR	4/4 褐色土主体	白色火山灰10%	礫粒微量		基盤粒少量	ややソフト	焼土粒微量	C微量
	い	10YR	3/3 暗褐色土主体		礫粒少量		基盤粒少量	ソフト		C少量
	う	10YR	4/4 褐色土主体		礫	基盤礫多量	基盤粒多量	ややソフト		Cやや多
	え	10YR	4/4 褐色土主体			基盤礫多量	基盤粒多量	ややソフト		C微量
P1523	あ	10YR	3/3 暗褐色土主体	ロームブロック少量	白色火山灰		基盤粒やや多	ソフト	焼土粒微量	C少量
	い	10YR	3/4 暗褐色土主体			基盤礫少量	基盤粒やや多	ソフト		C少量
	う	10YR	3/4 暗褐色土主体	ロームブロックやや多い	礫粒少量		基盤粒やや多	ソフト		C少量

表5　19K11・16・21、20K1・6・11南北セクション東壁土層（E～E'）

Ⅰ－	1	10YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒微量	礫粒		基盤粒微量	ややハード		C微量
Ⅱ－	1	10YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒少量	礫粒		基盤粒少量	ややハード		C微量
	2	10YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒少量	礫粒中量	玉砂利微量	基盤粒多量			C微量
	3	10YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒微量	礫粒多量			ややソフト	骨片微量	C微量
	4	10YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒少量	礫粒少量	玉砂利微量	基盤粒少量	ハード		C微量
Ⅲ－	1	10YR	3/4 暗褐色土主体		礫粒中量		基盤粒中量	ややハード		C微量
	2	10YR	4/4 ローム主体		礫粒少量		基盤粒微量	ハード	骨片微量	C微量
	3	10YR	3/4 暗褐色土主体		礫粒		基盤粒	ややソフト		C
	4	10YR	3/4 暗褐色土主体	ローム粒微量	礫粒			ややソフト		C
	5	10YR	3/2 黒褐色土主体		礫粒微量	基盤礫微量	基盤粒多量	ややソフト	焼土粒微量	C
	6	10YR	3/4 暗褐色土主体	ローム粒少量		基盤礫中量	基盤粒中量	ハード		C微量
	7	10YR	4/4 褐色土主体			基盤礫微量	基盤粒微量	ややハード		C微量
	8	10YR	3/4 暗褐色土主体		礫粒微量	基盤礫中量	基盤粒少量	ややソフト	焼土粒微量	C
	9	10YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒微量	礫粒	基盤礫微量	基盤粒少量	ソフト	焼土粒	C
	10	10YR	3/4 暗褐色土主体	ロームブロック少量　ローム粒	礫粒微量		基盤粒微量	ややソフト		C微量
	11	10YR	4/4 ローム主体		礫粒少量	基盤礫中量	基盤粒中量	ハード		C微量
	12	10YR	4/4 ローム主体		礫粒微量	基盤礫少量	基盤粒少量	ハード	焼土粒微量	C
	13	10YR	4/3 にぶい黄褐主体		礫粒			ややハード　粘土質		
	14	7.5YR	3/3 暗褐色土主体		礫粒			ややソフト	焼土粒	
	15	10YR	4/3 にぶい黄褐色主体		礫粒			ややハード　粘土質		
Ⅳ－	1									
	2	10YR	5/6 ローム主体	暗褐色土（10YR3/3）中量	礫粒少量		基盤粒少量	ハード		
竪穴85										
土壙7	イ	10YR	3/2 黒褐色土主体	ローム粒微量		基盤礫微量	基盤粒微量	ソフト	焼土粒微量	C
	ロ									
溝54	あ	10YR	3/3 暗褐色土主体	黒褐色土（10YR2/3）少量	礫粒		基盤粒多量	ややハード	焼土粒微量	C微量
	い	10YR	2/2 黒褐色土主体	ローム微量		基盤礫微量	基盤粒	ややソフト	焼土粒微量	C
	う	10YR	2/3 黒褐色土主体	ローム粒微量	礫粒		基盤粒微量	ソフト		C微量
	え	10YR	3/2 黒褐色土主体		礫粒微量	基盤礫少量	基盤粒	ソフト	焼土粒微量	C
	お	10YR	3/2 黒褐色土主体	ローム粒微量	礫粒微量	基盤礫微量	基盤粒少量	ソフト		C
	か	10YR	4/6 基盤礫主体	黒褐色土（10YR3/2）少量		基盤礫多量	基盤粒多量	ソフト		
溝1	あ	10YR	3/2 黒褐色土主体		礫粒			ソフト		C
	い	10YR	7/2 火山灰主体	暗褐色土（10YR2/3）中量				ソフト		C微量
	う	10YR	3/3 暗褐色土主体	火山灰微量	礫粒	基盤礫微量	基盤粒微量	ソフト		
	え	10YR	3/2 黒褐色土主体	火山灰微量	礫粒少量	基盤礫微量	基盤粒微量	ソフト		C微量
	お	10YR	3/2 黒褐色土主体	ローム粒微量		基盤礫微量	基盤粒微量	ソフト		C
	か	10YR	2/1 黒色土主体	ローム粒少量	礫粒微量		礫粒微量	ソフト		C
	き	10YR	3/2 黒色土主体	ローム粒微量	礫粒微量	基盤礫中量	基盤粒中量	ソフト		C
溝22	あ	10YR	3/2 黒褐色土主体	ローム粒				ややソフト	焼土粒少量	C少量
溝18	イ	10YR	3/2 黒褐色土主体	ローム粒				ややソフト	焼土粒少量	C少量
溝44	あ	10YR	3/2 黒褐色土主体	ローム粒				ソフト	焼土粒微量	C少量
溝17	イ	10YR	3/2 黒褐色土主体	ローム粒				ソフト	焼土粒微量	C少量
P1549	あ	10YR	2/3 黒褐色土主体	ローム粒				ソフト		
	い	10YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒微量	礫粒		基盤粒	ソフト	焼土粒	
	う	10YR	4/4 ローム主体			基盤礫中量	基盤粒中量	ややソフト	焼土粒微量	C
	え	10YR	3/4 基盤主体	ローム粒中量		基盤礫多量	基盤粒多量	ソフト		C微量
P1552	あ	10YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒少量	玉砂利微量	基盤礫中量	基盤粒	ややソフト		C少量
P1340	あ	10YR	3/4 暗褐色土主体		礫粒	玉砂利微量	基盤礫	ソフト		C多量
P1336	あ	10YR	4/6 褐色土主体	全面ローム				粘土質	焼土粒少量	C少量
P1337	あ	10YR	4/6 褐色土主体	ロームブロック				ややハード	焼土粒少量	C少量
P1447	あ	10YR	3/2 黒褐色土主体	ロームブロック	礫粒			ハード　粘土質		C少量
P1446	イ	10YR	4/6 褐色土主体		礫粒			ハード　全面粘土質		C微量
小P(1)	イ	10YR	2/3 黒褐色土主体	ローム粒				ソフト		C微量
	ロ	10YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒			基盤粒	ソフト	焼土粒微量	C
	ハ	10YR	2/3 黒褐色土主体	ローム粒微量		基盤礫少量	基盤粒少量	ソフト		C微量
小P(2)	イ	10YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒			基盤粒	ソフト		C微量
	ロ	10YR	3/4 暗褐色土主体	ローム粒	礫粒微量		基盤粒			C
小P(3)	イ	10YR	3/4 暗褐色土主体	ローム粒微量	礫粒		基盤粒少量			C
小P(4)		7.5YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒	礫粒			ややソフト	焼土粒微量	



第5図　調査区遺跡配置図

表5　19K11・16・21、20K1・6・11南北セクション東壁土層（F～F'）

	I～1	10YR	2/3 黒褐色土主体	ローム粒	火山灰少量	礫粒		基礎粒	ややハード		焼土粒微量	C微量
	II～1	10YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒	火山灰（10YR6/4）多量	礫粒			ややソフト		焼土粒微量	C少量
		2	10YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒		礫粒		ややソフト		焼土粒少量	C少量
	II～1	10YR	3/3 暗褐色土主体	火山灰少量					ややハード			C少量
		2	10YR	3/3 暗褐色土主体	ロームブロック多量		礫粒		ややハード		焼土粒微量	C少量
		3	10YR	3/3 暗褐色土主体			礫粒		ハード			C微量
		4	10YR	4/4 ハードローム土体			礫粒	基礎粒	ハード			C
	IV～1	10YR	2/1 黒色土主体						ソフト			
		2	10YR	4/4 褐色土主体					ソフト			
		3	10YR	4/4 火山灰多量	火山灰多量				ソフト			
		4	10YR	4/4 火山灰主体	暗褐色土若干混じる				ソフト			
		4	10YR	4/3 黄褐色土主体					ソフト			
		5	10YR	4/4 火山灰主体					ソフト			
層7		あ	10YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒		礫粒	基礎粒	ハード		焼土粒少量	C少量
層4		イ	10YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒		礫 礫粒	基礎粒	ややソフト		焼土粒少量	C少量
		ロ	10YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒	火山灰少量	礫 礫粒	基礎粒	ややソフト			C少量
		ハ	10YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒		礫粒		ややソフト			C少量
		ニ	10YR	3/3 暗褐色土主体	ロームブロック ローム粒		火山灰少量 礫粒	基礎粒 基礎粒	ややソフト			C少量
		ホ	10YR	4/4 褐色土主体	ローム粒		礫粒	基礎粒	ソフト			C少量
層65		あ	10YR	3/3 黒褐色土主体	ローム粒	火山灰	礫粒		ややソフト		焼土粒微量	C やや多
		い	10YR	2/3 黒褐色土主体	ローム粒	火山灰多量	礫粒		ソフト			C やや多
層2		a	10YR	2/3 黒褐色土主体	ローム粒		礫粒		ややソフト			
		b	10YR	2/3 黒褐色土主体	ローム粒	火山灰	礫粒		ソフト			C微量
		c	10YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒		礫粒	基礎粒	ソフト			C微量
層37		イ	10YR	2/3 黒褐色土主体	ローム粒		礫粒	基礎粒	ややソフト		焼土粒微量	C微量
		ロ	10YR	2/3 黒褐色土主体	ローム粒	火山灰少量	礫粒	基礎粒	ソフト		焼土粒少量	C少量
		ハ	10YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒		礫粒		ソフト		焼土粒微量	C少量
		ニ	10YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒		礫粒	基礎粒	ソフト			C少量
		ホ	10YR	2/3 黒褐色土主体	ロームブロック ローム粒		礫粒	基礎粒	ソフト		焼土粒微量	C少量
P957		あ	10YR	2/3 黒褐色土主体	ローム粒	火山灰少量	礫粒		ややソフト		焼土粒少量	C少量
		い	10YR	2/3 黒褐色土主体	ローム粒		礫粒		ややソフト		焼土粒少量	C少量
		う	10YR	2/1 黒色土主体	ローム粒		礫粒	基礎粒	ソフト			C

表7　19L11・16南北セクション東壁土層（G～G'）

	I									
	II～1	10YR	2/3 黒褐色土主体	ローム粒	礫粒	基礎粒	ソフト			C微量
		2	10YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒	礫粒	基礎粒	ソフト			C微量
		3	10YR	2/3 黒褐色土主体	ローム粒	礫粒	基礎粒	ソフト			C微量
	III～1	10YR	3/3 黒褐色土主体	ローム粒	礫粒	基礎粒	ややソフト	焼土粒微量		C微量
		2	10YR	3/3 黒褐色土主体	ローム粒	礫粒	基礎粒	ソフト	焼土粒少量		C少量
		3	10YR	3/3 暗褐色土主体		礫粒	基礎粒	ややソフト	焼土粒微量		C微量
	IV～1	10YR	2/1 黒色土主体	火山灰少量				ソフト			
		2	7.5YR	3/3 暗褐色火山灰				ソフト			
		3	7.5YR	2/3 黒褐色火山灰				ソフト			
	V～1	10YR	3/3 暗褐色土				基礎粒	ソフト			C微量
		2	10YR	3/4 暗褐色土		礫粒	基礎粒	ソフト			C微量
		3	10YR	4/4 暗褐色土主体		礫粒	基礎粒微量	ソフト			
		4	10YR	4/4 暗褐色土主体		礫粒	基礎粒微量	ソフト			
		5	7.5YR	4/4 ハードローム土体		炭やや多い	基礎粒	ハード			
		6	10YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒	礫粒	基礎粒	ハード	焼土粒微量		C微量
		7	10YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒	礫粒	基礎粒	ハード	焼土粒やや多		C やや多
段墓土		イ	10YR	3/4 暗褐色土主体	ローム粒	礫粒	基礎粒	ややソフト	焼土粒微量		C微量
		ロ	10YR	3/4 暗褐色土主体	ローム粒	礫粒	基礎粒	ややソフト	焼土粒微量		C微量
墳		イ	10YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒	礫粒	基礎粒	ややソフト			C
		ロ	10YR	2/3 黒褐色土主体	ローム粒	礫粒	基礎粒	ややソフト			C少量
		ハ	10YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒	礫粒	基礎粒	ややソフト			C少量
		ニ	10YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒	礫粒	基礎粒	ややソフト	焼土粒少量		
P1076		あ	10YR	2/3 黒褐色土主体	ローム粒	火山灰少量	礫粒	基礎粒	ソフト			
		い	10YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒	礫粒			ソフト			C やや多
		う	10YR	2/3 黒褐色土主体	ロームブロック ローム粒	礫粒		基礎粒	ソフト			C やや多
P1075		イ	10YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒	礫粒			ソフト			C少量
		ロ	10YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒	礫粒			ソフト			
P1061		あ	10YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒	礫粒		基礎粒	ややソフト			
		い	10YR	3/4 暗褐色土主体	ローム粒	礫粒		基礎粒	ややハード	土器		C微量
		う	10YR	4/4 褐色土主体	ローム粒	礫粒			ややソフト			

(3) 掘立柱建物跡と地割

今年度の調査では39棟の掘立柱建物跡を検出、想定した。溝により画される各地割の遺構変遷を掘立柱建物跡を中心にして一案を示しつつ、各建物跡の概要を述べたい。各遺構に伴う遺物の年代、出土状況などは検討未了の上、直接遺構の切り合いがない土壙、焼土は変遷の検討対象から外している。以上の点からも、以下の記述は、複数考えられる想定案の内の1つであることを了承していただきたい。

第1号建物跡～第5号建物跡：

19L20～19K18区周辺、館中心部を縦貫する中央通路北側に面する地割である。

建物跡以外の遺構に土壙22・26、焼土5がある。又、P667・1049・1052による柱列から塀の存在が考えられる。

遺構の重複関係から溝27以北に位置する比較的小規模の第1号建物跡、第2号建物跡、第3号建物跡の変遷から、溝22・18に画された地割内に桁行六間で複数の部屋を持つ第4号建物跡、第5号建物跡への移行が考えられる。

第1号建物跡（第6図・PL.2－1，3）：19K16区周辺に位置する。桁行四間、梁間三間の建物跡を想定した。平面規模は10.32m×4.83m。柱間寸法は桁行は中央通路側2間が8尺4寸、欄列側2間が8尺6寸、梁間は5尺3寸等間である。東側桁柱列をはじめとし検出できなかった柱穴が多い。中央通路側第2間にP1498、1455による間仕切りが想定され、2室が想定できる。又、P14 75－1485－1498により更に2間×1間の部屋を想定できる。

第2号建物跡（第7図・PL.2－1，3）：19K16区周辺に位置する。溝17により西側を画される桁行四間、梁間三間の建物跡を想定した。平面規模は9.83m×4.61m。

柱間寸法は桁行は1間のみ6尺6寸、他は8尺6寸。梁間は中央通路側と欄列側では異なり、欄列側では7尺6寸等間を想定する。

第3号建物跡（第8図・PL.2－1，3）：19K16区周辺に位置する。溝17により画された桁行三間、梁間三間の建物跡を想定した。平面規模は6.99m×4.43m。桁行、梁間とも各柱間にばらつきが見られ、基本柱間寸法を確定しがたいが、図上では桁行7尺7寸等間、梁間は1間のみ4尺、他は5尺3寸とした。

第4号建物跡（第9図・PL.2－1，3）：19K16区周辺に位置する。溝22により西側を画された地割内に桁行六間、梁間三間の建物跡を想定した。平面規模は11.58m×5.31m。柱間寸法は桁行中央2間は7尺3寸、他は5尺9寸である。中央通路側第2間と第4間に更に、P1430による間仕切りあり、2間×3間、2間×3間、1間×2間、2間×2間の4室を想定した。

遺物は溝18より越前擂鉢（第53図14）、鉄釉皿、鉦（第54図7）などが出土している。

第6号建物跡～第9号建物跡：20L4～19K23区周辺、中央通路北側に面する地割である。遺構は他に第85・86・89号竪穴建物跡がある。又、P1196・1203・1226・1217より成る柱列から塀の存在が考えられる。第85・86・89号竪穴建物跡は第7～9号建物跡より古いと考えられる。第6号建物跡、第7号建物跡、第8号建物跡、第9号建物跡の遺構変遷が考えられる。

第6号建物跡（第11図・PL.6－1）：20K1区周辺に位置する。溝25により南側を画される地割内に、桁行三間、梁間三間の建物跡を想定した。平面規模は6.00m×5.64m。柱間寸法は桁行6尺6寸等間、梁間6尺2寸等間である。欄列側第1間、P1324－1261の柱筋にのるP1339が間仕切りとなって1間×3間、2間×3間の2室を想定できる。

第7号建物跡（第12図・PL.6－1）：20K1区周辺に位置する。溝27により南を画される地割内に桁行四間、梁間三間の建物跡を想定した。9.09m×6.00mの平面規模。柱間寸法は桁行は中央通路側第1間が9尺2寸、中央2間が7尺4寸、欄列側第1間が6尺、梁間は1間が6尺、他は6尺9寸とするが、中央通路側柱列等の状況から6

尺６寸等間と考えてよいのかもしれない。中央通路側第１間と第４間に間仕切りが想定され、１間×３間、２間×３間、１間×３間の３室が想定できる。

第８号建物跡（第13図・PL.６－１）：20Ｋ１区周辺に位置する。桁行六間、梁間三間の建物跡を想定した。平面規模は12.18ｍ×6.27ｍである。柱間寸法は桁行６尺７寸等間、梁間６尺９寸等間。中央通路側第２間と第４間に間仕切りが想定され、１間×３間、３間×３間、１間×２間、２×２間の４室が想定される。

第９号建物跡（第14図・PL.６）：20Ｋ１区周辺に位置する。溝１により西・南側を画される中央通路沿いの地割内に位置する。桁行六間、梁間三間の建物跡を想定した。平面規模は12.42ｍ×5.46ｍ。柱間寸法は、桁行は中央２間が７尺３寸、他は６尺６寸、梁間６尺等間である。中央通路側第２間と第４間に間仕切りがあり、北から２間×３間、２間×３間、１間×２間、２間×２間の四室を想定した。横列側の２間×３間は総柱の部屋と仮定した。中央２間×３間は柱間寸法を変えて部屋を大きくする工夫が見られることから、建物内でも重要な空間であることが考えられる。堀方の平面形は方形を呈し、先行する建物跡のものよりも大きい。また、柱筋の通りも非常に良い。

遺物は溝１より染付皿（第52図18）、瀬戸美濃灰釉皿（第53図７）、白磁端反皿、染付碁笥底皿、瀬戸美濃灰釉丸皿他、Ｐ1265より柱材、Ｐ1259より杭（第54図８，９）などが出土した。

第10号建物跡～第14号建物跡：18Ｌ22～18Ｌ24・19Ｌ４区周辺に位置する。南半分18Ｌ24区に第10号建物跡が他の遺構との新旧関係は不明である。遺構変遷は'92溝13・14に挟まれた通路（PL.11－１・２）と第12号建物跡が併存し、やがて通路を廃絶して溝14を越え桁行方向が長く、柱間寸法も広い、第13号建物跡、第14号建物跡となることが想定される。

第10号建物跡（第15図・PL.10－１，２）：18Ｌ24区周辺に位置する。桁行三間、梁間二間の建物跡を想定した。平面規模は5.37ｍ×4.24ｍ。柱間寸法は桁行は１間のみ６尺９寸、他は５尺４寸であるが、北側も含めて見ると、ばらつきが目立つ。梁間は７尺等間と整っている。

第11号建物跡（第16図・PL.10－１，２）：18Ｌ23区周辺に位置する。桁行三間、梁間二間の建物跡を想定した。平面規模は7.26ｍ×4.24ｍ。柱間寸法は桁行８尺等間、梁間７尺等間である。

第12号建物跡（第17図・PL.10－１，２）：18Ｌ23区周辺に位置する。'92溝14よって西側を、溝11によって南・東側を画される地割内に桁行三間、梁間三間の建物跡を想定した。平面規模は5.28ｍ×5.10ｍ。柱間寸法は桁行５尺８寸等間、梁間５尺６寸等間である。

第13号建物跡（第18図・PL.10－１，２）：18Ｌ22区周辺に位置する。桁行三間、梁間四間の建物跡を想定した。平面規模は8.36ｍ×6.09ｍ。柱間寸法は桁行６尺９寸等間、梁間６尺７寸等間である。中央通路側第１間にＰ244・251による間仕切りがあり、１間×３間、３間×３間の２室が想定される。

第14号建物跡（第19図・PL.10－１，２）：18Ｌ22区周辺に位置する。溝10に画される地割内に桁行四間、梁間三間の建物跡を想定した。平面規模は8.00ｍ×6.00ｍ。柱間寸法は桁行、梁間とも６尺６寸等間である。中央通路側第１間にＰ249・245による間仕切りがあり、１間×３間と３間×３間の２室が想定される。第13号建物跡と同位置・同規模の建て替えと考えられる。

第15号建物跡～第23号建物跡：18M22～19Ｌ１区周辺に位置する。第15～18号建物跡、第46・47号竪穴建物跡がある地割と第19～22号建物跡がある地割に分けられる。最終的には第23号建物跡が両地割を統合して作られたと考えられる。

第15号建物跡（第20図・PL.10－３，４）：19Ｍ５区周辺に位置する。桁行三間、梁間三間の建物跡を想定した。平面規模は6.39ｍ×5.46ｍ。柱間寸法は桁行は１間のみ７尺５寸、他は６尺８寸、梁間は６尺等間である。

第16号建物跡（第21図・PL.10－３，４）：19Ｍ５区周辺に位置する。溝49に北・西側を画される地割内に桁行三間、梁間三間の建物跡を想定した。平面規模は6.00ｍ×5.91ｍ。柱間寸法は桁行６尺６寸等間、梁間６尺５寸等間である。

Ｐ420（第54図１・PL.３－４）掘方に六器鏡が埋納（？）されていた。この建物に関する儀礼行為の一端を示すものと考えられるが、目的、儀礼作法などは不明であり、今後同時代遺跡における類例を探した上で検討したい。

第17号建物跡（第22図・PL.10－３，４）：19M５区周辺に位置する。'92溝13により南側を画される地割内に桁行二間、梁間二間の建物跡を想定した。平面規模は3.58m×3.58m。柱間寸法は桁行、梁間とも５尺９寸等間である。

第18号建物跡（第23図・PL.10－３，４）：19M５区周辺に位置する。'92溝13により画される地割内に桁行二間、梁間二間の建物跡を想定した。平面規模は5.02m×4.64m。柱間寸法は桁行８尺３寸等間、梁間は８尺６寸、７尺６寸を想定するが、P130－412間、P130－197間の様に柱の欠失部もあるため不確定である。

第19号建物跡（第24図・PL.10－４）：19M４区周辺に位置する。桁行三間、梁間二間の建物跡を想定した。柱間寸法は桁行５尺２寸等間、梁間６尺４寸等間である。平面規模は4.74m×3.88m。遺物は、P444の柱痕跡より灰釉丸皿（第53図４，PL.３－６）が出土している。

第20号建物跡（第25図・PL.10－４）：19M３区周辺に位置する。溝48により南側を画される。桁行三間、梁間二間の建物跡を想定した。平面規模は6.72m×4.84m。柱間寸法は桁行７尺４寸等間、梁間８尺等間である。

第21号建物跡（第26図・PL.10－４）：19M３区周辺に位置する。桁行四間、梁間三間の建物跡を想定した。平面規模は8.60m×5.37m。欅列側第１間をP482・472によって仕切られる。柱間寸法は桁行７尺１寸等間、梁間５尺９寸等間である。

第22号建物跡（第27図・PL.10－４）：19M３区周辺に位置する。溝46で南・東側を画された地割内に桁行五間、梁間三間の建物跡を想定した。平面規模は10.00m×5.46m。中央通路側第１間をP448・443で、同第４間をP495・507で仕切る。１間×３間、３間×３間、１間×３間の３室を想定。柱間寸法は桁行は１間のみ６尺２寸、他は６尺７寸、梁間６尺等間である。

遺物はP425より白磁皿、灰釉皿（第52図６、第53図１）、染付糸底皿が出土している。

第22号建物跡は比較的新しい時代に位置づけられそうな建物跡だが、P425から出土した陶磁器は、15世紀後半～16世紀初頭に位置づけられるもので、勝山館跡出土陶磁器の中では古いグループに属する。遺構と遺物の年代関係を考える上で、今後検討を要する事例である。

第23号建物跡（第28図・PL.10－３）：19M４区周辺に位置する。桁行四間、梁間三間の建物跡を想定した。平面規模は8.00m×6.00m。P107・421による間仕切りがある。柱間寸法は桁行、梁間とも６尺６寸等間である。

第24号建物跡、第25号建物跡：19L７～14区周辺に位置する地割である。溝３、４により挟まれる通路がある（PL.11－1）。これらの溝は、建物区画溝との兼用であり、溝36・53・52もそれらに類するものと考えられる。また、P556・571・714・712とP585・573・703・708からなる柱列から塀の存在も想定できる。遺構変遷は、ほぼ方形に近い第24号建物跡と溝３、４に挟まれた通路の併存、その後、通路を廃絶して桁行方向が長い第25号建物跡への移行が考えられる。

遺構は他に土壙24・25がある。

第24号建物跡（第29図・PL.９－３，４）：19L８区周辺に位置する。溝３により北側を画される地割内に桁行三間、梁間三間の建物跡を想定した。平面規模は6.00m×5.73m。柱間寸法は桁行６尺６寸等間、梁間６尺３寸等間である。

遺物は溝３より、染付端反口縁碗・直口縁碗、灰釉端反皿、鉄釉輪高台碗などが出土している。

第25号建物跡（第30図・PL.９－３，４）：19L８区周辺に位置する。溝37により西側を画される地割内に桁行五間、梁間三間の建物跡を想定した。柱間寸法は桁行６尺２寸等間、梁間６尺等間である。平面規模は9.40m×5.46m。中央通路側第２間にP595・676、同第４間にP572・701による間仕切りがあり、２間×３間を２室、１間×３間の３室を想定した。柱穴は方形を呈するものが多く、やや大きめである。

遺物はP601より青磁香炉片（第52図２）が出土している。溝37より白磁皿（第52図11）、灰釉端反皿、染付皿、越前擂鉢などが出土している。またP668には柱材が遺っていた。

第26号建物跡～第30号建物跡：寺ノ沢側の欅列に接する19M14～19L６・11区周辺に位置する地割である。19M14区周辺に位置する溝６で画された地割に伴う建物跡は想定できなかった。桁行方向が長い第26号建物跡があり、その後溝で画し、第27号建物跡、桁行梁間とも三間の第28号建物跡とその同規模の立て替え第29号建物跡が建てられる。溝７で画する地割を作り桁行方向に長い第30

号建物跡へ移行すると考えられる。遺構は他に土壙1・2・4・5・9・18がある。

第26号建物跡（第31図・PL.9－1，2）：19K15区周辺に位置する。桁行四間、梁間三間の建物跡を想定した。平面規模は8.78m×4.63m。柱間寸法は桁行は1間のみ8尺、他は7尺、梁間は1間のみ3尺5寸、他は5尺9寸である。P760－P797柱筋にのるP779、P534－P788柱筋にのるP770、P547－P749柱筋にのるP739は棟を支えるための柱と考えられる。或いは、これらの柱が間仕切りの機能も果たしていたとするならば、1間×3間の部屋を4つ連ねた間取を想定できる。

第27号建物跡（第32図・PL.9－1，2）：19M14区周辺に位置する。溝34に南西側を画される地割り内に桁行四間、梁間三間の建物跡を想定した。平面規模は6.00m×6.80m。P810・818による間仕切りがあり、3×3間、1×3間の2室を想定した。或いは、桁行三間、梁間三間の棟建物に西側に外屋が付いたものとも考えられる。柱間寸法は桁行5尺6寸等間、梁間6尺6寸等間である。

第28号建物跡（第33図・PL.9－1，2）：19M14区周辺に位置する。溝5に南側を画される桁行三間、梁間三間の建物跡を想定した。平面規模は6.81m×5.61m。柱間寸法は桁行7尺5寸等間、梁間は1間のみ5尺3寸、他は6尺6寸である。

第29号建物跡（第34図・PL.9－1，2）：19M14区周辺に位置する。溝5に画される桁行三間、梁間三間の建物跡を想定した。平面規模は6.36m×5.46m。柱間寸法は桁行7尺等間、梁間6尺等間である。第28号建物跡とほぼ同位置・同規模の建て替えである。

遺物は溝5から青磁稜花皿が出土している。

第30号建物跡（第35図・PL.9－1，2）：19M10区周辺に位置する。溝7により南西方向を画される地割内に桁行五間、梁間三間の建物跡を想定した。平面規模は9.40m×5.10m。柱間寸法は桁行6尺2寸等間、梁間は1間のみ6尺2寸、他は5尺3寸である。梁間楯列側では1間のみ6尺2寸、他は5尺3寸である。中央通路側では等間に近い柱配置となっているので、或いは5尺6寸等間と想定できる。中央通路側第1間にP562・733、同第3間P531・765による間仕切りがあり、北から2間×3間、2間×3間、1間×3間の3室を想定できる。P513・807に楔石を入れている。これは、19M14付近ではⅣa層を掘り込んで柱穴を作っているため、地盤が軟弱であり柱の沈下がしやすいため行った措置と思われる。柱穴の掘方は方形を呈し大きいが、柱通りに乱れが多い。P741より柱材が出土した（第59図2）。

第31号建物跡～第34号建物跡：19M25～19L18・23区周辺に位置する。第31・32号建物跡は棚列跡寄り、第33・34号建物跡は中央通路寄りに位置するので、或いは2つの地割とすべきなのかもしれない。他に第32号竪穴建物跡、土壙17がある。棚列個よりに配置された第31号建物跡から32号建物跡。さらに建物の配置場所を中央通路側に移動して第32号建物跡から、第33号建物跡への遺構変遷が考えられる。またP1017・1029・1040、P914・920・938などによる柱列があるので、塀の存在、或いは建物跡が想定される。

第31号建物跡（第36図・PL.8－2，4）：19M25区周辺に位置する。桁行三間、梁間三間の建物跡を想定した。平面規模は6.42m×5.19m。柱間寸法は、桁行は中央通路側第1間のみ6尺6寸、他は7尺3寸、梁間5尺7寸等間である。

第32号建物跡（第37図・PL.8－2，4）：19M25区周辺に位置する。桁行四間、梁間三間の建物跡を想定した。平面規模は7.64m×5.37m。柱間寸法は桁行6尺3寸等間、梁間5尺9寸等間である。P919により中央で2間×3間二つに仕切られる事が考えられる。又、P921もP889・919・929の柱筋上にあり、P921・937・977の柱筋も想定できそうである。或いは、2間×3間、2間×2間、2間×1間の3室の存在を考えることもできる。

第33号建物跡（第38図・PL.8－2，4）：19L17区周辺に位置する。溝14に南・東側を画される地割内に桁行四間、梁間三間の建物跡を想定した。平面規模は8.00m×5.46m。柱間寸法は桁行6尺6寸等間、梁間6尺等間である。中央通路側第1間にP1028・1032による間仕切りがあり、1間×3間、3間×3間の2室が想定できる。

第34号建物跡（第39図・PL.8－2，4）：19L7区周辺に位置する。溝13により南・西側を画される地割内に桁行五間、梁間三間の建物跡を想定した。平面規模は9.79m×5.37m。柱間寸法は桁行は6尺6寸、梁間5尺9寸等間である。四間

×三間の建物であったが、区画溝13を越えて1間分増築したことが考えられる。また、P972とP967間に、削平の為検出できなかった柱穴を想定すると、図のように1間×3間、3間×3間の2部屋となることが考えられる。この間取りは、第13・14号建物跡に共通している。

第35号建物跡～第37号建物跡：20M10～20L3・4区周辺に位置する。後述の大型井戸跡を検出した地割である。井戸跡と建物跡との関係は、今後の検討を必要とする。他に遺構は、第83・93号竪穴建物跡がある。遺構変遷は、第93号竪穴建物跡から第83号竪穴建物跡へ、井戸跡を覆う（？）様な位置にある第35・36号建物跡からやや北にずれて溝41で画される第37号建物跡に移行すると考えられる。

第35号建物跡（第40図・PL.7－1，2）：20L2区周辺に位置する。桁行四間以上、梁間三間の建物跡を想定した。平面規模は8.00m×5.73m。柱間寸法は桁行6尺6寸等間、梁間6尺3寸等間である。構側第1間にP1111・1121による柱列があり間仕切りとも考えられる。

第36号建物跡（第41図・PL.7－1，2）：20L2区周辺に位置する。桁行三間、梁間三間の建物跡を想定した。平面規模は6.00m×5.82m。柱間寸法は桁行6尺6寸等間、梁間5尺8寸等間である。井戸跡を覆うような位置にあり、井戸の上屋と考えることもできるが、現段階では保留としておきたい。

第37号建物跡（第42図・PL.7－1，3）：20L1区周辺に位置する。溝41で西側を画する地割り内に桁行四間、梁間三間の建物跡を想定した。平面規模は8.45m×4.83m。柱間寸法は桁行は構列側1間のみ6尺3寸、他は7尺2寸、梁間は5尺3寸等間である。構列側第1間にP1073・1086による間仕切りがある。更に中央通路側第1間、P1192－1104柱筋上にのるP1119があり、その間にも柱穴を想定し間仕切りの柱列があるとすれば、中央通路側から1間×3間、2間×3間、1間×3間の3室が考えられる。井戸跡をかわす様な位置にある。

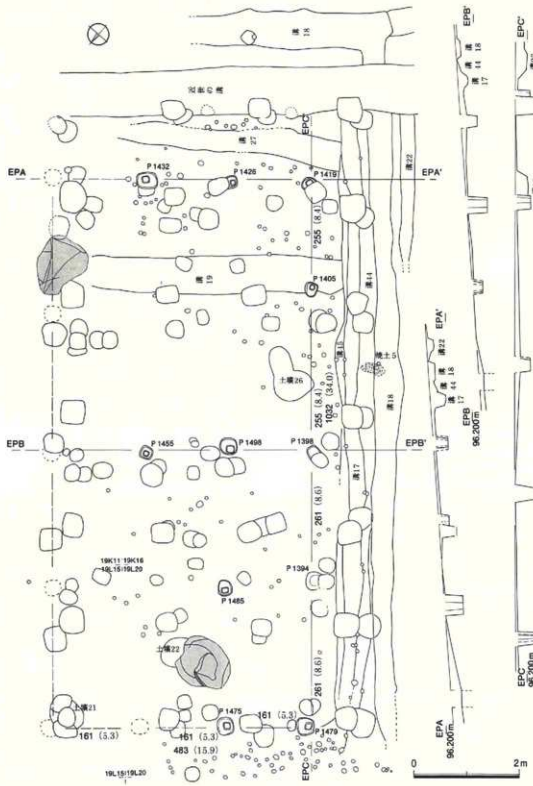
第38号建物跡、第39号建物跡：本地割は調査期間の都合上、十分な調査を行えなかった。従って柱穴を想定しつつも検出できなかったり、柱筋の一部を見つけつつも建物跡として想定しきれなかったものもある。

この地割内に存在する建物跡は、同じ中央通路に面する第8・9号建物跡等よりも梁間の柱間寸法がやや短い傾向がある。これはこの地割の幅が隣接する地割より狭いことに起因する現象と考えられる。遺構は他に第91号竪穴建物跡、土壙27がある。遺構変遷は第38号建物跡から第39号建物跡へと考えられる。

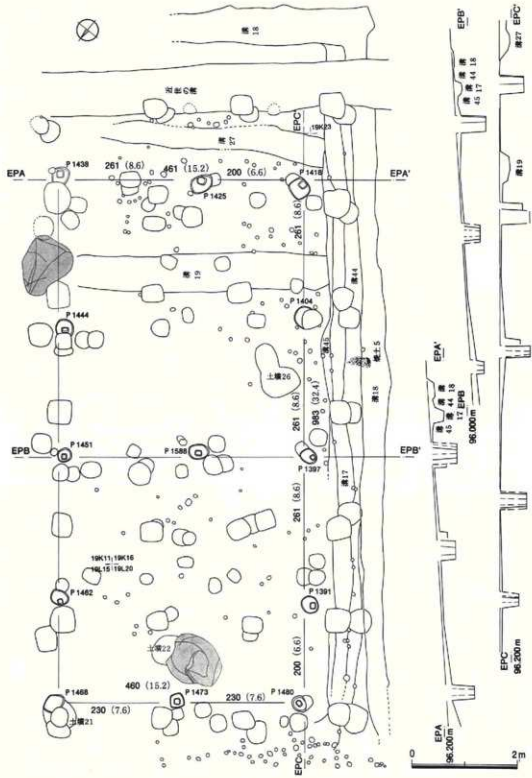
第38号建物跡（第43図）：20K12区周辺に位置する。桁行四間以上、梁間三間の建物跡を想定した。平面規模は8.72m以上×4.26m。柱間寸法は桁行7尺2寸等間、梁間4尺7寸等間である。5間目の柱を検出できなかったので、梁間方向の柱穴を調査不足で未検出とすれば、図上で想定したように桁行四間までの建物かもしれない。

第39号建物跡（第44図）：20K12区周辺に位置する。溝54に南と西側を画される中央通路沿いの地割内に桁行五間、梁間三間の建物跡を想定した。平面規模は9.10m×4.83m。中央通路側第1間と第4間に間仕切りがあり、1間×3間、3間×3間、1間×3間の3室が想定できる。柱間寸法は桁行6尺等間、梁間5尺3寸等間である。

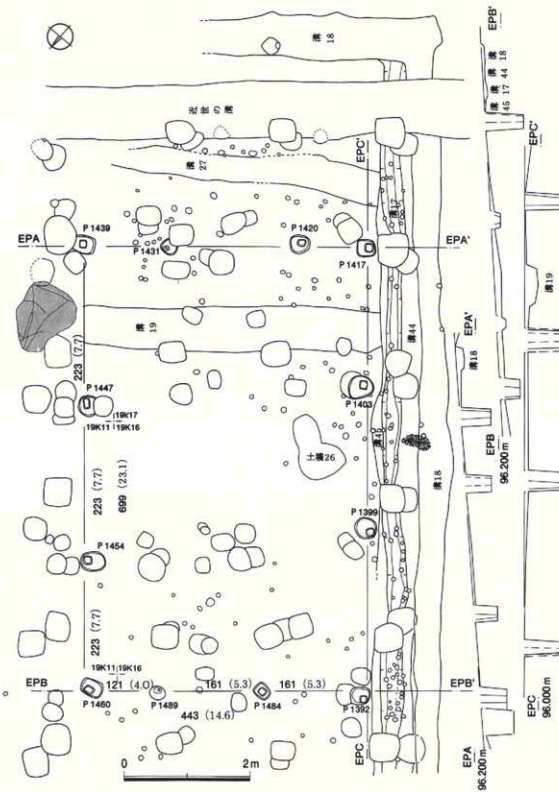
遺物は溝54から染付皿（第52図17）、青磁碗、白磁端反皿、鉄釉輪高台碗、越前擂鉢他多数出土している。（松田）



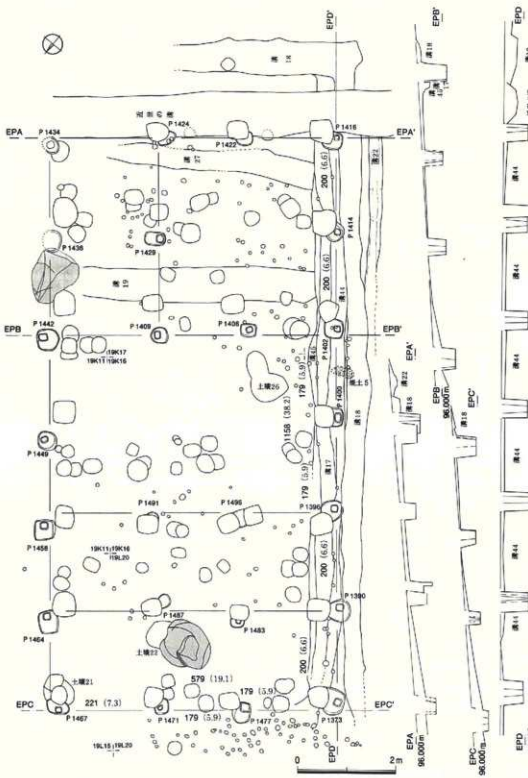
第 6 図　第 1 号建物跡想定図



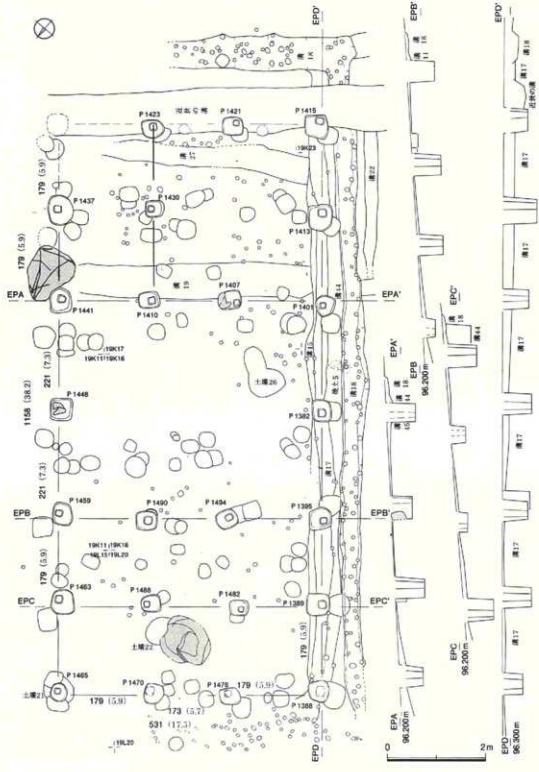
第7図　第2号建物跡想定図



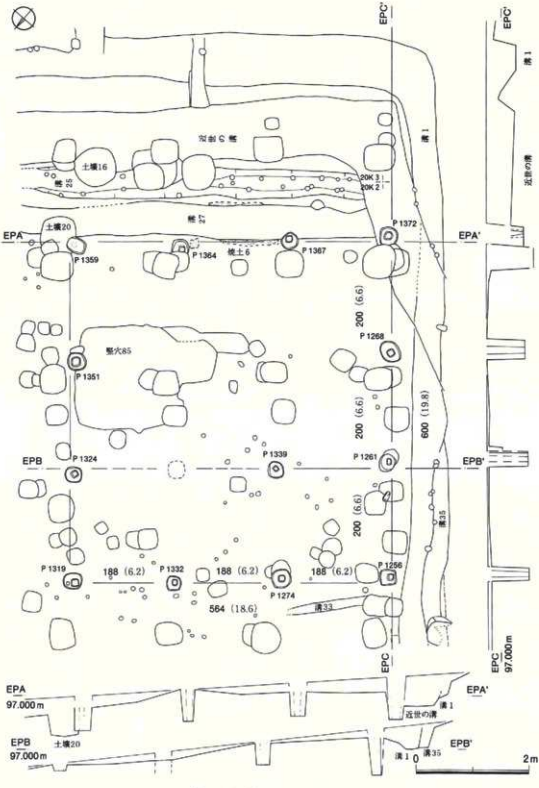
第8図　第3号建物跡想定図



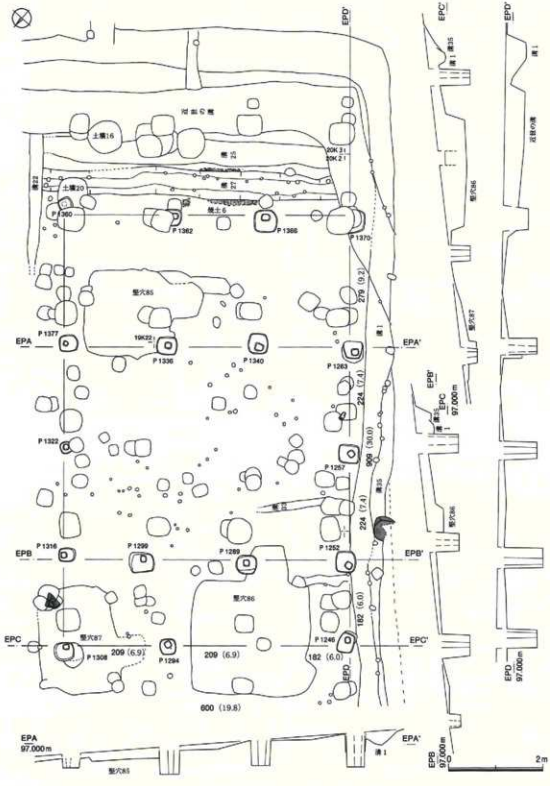
第9図　第4号建物跡想定図



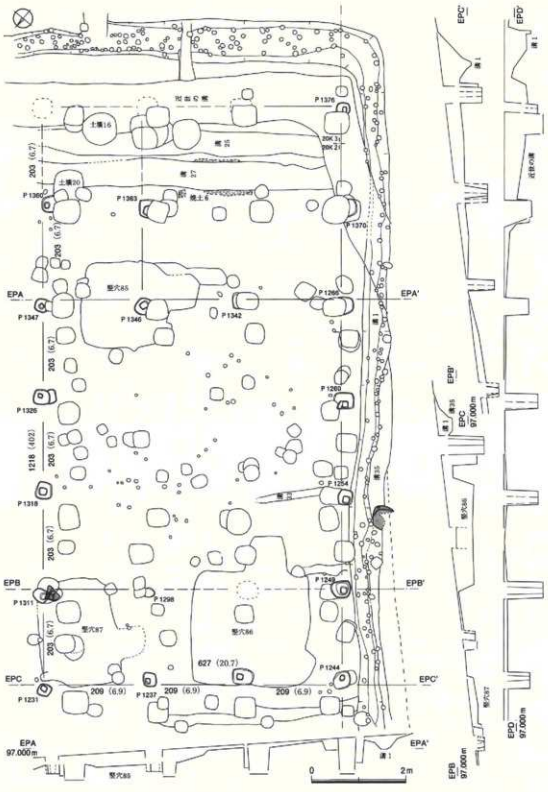
第１０図　第５号建物跡想定図



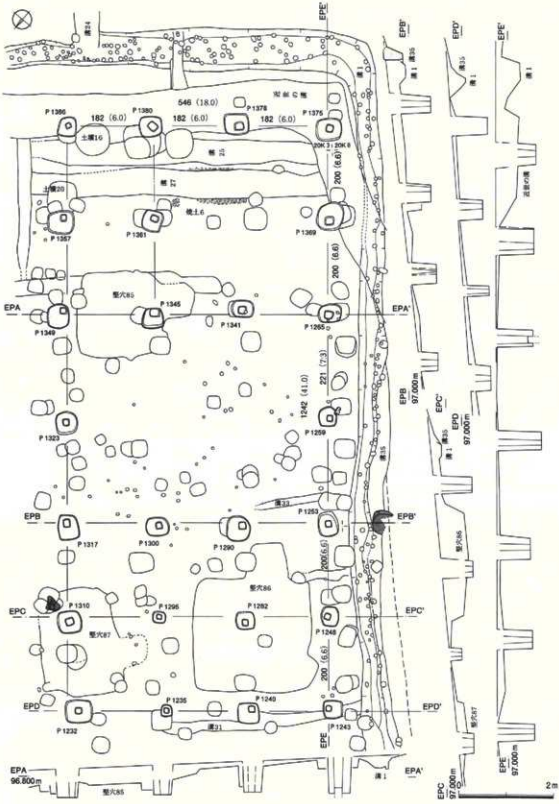
第11図　第6号建物跡想定図



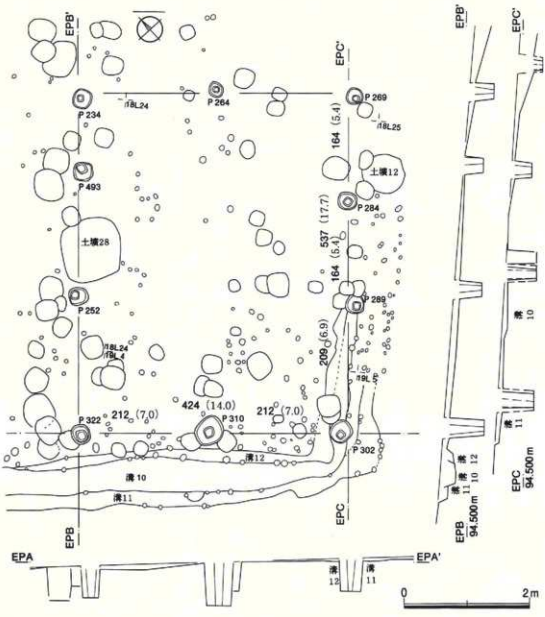
第１２図　第７号建物跡想定図



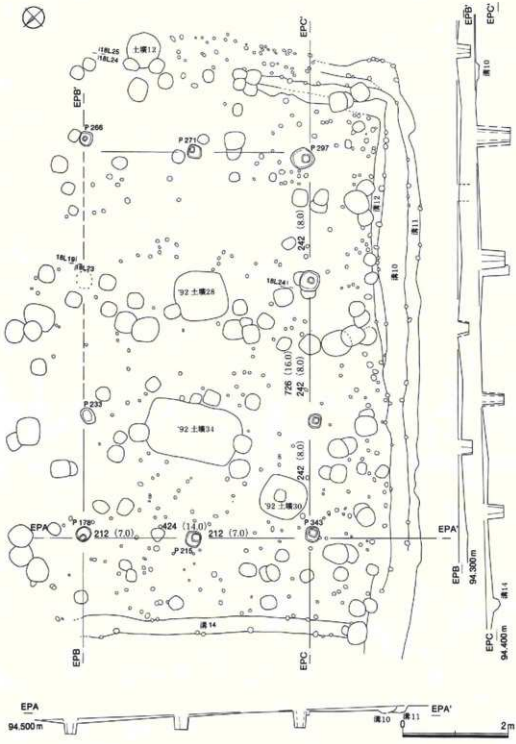
第１３図　第８号建物跡想定図



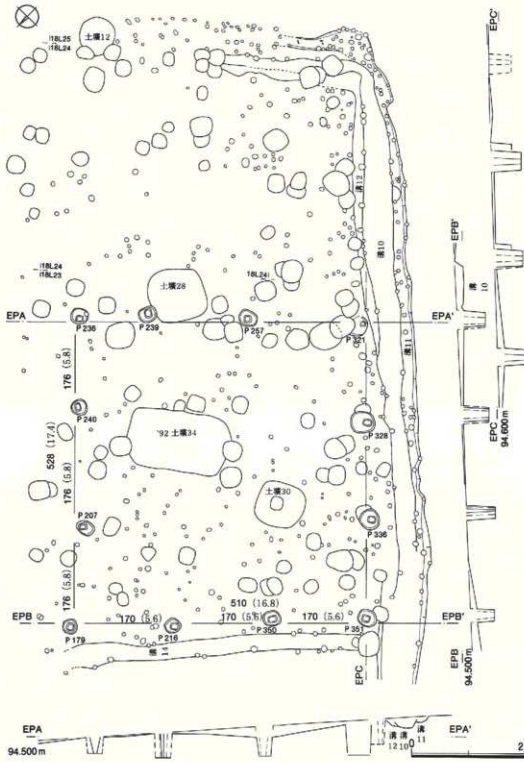
第１４図　第９号建物跡想定図



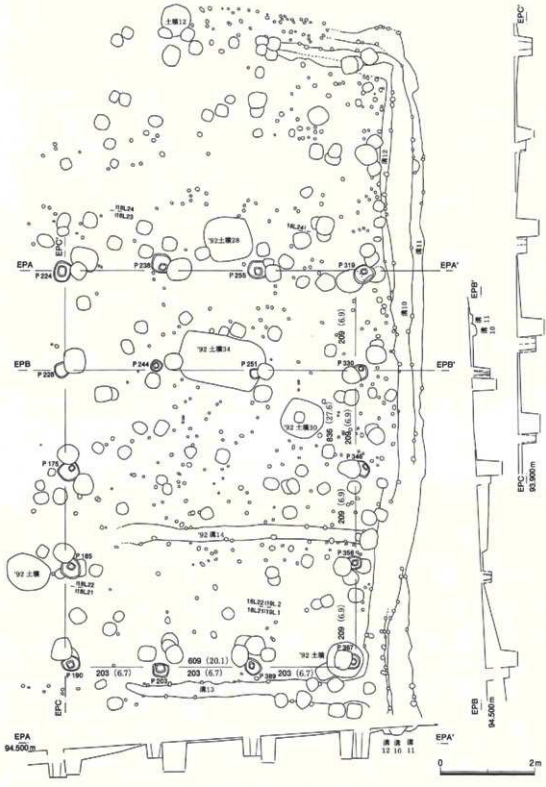
第１５図　第１０号建物跡想定図



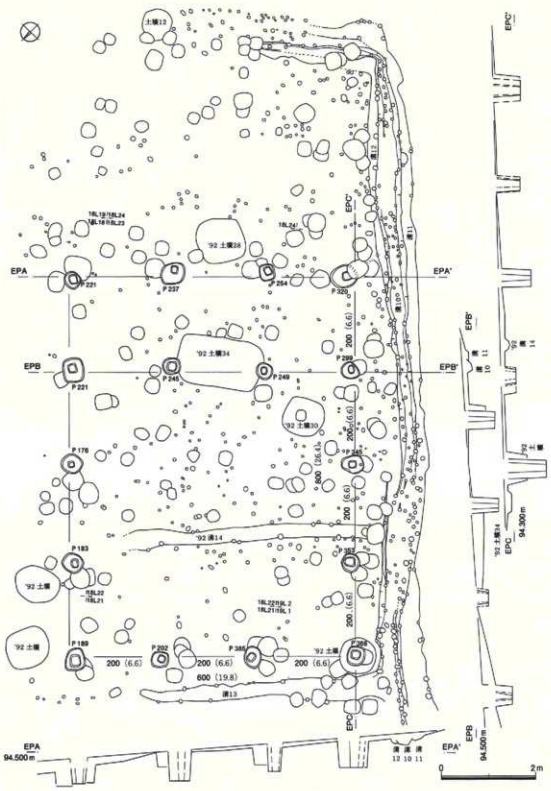
第１６図　第１１号建物跡想定図



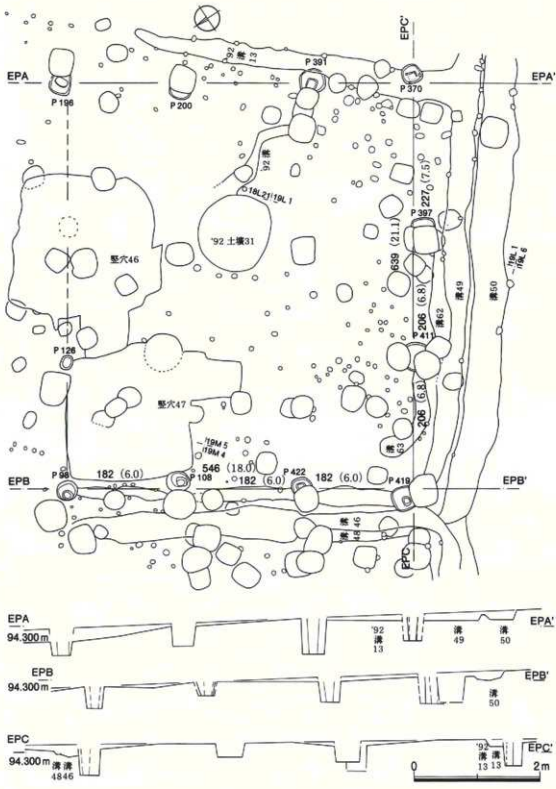
第１７図　第１２号建物跡想定図



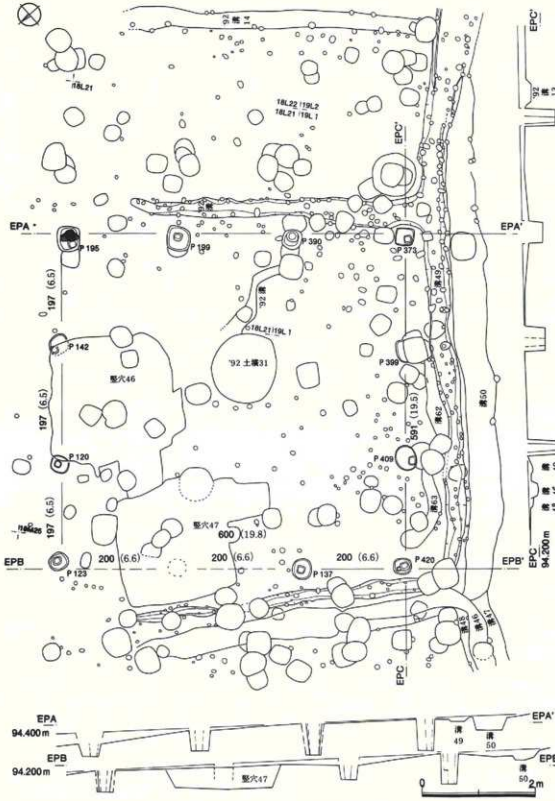
第１８図　第１３号建物跡想定図



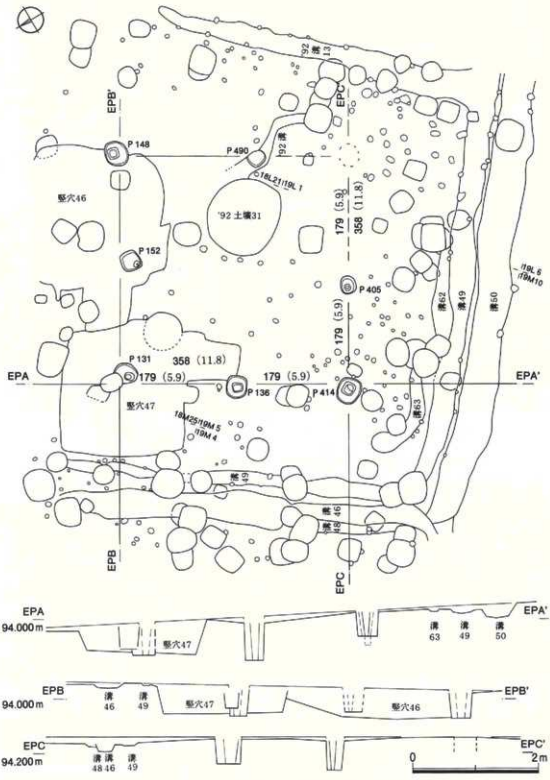
第１９図　第１４号建物跡想定図



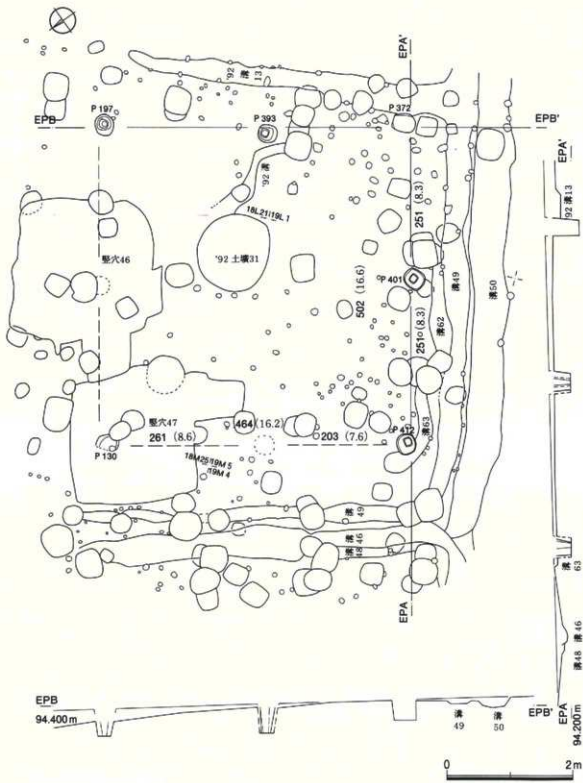
第２０図　第１５号建物跡想定図



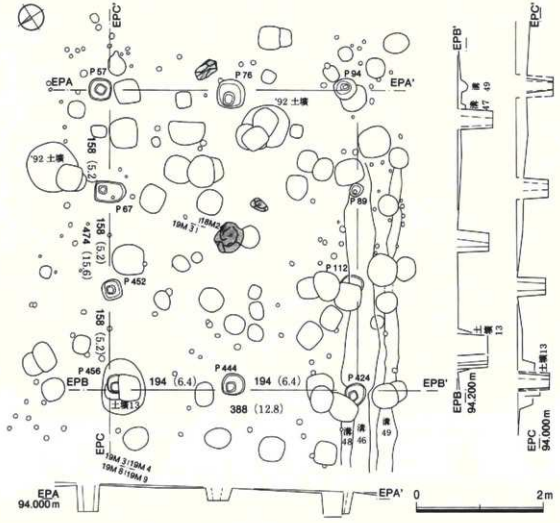
第２１図　第１６号建物跡想定図



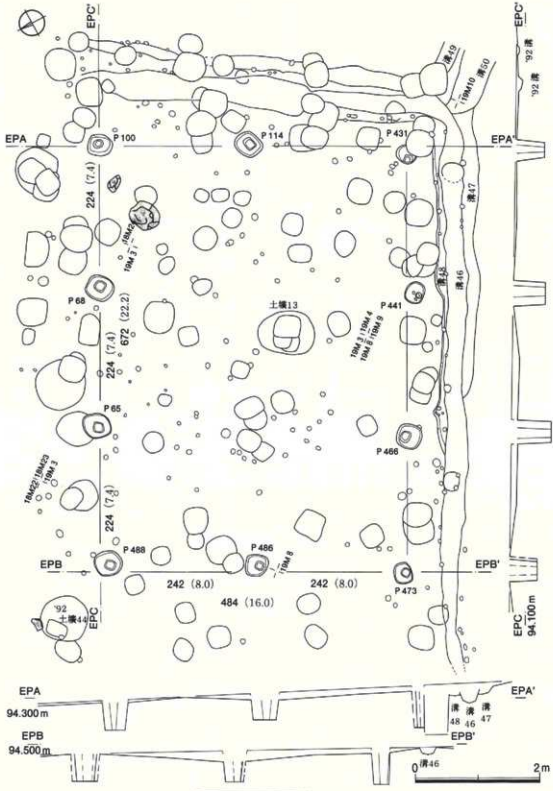
第２２図　第１７号建物跡想定図



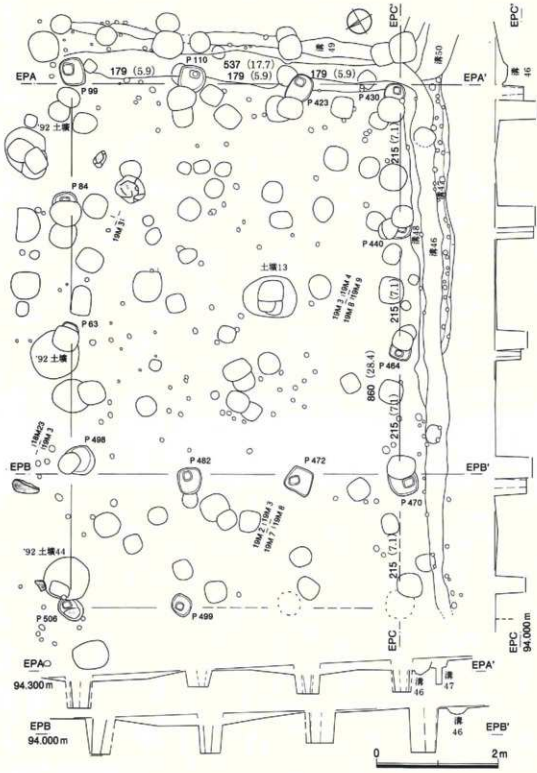
第２３図　第１８号建物跡想定図



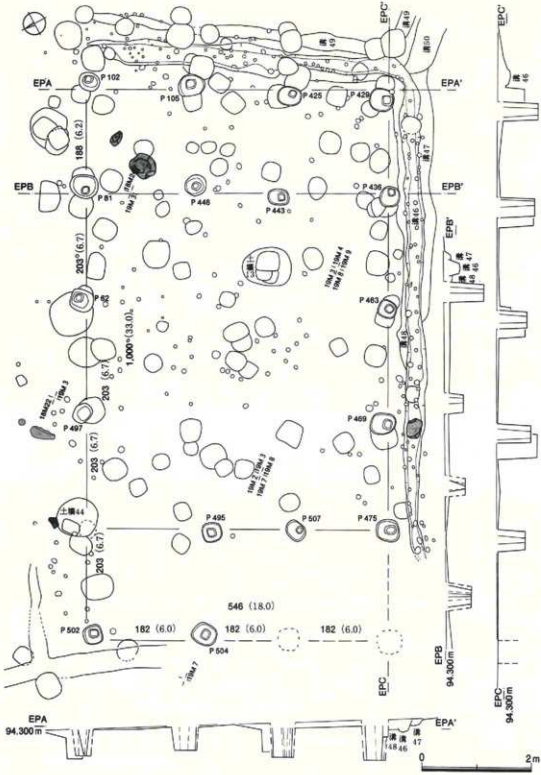
第２４図　第１９号建物跡想定図



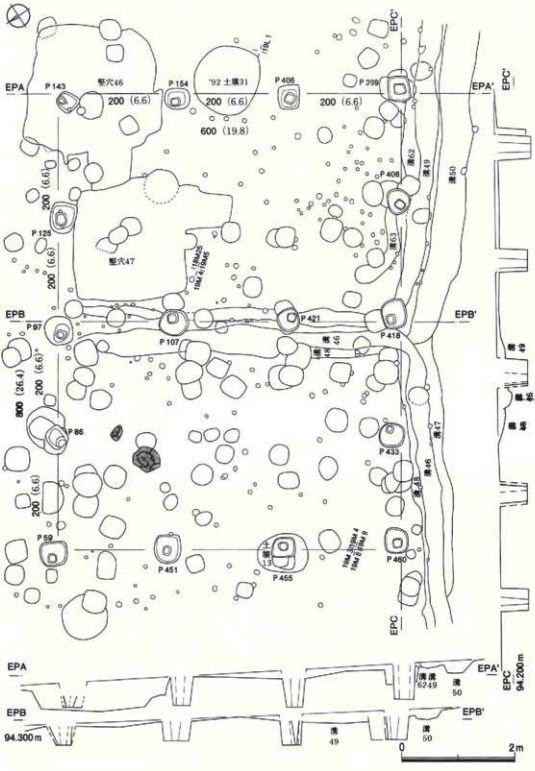
第２５図　第２０号建物跡想定図



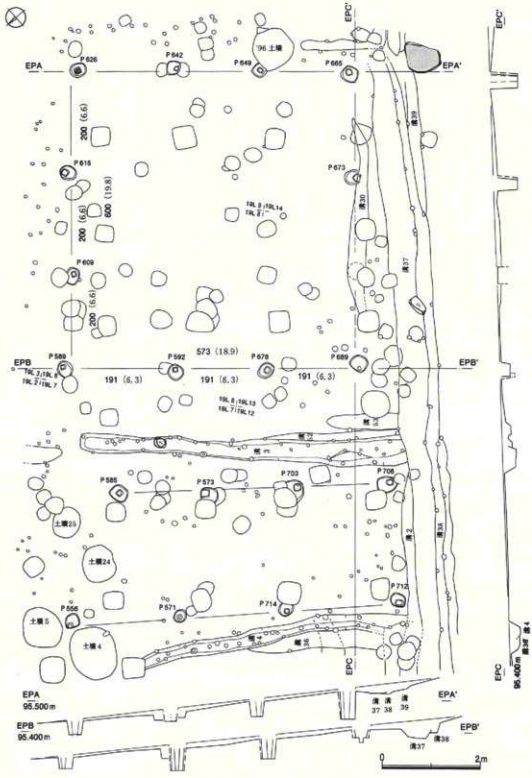
第２６図　第２１号建物跡想定図



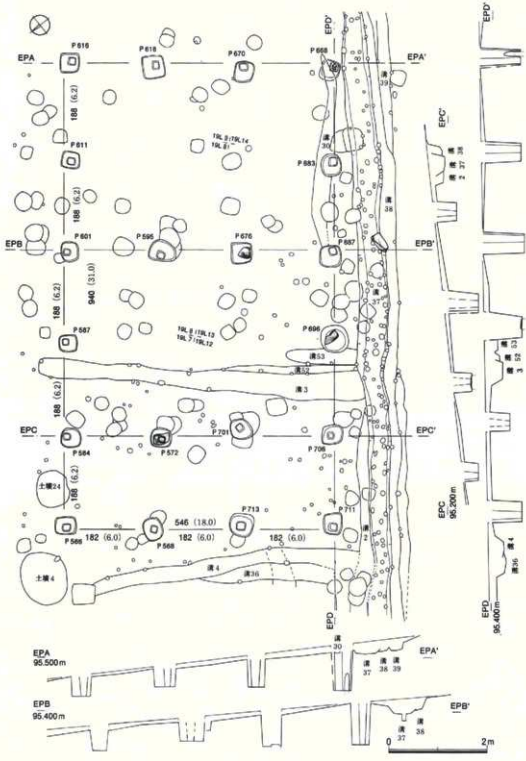
第２７図　第２２号建物跡想定図



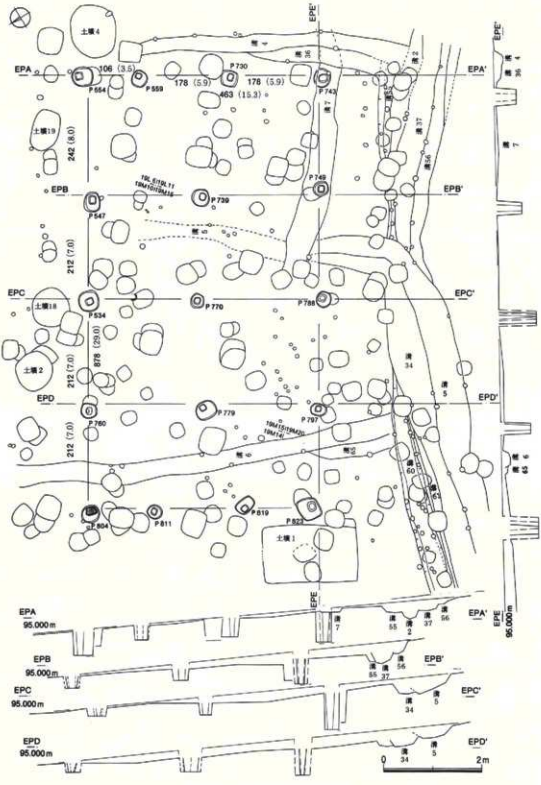
第２８図　第２３号建物跡想定図



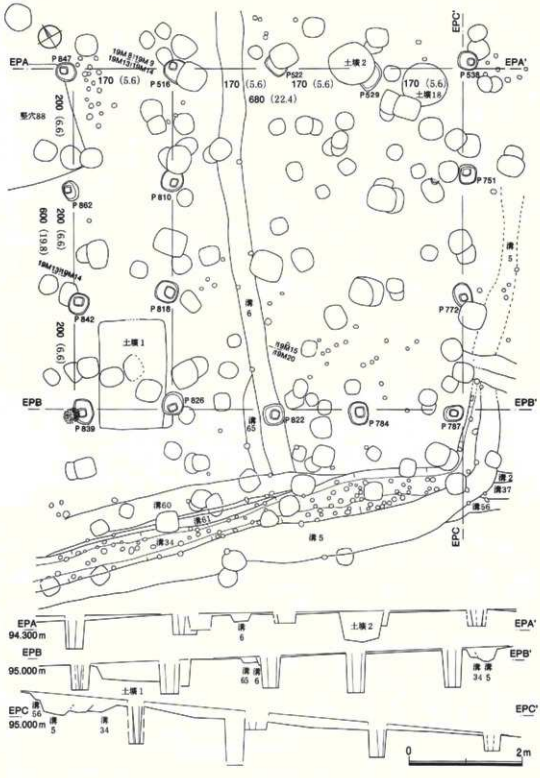
第２９図　第２４号建物跡想定図



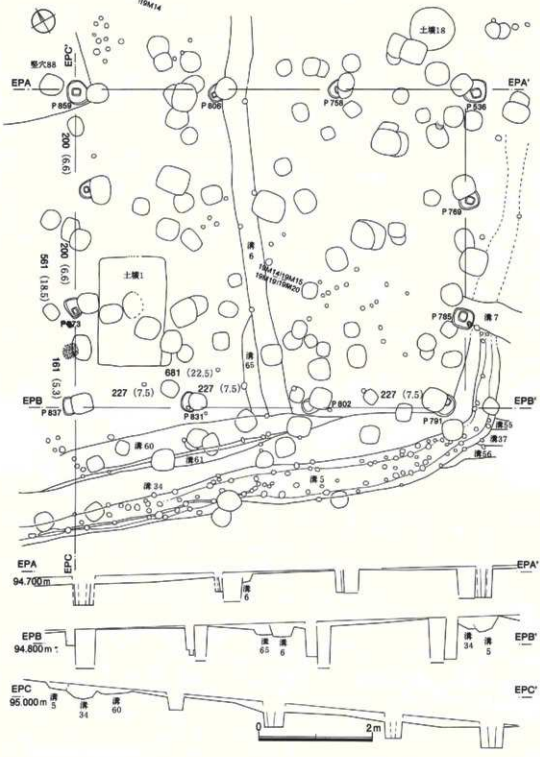
第３０図　第２５号建物跡想定図



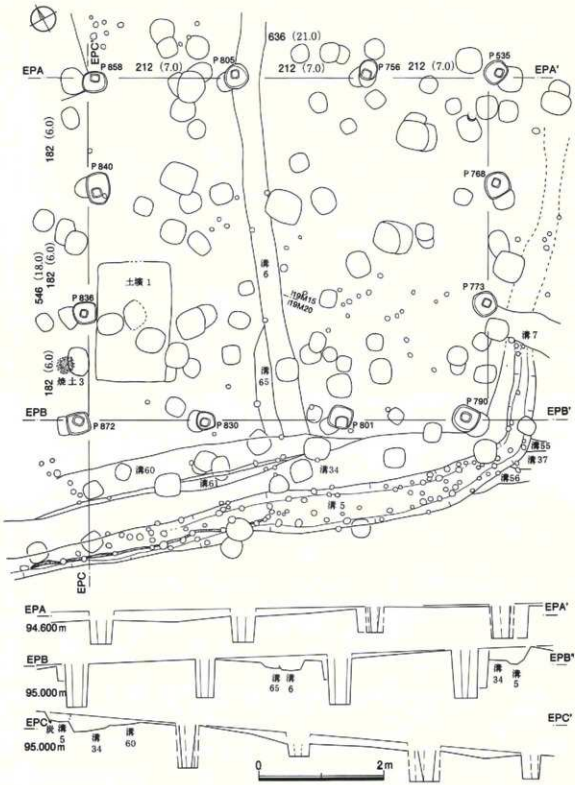
第３１図　第２６号建物跡想定図



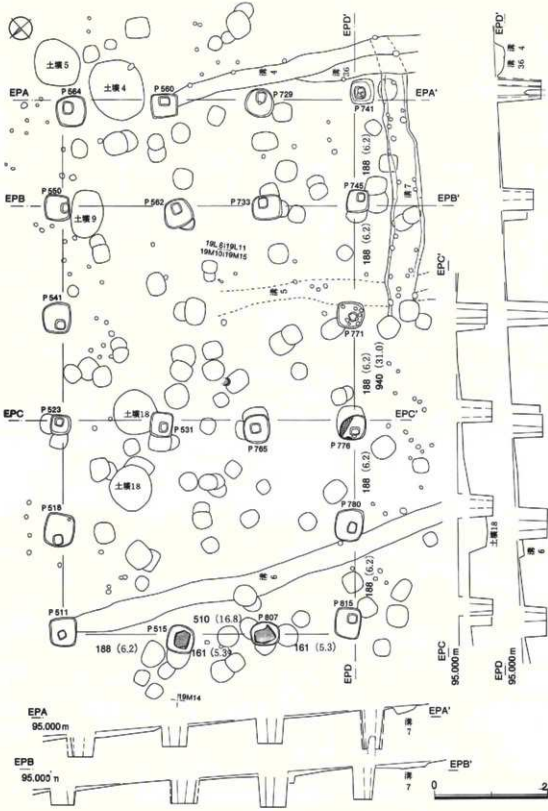
第３２図　第２７号建物跡想定図



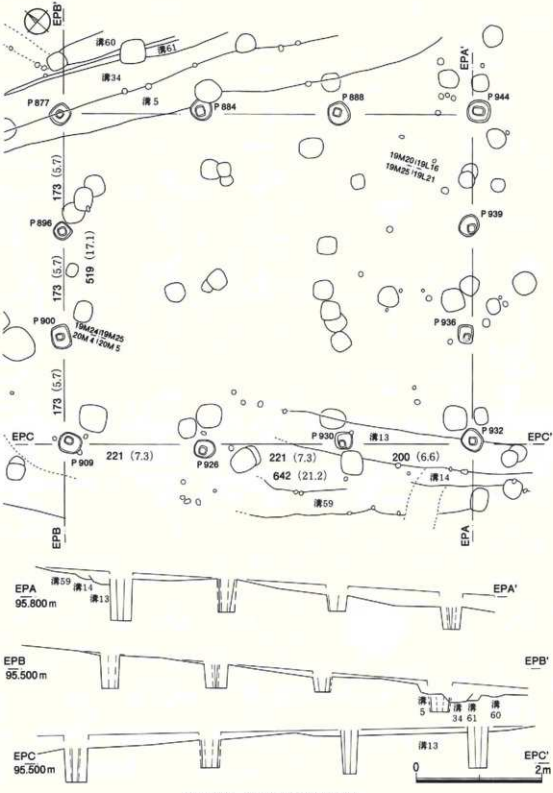
第３３図　第２８号建物跡想定図



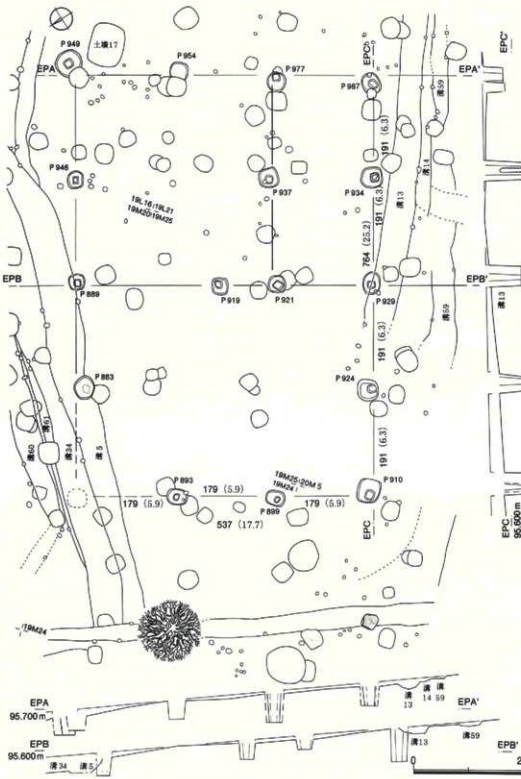
第３４図　第２９号建物跡想定図



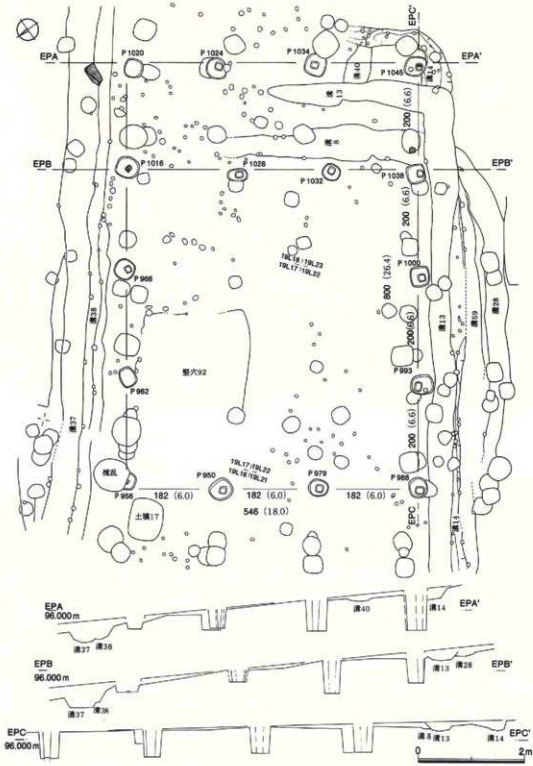
第３５図　第３０号建物跡想定図



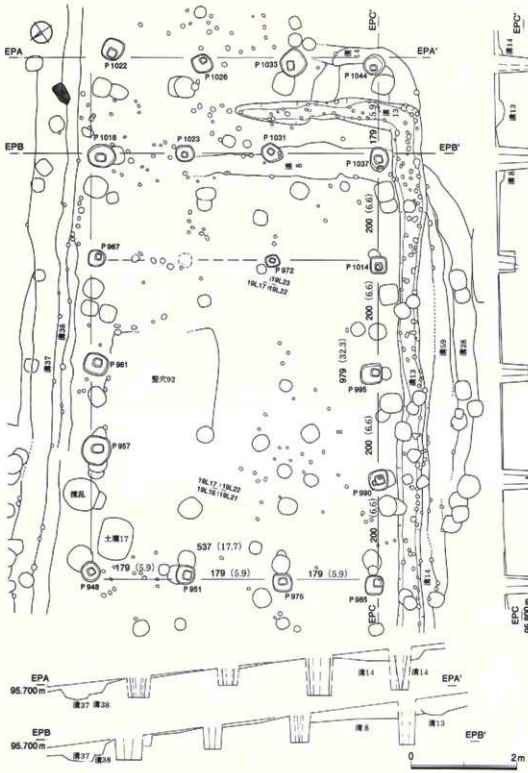
第３６図　第３１号建物跡想定図



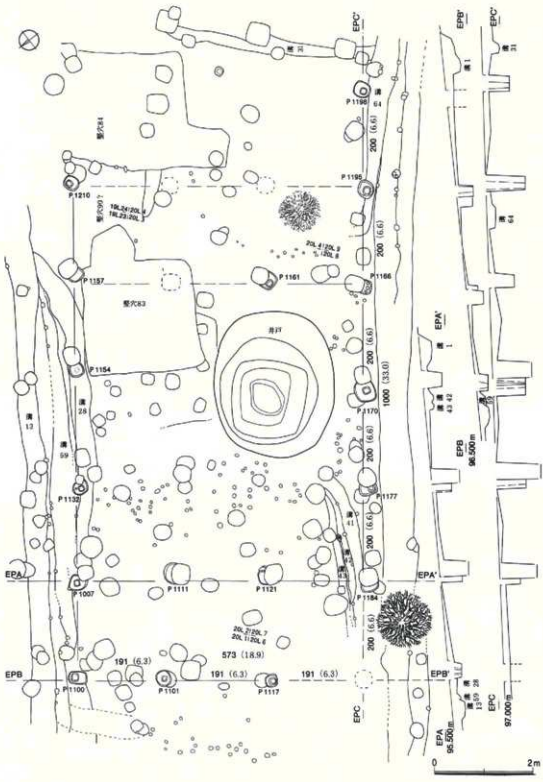
第３７図　第３２号建物跡想定図



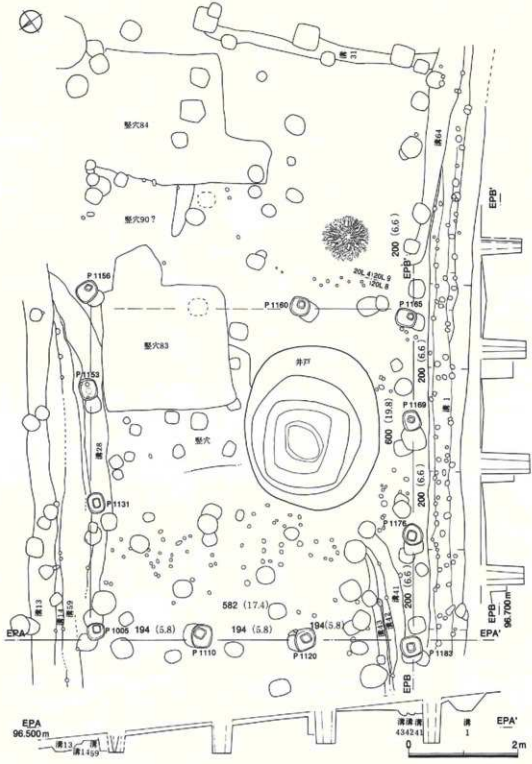
第３８図　第３３号建物跡想定図



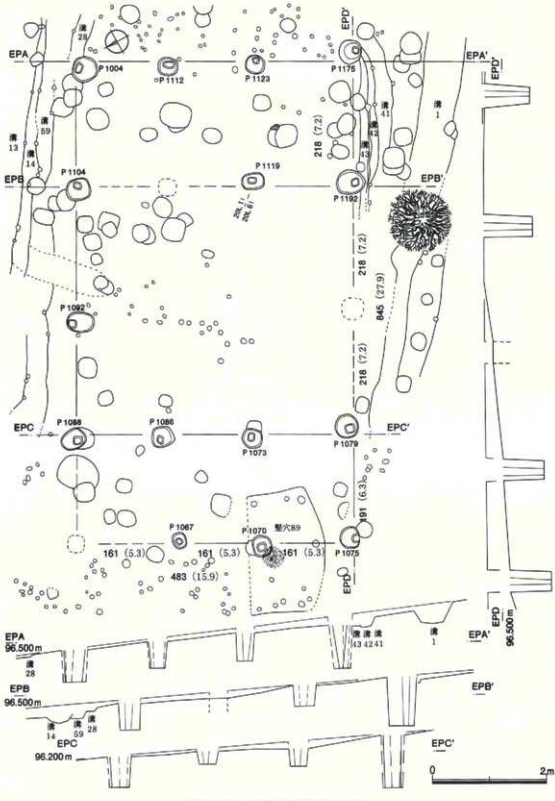
第３９図　第３４号建物跡想定図



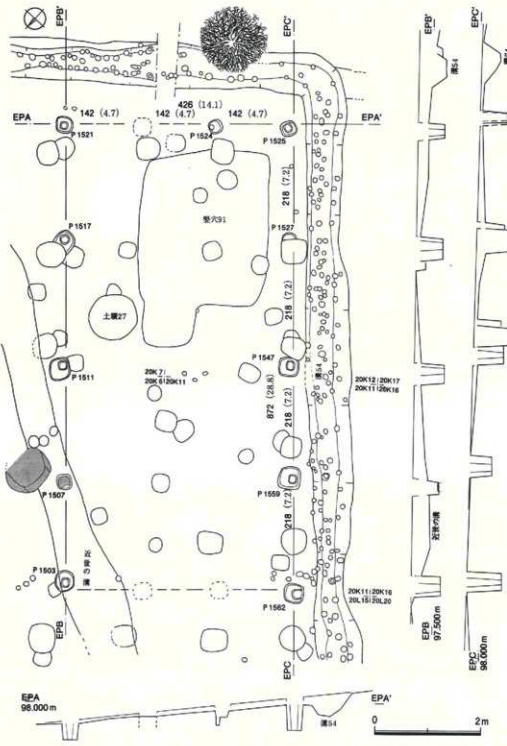
第４０図　第３５号建物跡想定図



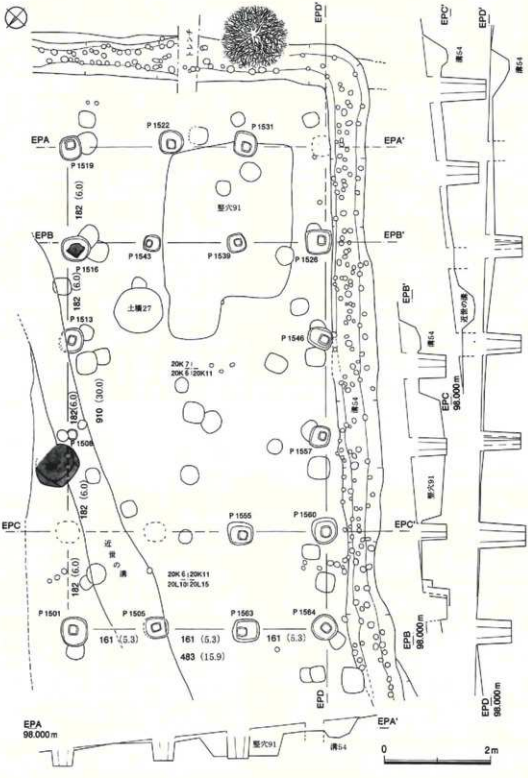
第４１図　第３６号建物跡想定図



第４２図　第３７号建物跡想定図



第４３図　第３８号建物跡想定図



第４４図　第３９号建物跡想定図

(4) 竪穴建物跡

10棟を検出した。特に20L4区周辺は竪穴建物跡の集中地点で5棟を検出している。図面整理が未了の為、全棟の図は掲げることはできなかったが、以下概略を述べる。

第83号竪穴建物跡（第46図・PL.13－7，8）：20L3区周辺に位置する。南東方向に張り出しを持つ。平面規模は方2.3m。四隅と各辺中央に柱穴を有する、八本柱の竪穴建物跡である。西底面で板壁の打ちつけ痕跡を検出した。また堆積状況にも壁の内側（堆積図ブロック7・13）と外側（3・8・15他）の違いを確認できた。大きく掘った堀方を板壁構築後、埋め戻した様子が推測される。張り出し部に向かって左側の底面上に炭化物集中箇所を検出した。この付近に火処が有ったと考えられる。遺構の重複関係から第93号竪穴建物跡より新しいと考えられる。

遺物は、線描連弁青磁碗、白磁八角杯（第52図3）の底部、白磁皿、染付端反皿・口縁、灰釉端反皿、越前擂鉢などが出土している。

第84号竪穴建物跡（附図・PL.12－8）：19L24区周辺に位置する。北東側壁は削平されていて、正確な平面形を検出できなかったが、P1216・1219が北東側壁の柱穴と想定できそうなので、そこから推測すると方2.4mで、南西方向に入り口と考えられる張り出しがある。P1208－1225－1214を連結するように溝が検出されたが、これは竪穴の堀方壁の土止めに打ち込まれた板壁の痕跡と考えられる。

遺物は、染付皿、瀬戸美濃灰釉皿、越前擂鉢などが出土している。

なお、西壁より延びる浅く細い溝とP1209と横長の小柱穴を検出した。浅い溝は壁板の痕跡、横長の小柱穴は竪穴建物跡によく見られる半柱と考えられことから古い竪穴建物跡の存在を推定したが、確定するまでには至らなかった。

第85号竪穴建物跡（第45図・PL.13－1，2）：19K22区周辺に位置する。平面規模は、方1.9m。南西方向に入り口と考えられる張り出しがある。焼失竪穴建物跡である。炭化材を多量に検出したが、部材の種類、樹種は未同定である。底面で検出したのは堀方が無い小柱穴ばかりなので、柱は細いもので杭のように打ち込んだと考えられる。南半部は上面を溝19に削平されている。

遺物は染付端反皿、灰釉皿、鋼が付着した鉄鍋（第54図4）等が出土している。

第86号竪穴建物跡（第47図・PL.12－3，4）：20L3区周辺に位置する。平面規模は方2.4mで、南東方向に入り口考えられる張り出しを持つ。柱穴は八つ検出したが、一部重複関係にあるので、P1285は1286の作り替え、P1288は1287の作り替えと考えられる。主柱穴は六本と想定される。南側底面に炭化物集中範囲を検出した。覆土上部の層（1）が、大きなブロックで水平に厚く堆積するという状況から人為的に一気に埋め立てられたと考えられる。遺構の重複関係から、第7・8号建物跡より古い遺構と考えられる。

遺物は白磁皿（第52図7～9）が3個体、染付碗（第52図15）、越前擂鉢などが出土している。

第87号竪穴建物跡（附図・PL.13－5，6）：19L25区周辺に位置する。平面規模は2.3m×1.6m。南西方向壁に入り口と考えられる張り出しを有する。柱穴はP1301、1302、1304などが想定されるが、東側では他の建物跡の柱穴が多数重複しているため想定しきれない。南西壁よりに鉄鍋（第55図5）が据え置かれたような状態で出土した（PL.13－5）。

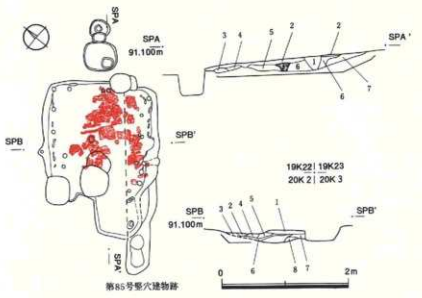
遺物は他に染付皿、越前擂鉢等が出土している。

第88号竪穴建物跡（第46図・PL.12－5～7）：19M13区周辺に位置する。平面規模は方2.2m。溝6によって区画される地割に属するものであろう。この付近の遺構はⅣ・Ⅴ層を掘り込んでつくられているが、覆土がⅣ・Ⅴ層と非常に似ているので検出は難しく、その上、西壁の一部は試掘調査坑に切られていたため、張り出しの有無は確認できなかった。P852とP851の様に柱穴が重複しているので、柱を差し替えて、同じ堀方を使い立て替えが行われたと考えられる。

遺物は、青磁稜花皿、鉄鍋（第55図3）などが出土している。

第89号竪穴建物跡（附図・PL.12－1，2）：19L25区周辺に位置する。北側は削平されているため平面規模は確定できないが、方2.2m。覆土上部には厚さ約10cm程の焼土を検出した。底面で検出したのは、堀方が無い小柱穴ばかりで、杭の様に細い柱を地面に打ちつけていたのかもしれない。他の遺構との新旧関係は不明である。

第91号竪穴建物跡（第47図・PL.13－3，4）



第４５図　第８５号竪穴建物跡平面図他

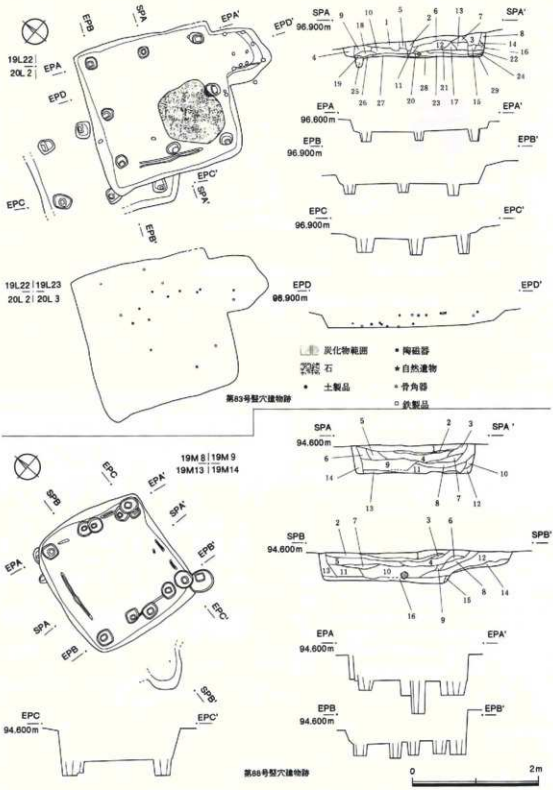
：21K12区周辺に位置する。平面規模は北西方向に張り出しを持つ方2.9m×2.4m。底面南半分に炭化物集中箇所を検出した。

遺物は、染付端反碗（第52図13）、蓑筒底見込寿文の染付皿（第52図19）、端反染付碗（第52図16）、外反白磁皿、越前擂鉢などが出土している。今年度調査で検出した竪穴建物跡では最大規模である。

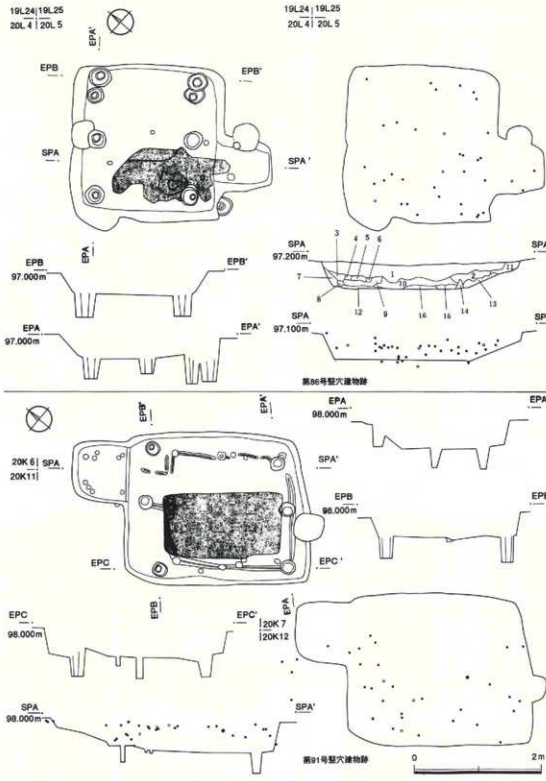
第92号竪穴建物跡（附図）：19L17区周辺に位置する。平面規模は方2.1m×2.0m。調査当初は平面プランが不定形で、覆土も極浅いため遺構の性格が掴みきれず、整地層か、削平された土壙の類を想定していた。検出作業の過程で方形の平面形で僅かに壁が立ち上がる状況を確認し、壁際に板壁痕跡と思われる溝を検出したので、竪穴建物跡とした。底面では凹方のある柱穴は無く、小柱穴のみ検出しているので、これらが柱穴であることが考えられる。他の遺構との新旧関係は不明である。

第93号竪穴建物跡（附図）：20L３区周辺に位置する。調査当初は井戸跡と第83号竪穴建物跡に切られた、やや大きめの方形の土壙を想定していたが、竪穴建物跡によく見られる長方形の柱（半柱）痕跡を約80cmのほぼ等間隔で検出したので、竪穴建物跡に遺構の想定を変更した。残存する北西壁と柱穴より方2.1mと想定できる。柱穴はP1 136・1138・1141・1142・1143が想定される。覆土に炭化物が大量に混じっているので、焼失した可能性がある。遺構の重複関係から、第83号竪穴建物跡と井戸跡より古い建物跡と考えられる。

（松田）



第４６図　第８３・８８号竪穴建物跡平面図他



第４７図　第８６・９１号竪穴建物跡平面図他

表8　第85号堅穴建物跡土層観察表

SPA-A'									
1	10YR	3/3	暗褐色土主体	ローム粒・ロームブロック	礫粒		ややハード		C
2	10YR	3/4	暗褐色土主体	ローム粒	礫粒		ハード ザラザラ		
3	2.5YR	3/3	暗オリーブ褐主体	ロームブロック	礫粒少量	ハード	焼土粒微量		C
4	10YR	2/2	黒褐色土主体		礫粒微量		焼土粒		C30%
5	10YR	3/2	黒褐色土主体	ロームブロック	礫粒	ややハード	焼土ブロック・焼土粒		C少量
6	10YR	2/3	黒褐色土主体	ローム粒・ロームブロック	礫粒		焼土粒		C10%
7	10YR	2/3	黒褐色土主体	ローム粒	礫粒	ややハード			C20%
SPB-B'									
1	10YR	3/4	暗褐色土主体	ローム粒	礫粒	砂粒 ハード			
2	10YR	3/3	暗褐色土主体	ローム粒			焼土粒		C少量
3	10YR	2/3	炭化物主体		礫粒微量	ややソフト			C
4	10YR	3/2	黒褐色土主体	ローム粒	礫粒	ソフト			
5	7.5YR	4/4	褐色土主体		礫粒微量		焼土粒40%		C10%
6	10YR	3/3	暗褐色土主体		礫粒		焼土ブロック・焼土粒		C少量
7	10YR	3/3	暗褐色土主体		礫粒少量		焼土粒		C

表9　第83号堅穴建物跡土層観察表

1	10YR	3/4	暗褐色土主体	ロームブロック中量	玉砂利	礫粒 小礫	基盤礫		ややソフト	C微量
2	10YR	3/3	暗褐色土主体			礫粒	基盤礫		ソフト	C微量
3	10YR	3/3	暗褐色土主体	ローム粒微量		礫粒	基盤礫微量 基盤粒微量		ソフト	C中量
4	10YR	3/4	暗褐色土主体	ローム粒中量		礫粒			ややソフト	C微量 焼土粒微量
5	10YR	4/3	にぶい黄褐色土主体	ローム粒 ロームブロック多量		礫粒	玉砂利微量 基盤礫		ややソフト	C
6	10YR	3/4	暗褐色土主体	ローム粒 ロームブロック多量		礫粒	玉砂利微量 基盤粒少量		ややハード	焼土粒微量
7	10YR	4/4	褐色土主体	ローム粒 ロームブロック多量		礫粒			ソフト	C微量 焼土粒微量
8	10YR	4/4	褐色土主体	ローム粒中量			基盤粒		ハード	C少量 焼土粒微量
9	10YR	4/4	褐色土主体	ローム粒少量		礫粒	玉砂利微量 基盤粒微量		ややハード	C少量
10	10YR	5/6	ローム主体	暗褐色土中量		礫粒	基盤粒少量		ハード	C少量 焼土粒微量
11	10YR	3/4	暗褐色土主体	ローム粒		礫粒	基盤粒微量 基盤礫1個		ややハード	C少量
12	10YR	3/4	暗褐色土主体	ローム粒 ロームブロック多量		礫粒	基盤粒少量		ややハード	C中量 焼土粒微量
13	10YR	4/3	にぶい黄褐色土主体	ローム粒 ロームブロック中量		礫粒	基盤礫微量 基盤粒		ややハード	C 焼土粒微量
14	10YR	3/3	暗褐色土主体	ローム粒微量					ソフト	C
15	10YR	4/3	にぶい黄褐色土主体	ロームブロック中量		礫粒			ややソフト	C少量 焼土粒微量
16	10YR	3/4	暗褐色土主体			礫粒	玉砂利微量		ややハード	C 焼土粒
17	10YR	4/4	ローム主体	ローム粒 ロームブロック多量		礫粒			ハード	焼土粒微量
18	10YR	3/4	暗褐色土主体	ローム粒少量		礫粒 小礫	基盤粒微量		ややソフト	C中量
19	10YR	4/4	褐色土主体			礫粒微量			ソフト	C
20	10YR	5/3	暗褐色土主体			礫粒			ソフト	C 焼土粒微量
21	10YR	3/4	暗褐色土主体	ローム粒 ロームブロック中量		礫粒少量	基盤粒		ややソフト	C少量
22	10YR	3/4	暗褐色土主体	ローム粒 ロームブロック少量		礫粒 玉砂利微量			ややソフト	
23	10YR	4/6	ローム主体			礫粒 小礫	基盤粒中量		ややハード	C少量
24	10YR	3/4	暗褐色土主体			礫粒			ソフト	C微量
25	10YR	4/4	褐色土主体			礫粒	基盤粒		ソフト	C微量
26	10YR	5/3	にぶい黄褐色土主体	ローム粒 ロームブロック中量		礫粒	基盤粒微量		ややハード	C少量
27	10YR	5/3	にぶい黄褐色土主体	ローム粒少量		礫粒少量			ソフト	C中量
28	10YR	4/3	にぶい黄褐色土主体	ローム粒中量			基盤粒微量	火山灰微量	ソフト	C少量
29	10YR	2/1	黒化物主体	ローム粒微量				火山灰少量	ソフト	C多量

表10　第88号堅穴建物跡土層観察表

SPA-A'									
1	10YR	4/2	灰黄褐土主体		基盤粒少量	礫粒少量		ややソフト	C多量
2	10YR	3/4	暗褐色土主体	ロームブロック微量	基盤粒少量	礫粒少量			C少量
3	2.5YR	3/4	暗褐色土主体	ロームブロック少量	基盤粒微量	礫粒少量		ややソフト	C微量
4	10YR	3/4	暗褐色土主体	ロームブロック中量	基盤粒少量	礫微量・礫粒少量	火山灰少量	ソフト	C少量
5	10YR	4/6	褐色土主体	ロームブロック少量	基盤粒少量	礫粒少量		ややハード	C少量
6	10YR	3/4	暗褐色土主体			礫粒少量		ややハード	C少量
7	10YR	2/3	黒褐色土主体		基盤粒少量	礫粒少量		ソフト	
8	10YR	3/4	暗褐色土主体		基盤礫少量	礫粒少量		ソフト	C少量
					基盤礫微量				
9	10YR	3/4	暗褐色土主体	ロームブロック少量	基盤粒中量	礫微量・礫粒少量	火山灰微量	ややソフト	C少量
10	10YR	3/4	暗褐色土主体		基盤粒微量	礫粒少量		ソフト	C少量
11	10YR	3/4	暗褐色土主体		基盤粒少量	礫微量・礫粒微量	火山灰微量	ソフト	C少量
12	10YR	3/4	暗褐色土主体		基盤粒少量	礫粒少量	火山灰微量	ソフト	C少量
13	10YR	3/4	暗褐色土主体		基盤粒微量	礫微量・礫粒少量		ややソフト	C中量
14	10YR	3/4	暗褐色土主体		基盤粒微量			ソフト	C多量
SPB-B'									
1	10YR	6/2	灰黄褐土主体		基盤粒少量	礫粒少量		ややソフト	C多量
2	10YR	4/4	褐色土主体	ロームブロック微量	基盤粒微量	礫粒微量		ややソフト	C少量
3	10YR	3/4	暗褐色土主体		基盤粒微量	礫粒少量		ややソフト	
4	10YR	4/4	褐色土主体	ロームブロック微量	基盤粒微量	礫微量・礫粒少量	火山灰微量	ややハード	C少量
5	10YR	3/4	暗褐色土主体	ロームブロック中量	基盤粒少量	礫微量・礫粒少量	火山灰少量	ソフト	C少量
					基盤礫微量・				
6	10YR	3/4	暗褐色土主体		基盤粒少量	礫粒微量		ややソフト	C中量
7	10YR	3/4	暗褐色土主体		基盤粒少量	礫粒少量	火山灰微量	ややソフト	C少量
8	10YR	3/4	暗褐色土主体		基盤粒微量	礫微量・礫粒微量		ややソフト	C微量
9	10YR	4/4	褐色土主体		基盤粒微量	礫粒微量		ややソフト	C微量

10 10YR	3/4 暗褐色土主体	ローム ブロック少量	基盤粒少量	礫粒少量		火山灰少量	ややソフト	C少量		
11 10YR	3/4 暗褐色土主体	ローム ブロック少量	基盤粒少量	礫粒少量		火山灰微量	ややソフト	C少量		
12 10YR	3/4 暗褐色土主体		基盤粒微量	礫微量・礫粒少量			ややソフト	C微量		
13 10YR	3/4 暗褐色土主体		基盤粒微量	礫微量・礫粒少量		火山灰微量	ややハード	C中量		
14 10YR	3/4 暗褐色土主体		基盤粒微量	礫粒微量			ソフト	C多量		
15 10YR	4/4 褐色土主体		基盤粒微量	礫粒微量			ややハード	C少量		
16 10YR	3/4 暗褐色土主体		基盤粒少量	礫微量・礫粒微量		火山灰微量	ソフト	C少量		

表11　第86号竪穴遺物土層観察表

1	10YR	4/4 褐色ハードローム主体		基盤微量多	砂利5％	砂微量		ハード		
2	10YR	4/4 褐色ハードローム主体	礫粒微量	基盤	砂利1％	砂微量	火山灰	(1)とり少しソフト	C微量	
3	10YR	5/6 黄褐ハードローム主体		基盤微量多	砂利微量			ハード		
4	10YR	5/4 にぶい黄褐ローム主体		基盤微量多	砂利微量	砂微量		ペースト状		
5	7.5YR	5/6 黄褐ハードローム主体	礫粒微量	基盤微量		砂微量		ハード		
6	10YR	5/8 明褐ハードローム主体	礫粒微量			砂微量		ややソフト		
7	10YR	5/4 にぶい黄褐ハードローム主体		基盤礫微量	砂利微量			(1)とり少しソフト		
8	7.5YR	5/8 明褐ハードローム主体			砂利微量	砂微量		(5)とりソフト	C微量	
9	10YR	4/3 にぶい黄褐ローム主体			砂利微量	砂微量		ペースト状		
10	10YR	4/4 にぶい黄褐ローム主体	礫粒微量	基盤	砂利微量	砂微量	火山灰3％	ペースト状	C微量	
11	10YR	4/6 褐色ハードローム主体		基盤礫微量	砂利微量			ハード	C微量	
12	10YR	5/4 火山灰主体 にぶい黄褐		基盤礫微量		砂微量	粘性			
13	10YR	6/3 褐色ハードローム主体	礫40％					(2)より少しソフト		
14	10YR	6/3 にぶい黄褐ハードローム主体		基盤礫微量	砂利微量	砂微量				
15	10YR	6/4 にぶい黄褐ハードローム主体	礫微量	礫粒微量		砂微量	火山灰微量	ややソフト	C30％	
16	10YR	5/3 にぶい黄褐ローム主体				砂微量		ペースト状	C10％	

表12　土層1 土層観察表

Ⅱ 1	10YR	3/3 暗褐色土主体			白色火山灰	ソフト		焼土粒微量	
Ⅱ 2	10YR	5/6 黄褐色土主体				ソフト			
1	10YR	3/4 暗褐色土主体		基盤礫		(6)とりハード			
2	10YR	4/4 褐色土主体	ローム ブロック40％	基盤礫		(6)とりハード			
3	10YR	4/4 褐色土主体	ローム ブロック20％	基盤礫		(4)とりややソフト	C少量		
4	10YR	4/4 褐色土主体	ローム ブロック20％	基盤礫少量		ハード	C微量		
5	10YR	4/4 褐色土主体	ローム ブロック20％	基盤礫		ややハード	C少量	焼土粒微量	
6	10YR	4/4 褐色土主体	ローム ブロック20％	基盤礫		ソフト	C	焼土粒少量	
7	10YR	5/1 ハードローム主体		基盤礫		ハード			
8	10YR	4/4 褐色土主体				(6)とりソフト			
9	10YR	4/4 褐色土主体	ローム ブロック少量			(6)とりハード	C微量	焼土粒微量	
10	10YR	3/3 暗褐色土主体	ローム ブロック微量	基盤礫少量		(5)とりソフト			
11	10YR	4/4 褐色土主体	ローム ブロック20％	基盤礫		(4)とりややソフト	C少量	焼土粒微量	
12	10YR	3/4 暗褐色土主体				(8)とりソフト	C微量		
13	10YR	4/6 褐色土主体	ローム ブロック30％		粘り有り	周りとりハード	C少量		
14	10YR	4/4 褐色土主体	ローム ブロック少量		(6)と り粘い	(8)とりソフト	C微量		
15	10YR	4/4 褐色土主体	ローム ブロック少量	基盤礫	粘り有り	ソフト	C少量		
16	10YR	5/8 ハードローム主体				ハード			
17	10YR	5/6 ハードローム主体	褐色土少量			ハード			

表13　土層2 土層観察表

1	10YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒中量		礫粒微量	基盤粒少量	ハード		C少量
2	10YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒中量		礫粒少量	基盤粒微量	ややハード	焼土微量	C微量
3	2.5YR	4/4 基盤層主体			礫粒微量	基盤粒多量	ハード		C微量
4	10YR	3/4 暗褐色土主体			礫粒微量		ソフト		C少量
5	10YR	4/4 ローム主体	ローム粒多量				ややソフト		
6	10YR	3/4 暗褐色土主体	ローム粒中量		礫粒微量	礫含む	ソフト	焼土微量	C少量
7	10YR	4/4 ローム主体	ローム粒多量		礫粒微量		ややソフト		C微量
8	10YR	4/4 褐色土主体	ローム ブロック多量	粘質土	礫粒少量		ソフト		C微量
9	10YR	3/4 暗褐色土主体	ローム粒少量		礫粒微量		ソフト		C少量
10	10YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒中量		礫粒少量	基盤粒少量	ソフト	焼土微量	C中量
11	10YR	3/4 暗褐色土主体	ローム粒少量		礫粒微量		ソフト		C少量
12	10YR	3/4 暗褐色土主体	ローム粒多量		礫粒少量		ソフト		C少量
13	10YR	4/6 褐色土主体	ローム粒多量		礫粒微量		ソフト		C多量
14	10YR	3/4 暗褐色土主体	ローム ブロック多量		礫粒微量		ソフト		C多量
15	10YR	4/4 褐色土主体	ローム粒多量		礫粒微量		ややソフト		C少量
16	10YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒多量		礫粒微量		ソフト		C多量
17	10YR	4/4 褐色土主体	ローム粒少量		礫粒微量		ややソフト		C微量
18	10YR	3/3 暗褐色土主体			礫粒微量		ソフト		C中量
19	10YR	4/4 褐色土主体	ローム粒少量		礫粒微量		ややハード		C少量
20	10YR	4/6 褐色土主体			礫粒少量		ソフト		C微量
21	10YR	4/6 褐色土主体	ローム粒少量		礫粒微量		ややハード		C微量
22	10YR	3/4 暗褐色土主体	ローム粒中量		礫粒微量	礫含む	ややハード		C微量
23	10YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒少量		礫粒少量		ソフト		C微量
24	10YR	4/3 黄褐色土主体			礫粒微量		ややソフト		
25	10YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒少量		礫粒微量		ややソフト		C微量
26	10YR	4/4 褐色土主体			礫粒少量		ソフト		

表14　土層4 土層観察表

1	10YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒微量		礫粒微量	基盤粒微量	ややソフト	焼土粒微量	C少量
2	10YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒中量		礫粒少量	基盤粒微量	ややハード		C微量
3	10YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒微量		礫粒微量	基盤粒微量	ソフト	焼土粒微量	C少量 青粘微量
4	10YR	3/3 暗褐色土主体	ローム粒微量		礫粒少量	基盤粒微量	ややソフト		C中量
5	10YR	3/4 暗褐色土主体	ローム ブロック中量		礫粒微量	基盤粒微量	ややソフト		C微量
6	10YR	3/2 黒褐色土主体	ローム粒少量		礫粒少量	基盤粒微量	ソフト	焼土粒微量	C少量

7	10YR	3/2	暗褐色土主体	ローム粒微量		礫粒微量	基盤粒微量	ソフト	焼土粒微量	C微量
8	10YR	3/3	暗褐色土主体	ローム粒少量		礫粒少量	基盤粒少量	ややハード	焼土粒微量	C少量
9	10YR	3/3	焼土主体	ローム粒少量		礫粒微量	基盤粒微量	ソフト	焼土粒多量	C中量 骨粉微量
10	10YR	3/2	黒褐色土主体	ローム粒少量		礫粒微量	基盤粒微量	ソフト	焼土粒少量	C少量
11	10YR	2/3	黒褐色土主体	ローム粒微量		礫粒微量	基盤粒微量	ソフト		C微量
12	10YR	4/4	褐色土主体	ローム粒中量	玉砂利微量	礫粒微量 小礫	基盤粒微量	ややソフト		C少量
13	10YR	3/2	黒褐色土主体	ローム粒微量		礫粒微量	基盤粒微量	ソフト	焼土粒微量	C少量 骨粉微量
14	10YR	2/2	黒褐色土主体	ローム粒微量		礫粒少量	基盤粒微量	ソフト	焼土粒微量	C少量 骨粉微量
15	10YR	3/2	黒褐色土主体	ローム粒微量		礫粒微量	基盤粒微量	ソフト	焼土粒微量	C中量 骨粉微量
16	10YR	3/2	黒褐色土主体	ローム粒微量		礫粒微量	基盤粒微量	ややハード	焼土粒微量	C少量
17	10YR	3/2	黒褐色土主体	ローム粒少量		礫粒微量	基盤粒微量	ややソフト	焼土微	C中量 骨粉微量
18	10YR	3/2	黒褐色土主体	ローム微量		礫粒微量	基盤粒微量	ややハード		C微量
19	10YR	4/6	ローム主体	ローム微量		礫粒微量	基盤粒微量	ハード		C微量
20	10YR	3/2	黒褐色土主体	ローム微量		礫粒微量	基盤粒微量	ソフト	焼土粒微量	C微量
21	10YR	3/2	黒褐色土主体	ローム粒中量	粘質土	礫粒微量	基盤粒微量	ややハード	焼土粒微量	C少量
22	10YR	3/2	黒褐色土主体	ローム微量		礫粒微量	基盤粒微量	ややハード		C微量 木質混入
23	10YR	2/2	黒褐色土主体	ローム粒少量		礫粒微量		ややハード		C微量 木質混入
24	10YR	2/2	黒褐色土主体			礫粒微量		ソフト		C少量 木質混入
25	10YR	4/3	にぶい黄褐土主体	ローム粒少量		礫粒中量		ソフト		C微量
26	10YR	5/6	ローム主体	ローム粒多量		礫粒微量		ハード		C微量
27	10YR	2/1	黒色土主体	ローム粒微量		礫粒微量		ソフト		C中量
28	10YR	5/2	灰黄褐土主体	ローム粒少量		礫粒微量		ソフト		C微量
29	10YR	4/1	褐灰主体	ローム粒少量		礫粒微量		ソフト		C微量
30	10YR	3/3	ソフトローム主体	粘質土						

表15　土壌8土層観察表

1	10YR	4/3	黄褐色土主体	ロームブロック少量	基盤粒少量	礫微量	ややソフト			
2	10YR	3/4	暗褐色土主体	ロームブロック多量		礫少量	ややソフト		C中量	焼土少量
3	10YR	4/4	褐色土主体	ローム粒少量		礫微量	ややソフト		C中量	
4	10YR	4/3	黄褐色土主体	ローム粒多量		礫少量	ややソフト		C少量	
5	10YR	4/6	褐色土主体	ロームブロック粒多量	基盤粒微量		ややハード		C微量	
6	10YR	4/4	褐色土主体	ローム粒少量			ややソフト		C中量	
7	10YR	4/4	褐色土主体	ロームブロック多量		礫中量	ややソフト		C少量	
8	10YR	3/4	暗褐色土主体	ローム粒微量	基盤粒微量	礫少量	ややソフト		C少量	
9	10YR	4/4	褐色土主体	ロームブロック中量			ややソフト		C微量	
10	10YR	3/4	暗褐色土主体	ローム粒少量	基盤粒少量	礫少量	ややソフト		C多量	
11	10YR	3/3	暗褐色土主体	ローム粒少量	基盤粒微量		ややソフト		C微量	
12	10YR	3/2	黒褐色土主体	ローム粒微量		礫中量	ソフト		C少量	
13	10YR	3/3	暗褐色土主体	ロームブロック多量		礫少量	ややソフト			
14	10YR	2/2	黒褐色土主体	ローム粒微量		礫少量	ソフト（ペースト状）		C少量	
15	10YR	4/3	黄褐色土主体		基盤粒少量	礫少量	ソフト		C少量	
16	10YR	4/3	黄褐色土主体			礫中量	ソフト		C微量	
17	10YR	3/3	暗褐色土主体		基盤粒少量	礫中量	ソフト		C少量	
18	10YR	2/2	黒褐色土主体	ローム粒少量	基盤粒少量	礫少量	ソフト		C少量	
19	2.5YR	5/3	黄褐色土主体			礫少量	ソフト（ペースト状）		C少量	

表16　土壌17土層観察表

1	10YR	4/6	暗褐色土主体	ロームブロック少量	礫		ややハード	C中量	
2	10YR	4/3	にぶい黄褐色主体			白色火山灰	ややソフト		
3	10YR	4/6	暗褐色土主体	ロームブロック		白色火山灰	ややソフト	C少量	
4	10YR	4/6	暗褐色土主体	ロームブロック		白色火山灰	ややソフト	C少量	
5	10YR	3/3	暗褐色土主体				ソフト	C少量	
6	10YR	4/4	褐色土主体	ロームブロック多量			ややハード	C微量	
7	10YR	4/6	暗褐色土主体	ロームブロック少量		白色火山灰	ソフト	C微量	
8	10YR	4/4	褐色土主体	ロームブロック多量			ややハード	C微量	
9	10YR	4/3	にぶい黄褐色主体	ロームブロック少量			ややソフト		
10	10YR	4/3	にぶい黄褐色主体	ロームブロック			ソフト	C少量	
11	10YR	4/3	にぶい黄褐色主体	ロームブロック			ややソフト	C少量	
12	10YR	3/4	暗褐色土主体	ロームブロック少量	礫		ソフト	C少量	
13	10YR	4/3	にぶい黄褐色主体	ロームブロック中量			ややハード	C微量	
14	10YR	3/4	暗褐色土主体	ロームブロック少量			ややソフト	C微量	
15	7.5YR	4/4	褐色土主体	ロームブロック			ソフト	C少量	
16	10YR	4/4 7.5YR	4/4 褐色土主体		礫		ソフト	C少量	
17	10YR	4/3	にぶい黄褐色主体				ややソフト	C少量	

表17　土壌23土層観察表

1	10YR	3/3	暗褐色土主体	ローム粒少量	礫少量		ややソフト	C少量
2	10YR	3/3	暗褐色土主体	ロームブロック多量			ややソフト	C中量
3	10YR	3/4	暗褐色土主体	ローム粒微量	基盤粒微量		ややソフト	C中量
4	10YR	4/4	褐色土主体	ローム粒微量	礫微量		ややハード	C微量
5	10YR	3/4	暗褐色土主体	ローム粒微量	礫微量		ソフト	C多量
6	10YR	3/3	暗褐色土主体		礫微量		ややソフト	C多量
7	10YR	3/4	暗褐色土主体		礫少量		ソフト	C少量
8	10YR	2/3	黒褐色土主体	ローム粒微量	礫微量		ソフト	C多量
9	10YR	3/4	暗褐色土主体	ローム少量	基盤粒微量		ややソフト	C少量
10	10YR	4/6	褐色土主体	ローム粒微量	礫少量 基盤粒微量		ややハード	C少量
11	10YR	4/3	黄褐色土主体	ローム粒微量	礫少量		ややソフト	C少量
12	10YR	5/3	黄褐色土主体	ローム粒多量	礫微量		ややソフト	C微量
13	10YR	4/4	褐色土主体	ローム粒少量	礫微量		ややハード	C微量
14	10YR	3/4	暗褐色土主体	ローム粒微量			ややハード	C微量
15	10YR	5/4	ローム主体	ロームブロック多量			ややソフト	C微量
16	10YR	4/4	褐色土主体	ローム粒微量	礫少量		ややソフト	C微量

表18　土壙27土層観察表

1	10YR	2/3	黒褐色土主体			基盤礫少量	火山灰少量	ややソフト	焼土粒微量
2	10YR	2/3	黒褐色土主体		礫粒微量			ややソフト	
3	10YR	3/3	暗褐色土主体		礫粒少量			ソフト	焼土粒微量
4	10YR	3/4	暗褐色土主体	ローム粒少量					
5	10YR	3/3	暗褐色土主体	ローム粒少量	礫粒少量			ザラザラソフト	C少量
6	10YR	4/3	にぶい黄褐色土主体	ロームブロック	礫粒少量			ソフト	
7	10YR	3/3	暗褐色土主体		礫粒多量			ややハード	焼土粒少量 C
8	10YR	3/3	暗褐色土主体	ローム粒	礫粒少量			ややソフト	
9	10YR	3/4	暗褐色土主体	ローム粒	礫粒	砂利少量		ややハード	
10	10YR	3/4	暗褐色土主体		礫粒少量			しまり有り	C少量
11	10YR	4/4 4/6	褐色土主体	粘質土	礫粒少量			ハード	
12	10YR	4/4	褐色土主体	粘質土	礫粒少量			ハード	
13	10YR	4/4	褐色土主体	粘質土	礫粒少量			ハード	

(5)　土壙

土壙1（第48図・PL.16－1，2）：19M19区に位置する。長軸1.93m、短軸1.2mの長方形、深さ28cm。四隅と短辺の中央付近に杭穴を検出した。このことから地上部に、簡素な屋根若しくは壁などの構築物の存在が推測される。或いは、竪穴建物の類とすべきものかもしれない。

遺物は灰釉皿1点、鉄製品、銅製品、砥石。鉦の吊耳部分（第54図6）が出土している。覆土中より不明溶解物などを検出している。

土壙2（第48図・PL.16－5，6）：19M9区に位置する。長軸82cm、短軸76cmの楕円形、深さ48.0cm。底面付近礫が数個ある。覆土中より不明溶解物、炭化米、小豆、胡桃、骨片などを検出している。遺物は、越前擂鉢が出土している。

土壙4（第48図・PL.3－3）：19L6区に位置する。長軸1.13m、短軸0.96mの楕円形、深さ79cm。覆土中より不明溶解物、米、小豆、胡桃、骨片等を検出している。遺物は、白磁皿、灰釉端反皿、越前擂鉢、鈎釘（第54図10）などが出土している。

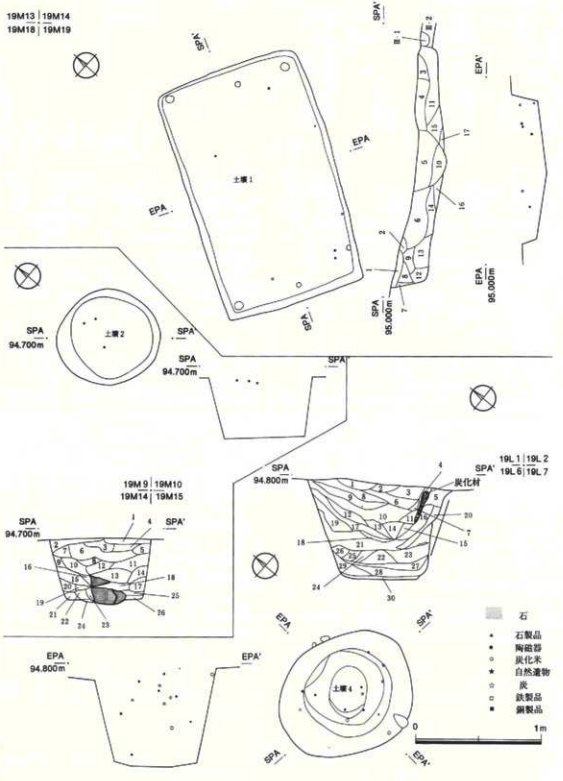
土壙8（第49図・PL.16－7，8）：19L24区に位置する。長軸1.0m、短軸93cmの楕円形、深さ約45.0cm。底面に小柱穴を検出し、杭が残存していた。覆土中より不明溶解物、米、ぶどう、小豆、骨片などを検出している。遺物は、見込獅子文の染付端反皿、ガラス玉（第54図11）、小札が出土している。

土壙17（第49図）：19L16区に位置する。長軸79cm、短軸63cmの隅丸長方形、深さ約45cm。覆土中より米少量他を検出している。15世紀代後半に位置づけられる白磁皿1点が出土し、土壙4出土の白磁皿と接合できた。

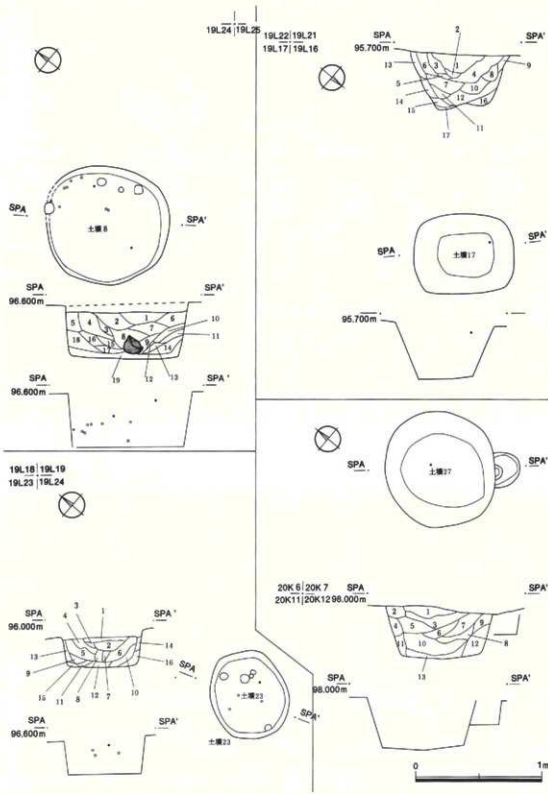
土壙23（第49図）：19L24区に位置する。長軸70cm、短軸61cmの楕円形。深さ約31cm。底面に小柱穴を検出した。遺物は染付端反皿が1点出土している。

土壙27（第49図）：20L7区に位置する。長軸91cm、短軸86cmの楕円形、深さ約42cm。覆土中より不明溶解物、小豆、胡桃、骨片等を検出している。遺物は越前擂鉢が出土している。　（松田）

(6)　櫓列（附図・PL.11－3，4）：19M1～20M15区の館主体部の台地縁辺部に位置する。今年度の調査では新たに34.8m程を検出した。幅約30～40cmを布堀にして柱（杭）を打ち込んで作られていたと推される。後世の削平等で不確定であるが、20M15区付近の観察では深さは約40cmである。19M24区付近で古い櫓列跡を検出した。20L15区付近でも、底面に段が付き2条の様に見えるので古い櫓列の痕跡とも考えられる。又、20M4区で櫓列に隣接して一辺約70cmの大型柱穴P903を検出した。大きさからすると、太い柱が立つことが想像されるが、櫓列との関係を含めてその性格は不明である。（松田）



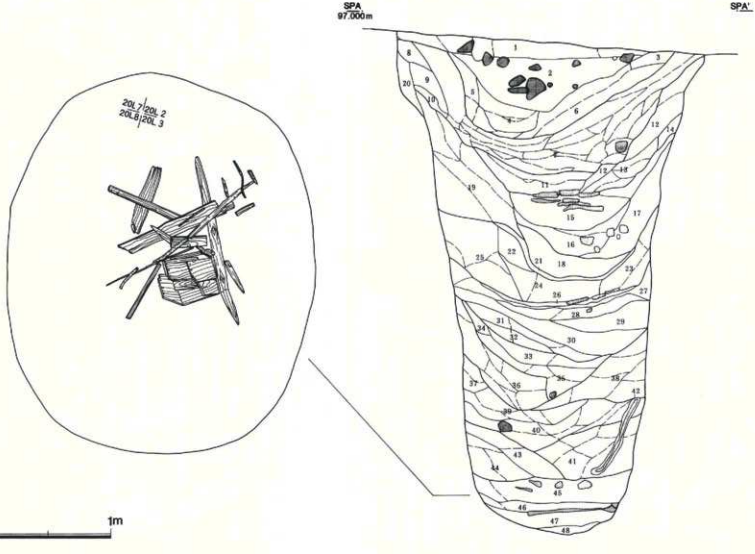
第48図　土壙1・2・4平面図他



第４９図　土壙８・１７・２３・２７平面図他

第５０図　井戸跡平面図他

第51図　井戸跡(第1号)土層断面図



(7) 井戸跡（第50・51図・PL.4・14・表19）：21L3・8区に位置する。上部径2.9×2.5m、底径1.1×0.9m、深さ4程の一部崩落による楕円形を呈す素掘りの井戸である。更に壙底中央に80×65cm、深さ10cm程の落ち込みが見られる。

遺構確認面では中央から、黒色土・褐色土・白色火山灰・褐色土と言うように、リング状に堆積する層が確認されている。覆土最上部中央には縄文の石器を含む多量の集石（PL.14－1）が検出され、16世紀代の砂質底染付皿（第57図1）も出土している。北側中央、深さ60cm程に多量の白色火山灰が堆積し（PL.4－1）、1.3m程から茅や刺物（第58図7）、自然木等が非常に良好な遺存状態で出土している。（PL.4－3）。茅は繊維方向が多少乱れてはいるが、縦横交互に厚く堆積している様子が見られる。その後、同じ様な遺物を含む状態が続く が、深さ2.0m程から少量の茅混じりで、やや粒子の粗い全面黒色腐植土になり、多量の箸（第57図15～23）や、下駄、曲物片？、少量の陶磁器等、生活用具が出土していない。このあたりから掘り方が隅丸方形状を呈し、壁は堅くしまった状態になる。その後、人工的に短時間の内に埋められた様なローム主体の堆積状態になり、遺物もほとんど出土していない。地表下3.5m程から、やや腐植土混じりの層になり、桶（PL.15－2・第59図1）、天秤棒（第58図8）、先端加工を施した杭状木製品等が出土している（第51図・PL.4－5）。桶は土圧で若干の潰れが見られるが、ほぼ原型をとどめた程度の良好な状態であり、桶の物と思われる鉄釘・木釘が出土している。その後、壙底部から滑車の外枠（PL.4－6・第59図4）が出土している。保存状態は良好だったが、滑車を受ける軸部分がちぎれており、滑車部分やそれに伴う綱等は出土していない。

生活用具を含む、全面黒色腐植土層から上層は自然堆積、下層は井戸そのものに付随する遺物を含む人工堆積の傾向が見られる。完掘に至るまで水の湧き出しが一切無かった事等から、水が枯れ、用を成さなくなった為に廃棄された井戸だと推される。第93号竪穴建物跡埋没後に掘られた井戸である。（長内）

井戸跡内出土の遺物（第57～59図・表20）：井戸跡からは陶磁器54点、鉄製品9点、木製品227点（漆器片を含む）、自然木51点、銅製品他5点が出土した。自然木としたものの内数点は、樹皮が付いたままの枝等の先端を加工した製品の一部である可能性が高いので今後改めて検討を要する。等に木製品は同定作業も不充分であり、樹種鑑定行っていない状態にあるので、今後の課題である。

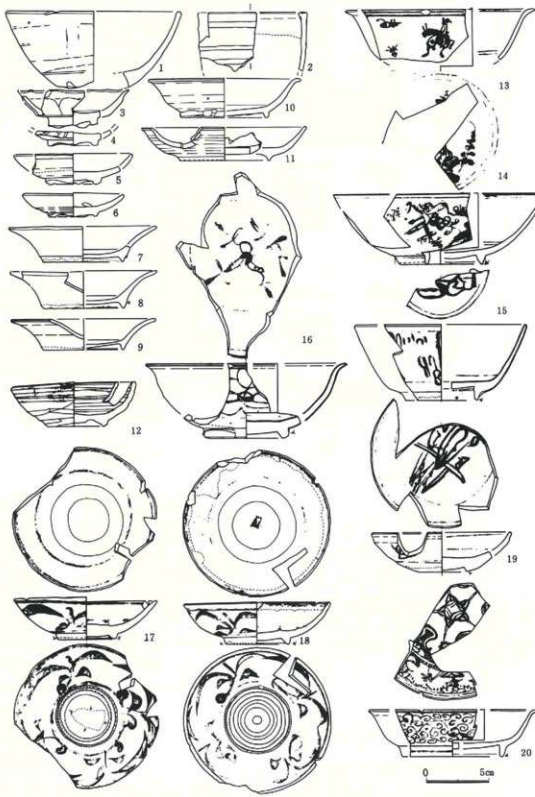
サンプリング土中からガラス玉、目貫金具（第57図6・7）を検出した。桶（第59図1）は5枚の板を組み合わせたもので、板の平面は削り痕跡も目立たないほどに仕上げられている。鉄釘と木釘を併用していたようである。出土時は側板部が上下に2つないし3つに、底部は2つに割れていたが、腐植は少なく保存状態は良好である。ただ土圧の為か横板の反りが激しく、復原すると形は歪んでしまう。実測図で前面とした側板は底板接地部に半円形の孔を穿っている。この様な状態では液体物は汲めないので、汲桶ではなく、他の用途に用いたのだろうか。参考に模式図を掲げた。挟み串（第58図5）は、一端を削り尖らせ、他方は一部欠損しているが、縦半分に深く切り込みを入れている。呪符等を挟めるためのものと考えられる。灯明皿台（14）は欠損はしているものの一乗谷朝倉氏遺跡出土のものに形状が似ることから同様のものと推測した。陶磁器は、図示したものの他に、白磁端反皿、染付碗、染付端反皿、灰釉鍔皿などが出土している。内耳鉄鍋（第58図1・2）は二点出土したが、耳の形状が異なるので別個体であろう。刺物は側面に三個の孔が穿たれていて、吊り下げ用のものとも考えられるが、別材をつづり合わせたりしている可能性もある。今一つ具体的な機能、名称を想定できない。（松田）

表19　井戸跡土層観察表

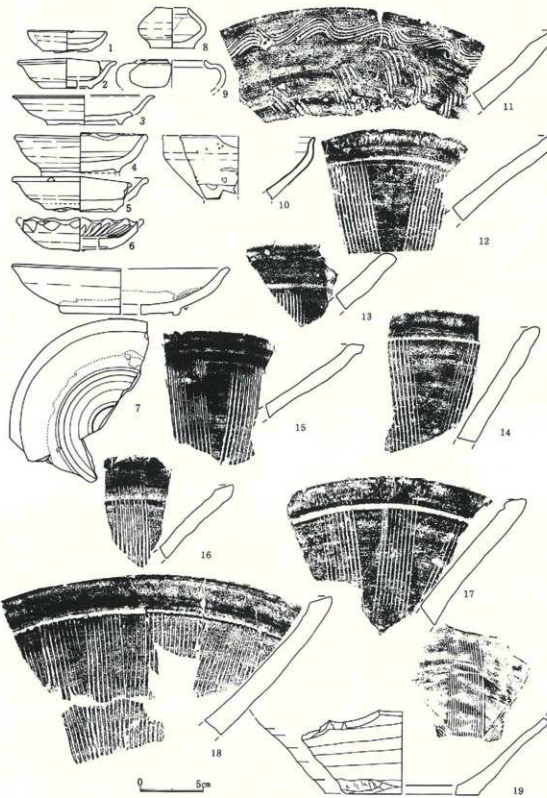
1	10YR 3/3	暗褐色土主体	礫粒中量	玉砂利微量	基盤粒少量		ローム粒少量			ソフト		C少量	焼土粒微量	
2	10YR 3/2	黒褐色土主体	礫粒微量	小礫中量			ローム粒微量			ややソフト		C少量	焼土粒微量	
3	10YR 3/3	暗褐色土主体	礫粒微量		基盤粒微量		ロームブロック多量			ややハード		C微量	焼土粒微量	
4	10YR 3/3	暗褐色土主体	礫粒少量		基盤粒微量		ローム粒微量			ややハード		C微量	焼土粒微量	
5	10YR 4/4	ローム主体	礫粒少量		基盤粒少量		ローム粒多量		火山灰微量	ややハード		C微量		
6	10YR 4/4	ローム主体	礫粒微量		基盤粒微量		ローム粒中量		火山灰少量	ややソフト		C微量		
7	10YR 7/1	火山灰主体	礫粒微量				暗褐色土中量		火山灰多量	ソフト		C微量		
8	10YR 3/3	暗褐色土主体	礫粒微量		基盤粒微量		ローム粒微量			ソフト			焼土粒微量	
9	10YR 4/3	にぶい黄褐色土主体	礫粒少量		基盤粒少量		ローム粒少量	ロームブロック少量	火山灰少量	ややソフト		C少量		
10	10YR 2/1	黒色土主体	礫粒微量				ローム粒微量		火山灰中量	ソフト		C少量		
11	10YR 2/3	黒色土主体	礫粒微量						火山灰微量	ソフト		C少量		
12	10YR 3/1	黒褐色土主体	礫粒微量						火山灰少量	ソフト		C少量		
13	10YR 2/3	黒褐色土主体	礫粒微量						火山灰微量	ソフト		C少量		
14	10YR 3/3	暗褐色土主体	礫粒微量				ローム粒微量		火山灰少量	ソフト		C少量		
15	10YR 2/2	黒褐色土主体							火山灰微量	ソフト		C少量		
16	10YR 2/2	黒褐色土主体	礫粒微量							ソフト		C中量		木質多量
17	10YR 3/3	暗褐色土主体	礫粒中量				ローム粒中量	ロームブロック少量		ソフト		C少量	焼土粒微量	
18	10YR 3/2	黒褐色土主体					ローム粒中量		火山灰少量	ソフト		C少量		木質中量
19	10YR 4/4	ローム主体		玉砂利少量	基盤礫少量	基盤粒少量	ローム多量		火山灰少量	ハード		C微量		
20	10YR 5/6	ローム主体	礫粒少量		基盤礫中量		ローム粒多量			ハード		C微量		
21	10YR 3/2	黒褐色土主体					ローム粒少量		火山灰少量	ソフト		C少量		木質多量
22	10YR 5/3	ローム主体	礫粒微量		基盤礫少量	基盤粒少量			火山灰微量	ややハード		C微量		木質中量
23	10YR 5/4	ローム主体	礫粒微量		基盤粒微量					ハード		C微量		木質微量
24	10YR 4/3	ローム主体	礫粒少量	玉砂利少量	基盤粒微量				火山灰微量	ややハード		C微量		木質少量
25	10YR 5/4	ローム主体	礫粒微量				酸化粒微量			ややハード				
26	10YR 3/2	黒褐色土主体		玉砂利微量					火山灰少量	ソフト		C少量		木質多量
27	10YR 5/4	ローム主体			基盤粒微量					ややハード		C微量		木質微量
28	10YR 2/2	黒褐色土主体	礫粒微量		基盤粒少量				火山灰少量	ややソフト		C微量		木質多量
29	10YR 4/2	ローム主体	礫粒少量	小礫微量	基盤粒微量		10YR 6/6 ローム粒少量			ややソフト		C微量		
30	10YR 2/1	黒色土主体	礫粒微量		基盤粒微量		ローム粒微量			ソフト		C微量		木質中量
31	10YR 4/3	ローム主体	礫粒微量	玉砂利微量	基盤礫微量	基盤粒少量	10YR 3/2 黒褐色土少量			ややソフト		C微量		
32	10YR 5/4	ローム主体	礫粒中量		基盤礫微量	基盤粒少量	10YR 3/1 黒褐色土微量			ややソフト				
33	2.5Y 4/2	ローム主体	礫粒中量		基盤礫微量	基盤粒微量				ややソフト		C微量		
34	10YR 5/4	ローム主体	礫粒中量	玉砂利微量	基盤粒少量					ややソフト				
35	10YR 5/1	ローム主体	礫粒微量	玉砂利微量	基盤礫微量	基盤粒微量				ハード	粘性強			
36	2.5Y 4/3	ローム主体	礫粒微量		基盤粒微量					ハード	粘性強			
37	10YR 4/4	ローム主体	礫粒少量		基盤粒少量		5Y 3/1 オリーブ黒色土少量			ややソフト				
38	10YR 4/2	ローム主体	礫粒微量		基盤粒微量					ハード	粘性強			
39	10YR 5/3	ローム主体	礫粒少量	玉砂利微量	基盤礫少量	基盤粒少量				ややハード				
40	2.5Y 4/2	ローム主体	礫粒微量		基盤粒少量		5Y 3/1 オリーブ黒色土微量			ややハード				
41	2.5Y 4/2	ローム主体	礫粒少量		基盤粒微量					ハード	粘性強			
42	2.5Y 4/1	ローム主体	礫粒微量				2.5Y 2/1 黒色土多量			ハード	粘性強			
43	7.5Y 4/3	ローム主体	礫粒少量		基盤粒微量					ハード	粘性強			
44	2.5Y 4/2	ローム主体	礫粒少量		基盤粒少量		黒灰色土少量			ややソフト				
45	2.5Y 4/2	ローム主体	礫粒微量		基盤礫中量	基盤粒中量	2.5Y 4/1 黄灰色土少量			ややハード				
46	2.5Y 3/3	ローム主体	礫粒微量		基盤礫少量	基盤粒多量	2.5Y 7/1 灰白色土少量			ややハード				
47	2.5Y 3/2	黒褐色(基盤粒)主体	礫粒微量		基盤礫少量	基盤粒多量				ややソフト				
48	2.5Y 6/2	灰主体	礫粒微量		基盤礫中量	基盤粒少量				ややソフト		C微量		

表20　井戸跡内出土遺物観察表

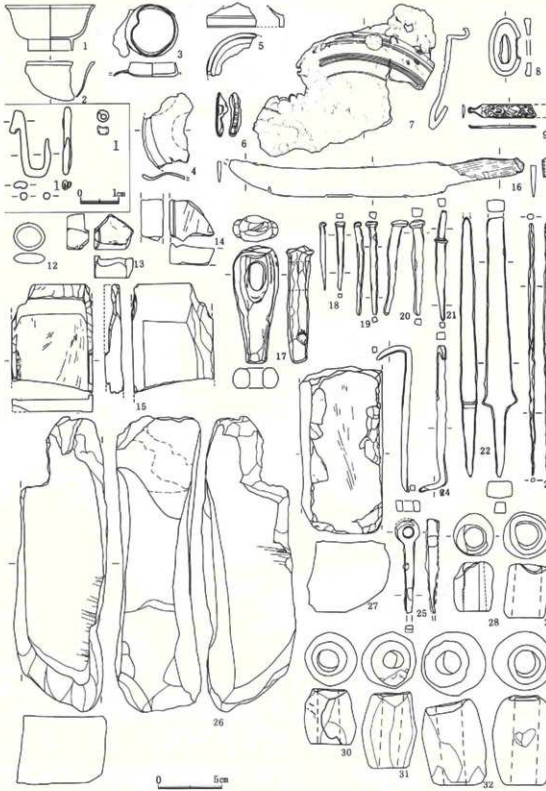
	法量 mm			釉調	胎土	特徴	図版番号
	口径	底径	器高				
染付皿	(98.0)	(38.0)	27.0	グレイみの黄緑	うすい黄	口縁は軽く内湾気味。見込は寿、外面は文字を図案化。碁笥底。	第57図1
瀬戸美濃鉄釉碗		35.0		くらいグレイみのブラウン	うすい黄	内反。腰部に鬼板が塗られる。削り出し高台。	第57図2
瀬戸美濃灰釉皿	112.0	64.0	26.0	くらい黄	ベージュ	内湾気味に立ち上がる。全面施釉。	第57図3
瀬戸美濃灰釉皿	102.0	60.0	22.5	にぶい黄	にぶい黄みのオレンジ	内湾気味に立ち上がる。見込菊花文。	第57図4
瀬戸美濃灰釉皿	112.0	66.0	27.0	グレイみの黄	ベージュ	腰部が張り緩やかに外反。見込菊花文。全面施釉付高台。	第57図5
練鉢擂鉢				あかるいオリーブみのグレイ	ベージュ	口唇断面形は丸味を有し、水平1㎝の所に沈線が廻る。	第57図8
練鉢擂鉢				グレイ	グレイ	口唇断面形はやや鋭角。段の上まで卸目が到る。	第57図9
練鉢擂鉢				あかみのブラウン	うすい黄	口唇断面形は鋭角で内削り気味。	第57図10
練鉢擂鉢				グレイ	黄みのグレイ	口唇断面形は鋭角。	第57図11
練鉢擂鉢				つよい赤みのオレンジ	黄みのピンク	口唇断面形は鋭角。　磨耗が激しい。	第57図12
練鉢擂鉢				うすいベージュ	うすい黄	口唇断面形はやや鋭角。外面口縁直下に指押さえの痕跡が有る。	第57図13
	長さ	幅	厚				
灯明台	(70.0)	21.0	10.0			上縁は緩い弧に削られ、端は削り整えられる。	第57図14
箸	(209.0)	6.5				一端が欠損。	第57図15
箸	(211.0)	6.0				一端が欠損。	第57図16
箸	(227.0)	6.0				一端が欠損。	第57図17
箸	(224.0)	8.0				一端が欠損。	第57図18
箸	(217.0)	6.0				一端が欠損。	第57図19
箸	235.0	8.0				完形品。両端が尖る。	第57図20
箸	249.0	8.0				完形品。両端が尖る。	第57図21
箸	252.0	8.0				完形品。両端が尖る。	第57図22
箸	267.0	6.0				完形品。両端が尖る。	第57図23
目貫	135.0	1.5				3.1g。植物が彫られる。	第57図6
玉						径4.0㎜　高さ3.0㎜　くらいグレイみの青。	第57図7
				重量 g			
鍋	(82.0)	(50.0)	(3.0)	70.0		内耳鍋。耳部分。外面22㎜。	第58図1
鍋	(41.0)	(20.0)	(2.0)	9.3		内耳鍋。耳部分。腐食が著しい。	第58図2
鍋	(42.0)	(23.0)	(4.0)	8.3		吊耳鍋。弦穴2つ。	第58図3
滑車枠	330.0	93.0	47.0			遺存状態は良いが、滑車軸のみ磨耗のため脆弱。	第58図4
はさみ串	(327.0)	8.0	6.0			基部は鋭く尖りやや中間位置まで割る。	第58図5
鉤	183.0		28.0			鉤先端、軸が削り整えられる。	第58図6
刳物	(442.0)	(165.0)	10.7			一木を舟底状に刳り抜き、一端は鱗状に整形される。深さ7.5㎝の側縁上部にやや等間隔の3個の孔がある。	第58図7
天秤棒	(1101.0)	31.0	16.0			端部に両側からの切り込みがある。中央断面は太く扁平。	第58図8
桶						正面300.0㎜×横295.0㎜×高さ315.0㎜　底板厚14.0㎜。側板厚13.0～14.0㎜。正面底部右寄りに径35.0㎜半円状に刳り抜かれる。	第59図1



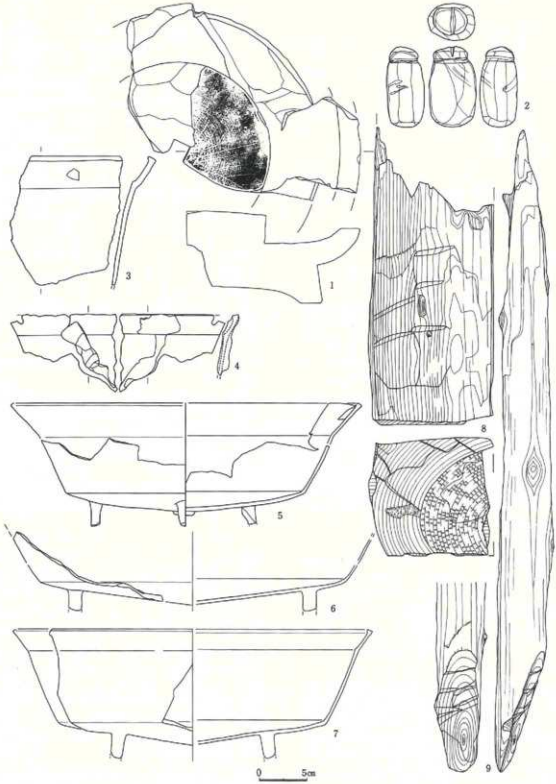
第５２図　調査区出土遺物（陶磁器）



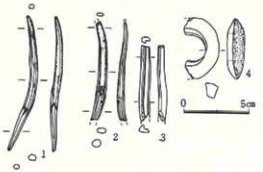
第５３図　調査区出土遺物（国産陶器）



第５４図　調査区出土遺物（金属製品他）



第５５図　調査区出土遺物（金属製品他）



第５６図　調査区出土遺物（骨角器）

(8)　出土遺物の概要

陶磁器・金属製品・石製品・木製品他、計3,948点出土した（第52～56・59図・表21～24）。以下、井戸跡出土遺物以外の遺物について概要を述べる。

a　陶磁器（第52・53図）

総破片数2,728点を数える。その内舶載品は総出土破片点数全体の約51％、国産品は約49％である。又、近世陶磁器が89点出土している。碗の破片出土点数の主体を占めるのは染付であり約47％、次に青磁約27％、灰釉約12％、鉄釉約12％と続く。皿の主体を占めるのは灰釉であり約40％、次に染付約27％、白磁約26％と続く。碗は舶載品の染付が最も多く、皿は国産品の灰釉が最も多いが、国内外産で見ると碗・皿とも舶載品が各々約77％、約57％と半分以上を占める。擂鉢や甕は殆どすべてと言ってよい程、越前産のもので占められる。以上の点から、供膳具は舶載品・国産品で構成され、調理具は国内産によって占められていることがわかる。

青磁（第52図１・２）　碗・皿・香炉他234点出土した。香炉（第52図２）はP575・601から出土したものが接合した。碗は、端反無文のもの、直口縁で剣先連弁文、線描連弁文（1）、省略した雷文などがある。皿は稜花皿が主体である。図示はしていないが、瓶の胴部？・耳なども出土している。

白磁（第52図３～11）　碗・皿・杯他435点出土した。八角杯（３）は勝山館跡では２個体目である。15世紀代に位置づけられ、勝山館跡出土陶磁器の中では古いグループに属する。皿は端反糸底皿（10）が主体で、底部より大きく外反するもの（７・８・９）、切高台の皿（４・５・６）などがある。

染付（第52図13～20）　碗・皿・杯717点出土した。碗は端反碗（13）、連子碗（14・15）、饅頭心のものがある。16は絵が抽象的で、高台には釉がかからないものである。漳州窯系ではないかと推察するが今後検討を要する。皿は蓋筒底の皿は見込に魚が貼り付けられたもの、寿を抽象化した文様を描くもの（19）。獅子文・陽磨文などの端反糸底皿（20）がある。17・18は漳州窯系の皿である。見込を蛇の目剥ぎにしていて、外面は折花文である。胎土は陶質。17は内面には煤が付着し、釉の光沢も鈍いので被熱した可能性がある。

赤絵　端反碗が出土している。小片で、接合に至らないものが多いため図示はしていないが、複数個体あるとみられる。今後、過年度出土品と併せて整理したい。

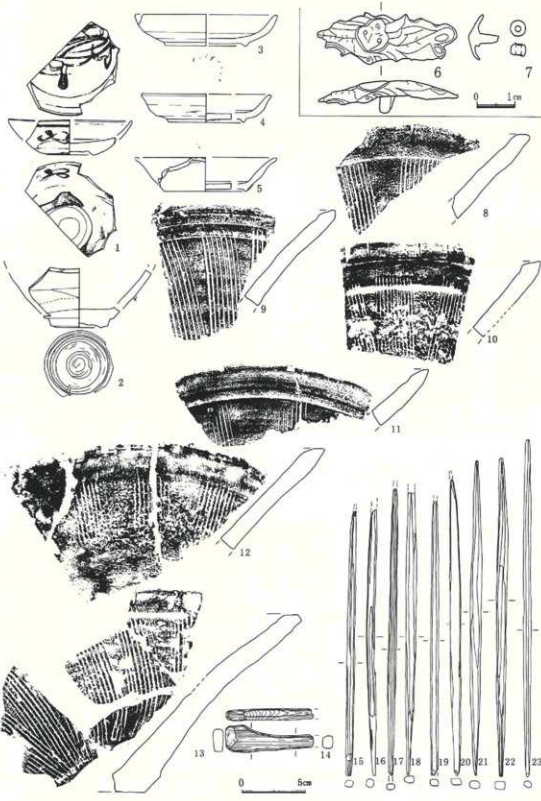
鉄釉　細片であるため図示しえなかったが、舶載品と思われる鉄釉茶入の口縁部が、第85号竪穴建物跡覆土より出土している。器幅は薄く作られ、胎土は緻密である。捻り返しは、非常に小さく表現され、内面は口唇下５㎜程まで施釉されている。器形は不明。

朝鮮　碗１個体（第52図12）が出土した。小型の刷毛目碗である。勝山館跡では他にも朝鮮陶磁器が数個体出土しているが、この器種のものは類例をみない。

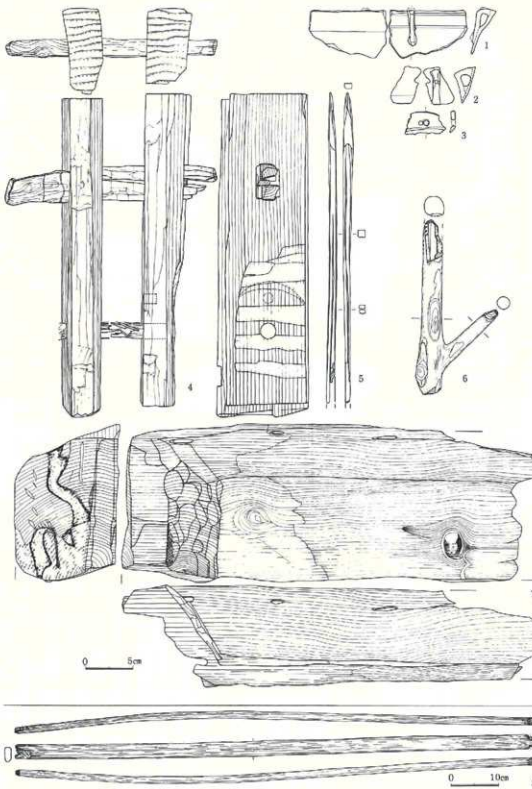
瀬戸・美濃（第53図１～７・19）灰釉は碗・皿・水滴など731点、鉄釉は天目碗、平碗、皿、茶入など86点出土した。灰釉碗は無文、劍先連弁文がある。灰釉皿の主体を占めるのは端反皿（２・３・５）であり、次に丸皿（４）である。他にも菊皿、鍔皿が出土している。第52図７は口径17㎝と大型の皿で、口縁は僅かに端反である。見込、胴下半部、高台部分は露胎である。大窯Ⅰ期末に位置づけられるものと考えられる（井上喜久男氏の御教示）。鍔皿（６）は菊刷ぎが施されている。灰釉の水滴（８）は窖窯期のもので14世紀代（井上氏御教示）。鉄釉碗は天目が殆どで、輪高台、内反高台のものがある。平碗は極少ない。鉄釉皿は端反皿、稜皿がある。鉄釉茶入（９）はいわゆる「大海」である。内面にも釉が施されている。

志野　碗・皿９点が出土した。図示はしていないが、端反皿が出土している。

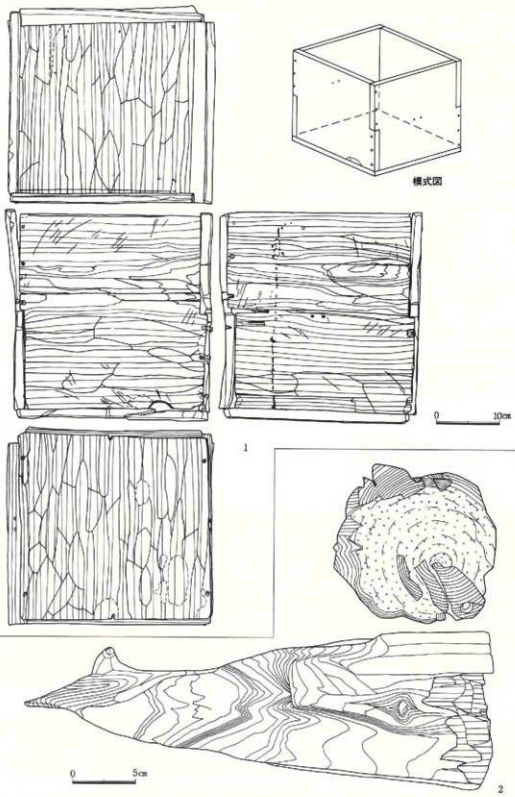
唐津　皿５点が出土した。図示はしていないが、胎土目皿が出土している。



第５７図　井戸跡内出土遺物



第５８図　井戸跡内出土遺物



第５９図　井戸跡内・調査区出土遺物

越中瀬戸　鉄釉碗（第53図10）が出土している。

越前（第53図12～18）　擂鉢・甕計492点出土している。

珠洲　擂鉢が3点（同一個体）出土した（第53図11）。卸目はまばらに施されている。吉岡編年の第Ⅵ期に相当する。

土製品　陶錘（第54図28～33）が出土している。長さ4cm前後、重さ30g～70g（28～30）前後と、長さ6.5cm前後、重さ110g前後（31～33）の二つのグループがある。前者は重さに幅があるので、細分できるのかもしれない。30は素地を重ね合わせた痕跡が残り、製作技法をうかがえる。

b　**金属製品**

鉄製品（第53・54図）内耳・吊耳鉄鍋、釘、鎹、鏃、小札、火箸、遊金、用途不明製品など551点出土している。鉄鍋の出土例は吊耳式三足丸形湯口が多い。特に竪穴建物跡から形状をうかがえる良好な状態で出土することが多い。5は補修のためのものか銅が内外面に大量に付着している。23は刺突具の一種であろう。類例としては、概報Ⅻ第24図6が挙る。

銅製品（第53図）弩、小柄などの武具、鉦、六器鋺などの仏具等が出土している。1・2とも素文の六器碗。口唇は若干厚みがあり、わずかに反る。1は第16号建物跡のP420掘方から出土した完形品である。5は亜字形花瓶の高台部であり、遺存状態は良好で腐植はあまり見られない。過年度調査では、同一個体と考えられる口縁部や頸部、胴部の一部も見つかっている。底径の大きさが、奈良県西大寺に伝世するもの（鎌倉時代作）とほぼ同じである。それと同型であることを前提に復元すると、高さ11cm位のものと考えられる。鉦、鉦の吊耳部は伏鉦と考えられる。

銭は表の通り6種確認した。銭名が読みとれるものは少ない。又、20枚程が重なった状態のものも出土している。

c　**石製品**（第54・55図）硯、砥石、茶臼、碁石？等が出土している。砥石（27）は越前産の浄清寺砥石。茶臼（第55図1）は下臼皿部分であり、平成8年度出土の下臼（概報Ⅹ㎜、第44図5）と接合できたので改めて図示した。摺り目は、度重なる使用の為か非常に薄くなってしまっている。男根状製品（2）は同時代の資料では木製品のものばかりで、石製品の類例は不明である。P812の堀方覆土より出土した。肌理の細かい砂岩のようなもので作られている。被熱のためか部分的に煤けている。

d　**木製品**（第55図）井戸跡より多数出土しているが、柱穴、土壙などから柱材・礎盤・杭が出土している。又、漆器片（碗か）が出土している。

e　**骨角器**（第56図）殆どのものが被熱して白色を呈し、細片となっているが、中柄と考えられる破片が多い。全体の形状を図示できたものは1個体のみである。被熱のためか、いずれも反りが強い。他に環状製品（4）が出土した。（松田）

表21　遺物観察表（陶磁器）

	法量			釉調	胎土	特徴	出土地点	図版番号
	口径	底径	器高					
青磁碗	(138.0)			グレイみのオリーブ	ベージュ	粗略な線描蓮弁。	19L16・溝2他	第52図1
青磁香炉	(90.0)			グレイみのオリーブ	黄みのグレイ	胴部に3本の凹線がまわる。口縁は内傾。被熱。	19L7－P575、19L8・P601	第52図2
白磁八角杯	(88.0)	39.0	30.0	黄みの白	うすい黄	白濁した釉薬が施されている。胴下部から高台は露胎である。	20L3・第83号竪穴他	第52図3
白磁皿			38.0	黄みの白	白	高台は抉り込まれ畳付以下露胎。内底面に目痕。	20K12・第91号竪穴他	第52図4
白磁皿	(94.0)	44.0	24.0	黄みの白	うすい黄	器面大半が煤状に黒い。油の浸透によるものか。	全I・18M15他	第52図5
白磁皿	80.0	38.0	19.0	黄みの白	黄みの白	高台全面施釉。重ね焼の痕跡あり。	19M4	第52図6
白磁皿	(116.0)	(64.0)	28.0	黄みのグレイ	黄みの白	畳付から外反して口縁に至る。	20L3・第85号竪穴他	第52図7
白磁皿	116.0	64.0	29.5	黄みの白	白	畳付から外反して口縁に至る。畳付部に砂付着。	20L5・第85号竪穴他	第52図8
白磁皿	120.0	64.0	24.5	黄みのグレイ	緑みの白	畳付から外反して口縁に至る。	20L3・第85号竪穴他	第52図9
白磁皿	120.0	68.0	30.0	黄みの白	黄みの白	端反口縁。畳付部分に砂が多量に付着する。	15L2・溝12	第52図10
白磁皿	130.0	70.0	26.5	あかるいオリーブみのグレイ	あかるいオリーブみのグレイ	丸皿畳付のみ無釉。細かい貫入が入る。	15L14・溝37他	第52図11
刷毛目小碗	98.0	45.0	35.0	あかるいオリーブみのグレイ	あかるいオリーブみのグレイ	内面全面と外面の口縁から胴部まで白泥が塗られる。	16L24・20L3他	第52図12
染付碗	(150.0)			緑みの白	白	端反口縁。体部に人馬（随行官人図）を配する。	第91号竪穴・20K12	第52図13
染付碗	167.0	(65.0)	55.5	グレイみの黄緑	黄みの白	浅く大きく開いた碗。胴部に梅、樹、鳥が描かれる。見込二重圏内に梅の粗描。	19L20・22J19他	第52図14
染付碗	(136.0)	(57.0)	60.0	グレイみの黄緑	黄みの白	器壁が厚く、腰の張る角張った形。体部にアラベスク文。被熱。	第84・86号竪穴	第52図15
染付碗	(158.0)	(66.0)	54.0	グレイみの黄緑	黄みの白	端反口縁。高台台形で整形粗雑。見込に抽象文様。	第91号竪穴他	第52図16
染付皿	110.0	45.0	33.5	グレイみの黄	ベージュ	内面圏線。見込は蛇の目。外面に折枝文。	20K・溝54他	第52図17
染付皿	116.0	50.0	33.5	うすい黄	うすい黄	内面圏線。見込は蛇の目。外面に折枝文。	20K6・溝1他	第52図18
染付皿	(111.0)	(38.0)	31.0	グレイみの黄	グレイみの黄	内外面とも文字をモチーフとした文様。碁笥底。	20K12・第91号竪穴	第52図19
染付皿	(133.0)	(80.0)	37.0	白	白	内面はアラベスク文様。外面は、渦状に装飾化された唐草文。	19L7・Ⅱ	第52図20
灰釉皿	62.0	38.0	26.0	グレイみの黄	ベージュ	丸皿全面施釉。削り出し高台。底部内面には菊花文。	19M4・P425	第53図1
灰釉皿	78.0	40.0	22.0	グレイみの黄	ベージュ	端反。全面施釉。腰が張る。付高台。底部に輪ドチ跡あり。口縁に付着物有り。	20L18・Ⅱ	第53図2
灰釉皿	112.0	60.0	23.0	にぶい黄緑	うすい黄	端反、全面施釉。付高台。被熱。	19L16・溝2	第53図3
灰釉皿	105.0	62.0	31.0	にぶい黄	うすい黄	丸皿。全面施釉。底部にトチン痕残る。	19M4・P444柱痕	第53図4
灰釉皿	107.0	56.0	25.5	グレイみの黄緑	うすい黄	端反皿。全面施釉。底部にトチン痕。底部内面に釉が溜まる。	19M10・溝56	第53図5
灰釉皿	(100.0)	(50.0)	25.0	グレイみの黄	うすい黄	丸皿。体部内面に丸ノミ状工具による刻文。口縁を指で押さえ輪花風にする。見込の釉を拭う。	19L17ⅠⅡ	第53図6
灰釉皿	172.0	94.0	38.5	あさい黄緑	うすい黄	丸皿。胴部上方に稜が入る。見込、胴部下半以下無釉。削り込高台。	20L10溝1	第53図7
灰釉小皿	(54.0)	36.0	(32.0)	グレイみの黄	グレイみの黄	糸切り痕未調整の平底。底部周辺を除き施釉される。	19M15溝5	第53図8
鉄釉茶入	(56.0)	(86.0)		こい黄みのブラウン	グレイみの黄	大海形。肩部には沈線が巡る。頸部はやや内傾し、玉縁状になる。	19L2ⅠⅡ	第53図9
越中瀬戸鉄釉碗	(120.0)			くらい黄みのブラウン	ブラウンみのグレイ	体部は僅かに丸味を帯びる。口唇はほぼ直立し、端部はやや外反する。胎土は磁器質で体部内外面とも釉むらが見られる。	27K7	第53図10
珠洲擂鉢			62.0	くらいグレイ	グレイ	素地は粗く砂が目立つ。口縁内面に七本の波状文。	20K11	第53図11
越前擂鉢			68.0	赤みのブラウン	グレイみのオリーブ	口唇断面形丸味。十条一単位の卸目。内面に段をもつ。	19L16・溝2	第53図12
越前擂鉢			45.0	グレイ	ベージュ	口縁断面形丸味。1㎝程の所に沈線が廻る。	19K23Ⅰ	第53図13
越前擂鉢			61.0	つよい赤みのオレンジ	にぶい黄みのオレンジ	口縁断面形丸味。1㎝程の所に沈線が廻る。水平に近くなる。	19K23・溝18	第53図14
越前擂鉢			78.0	グレイ	ベージュ	口唇断面形鋭角。口唇下1㎝程の所からへこむ。	20M4・P905	第53図15
越前擂鉢			58.0	こい黄みのブラウン	あさい赤みのブラウン	口縁内削ぎ気味。口唇直下に段が廻り、外面屈曲の段がある。	20M4・P99	第53図16
越前擂鉢			97.0	ピンクみのグレイ	ピンクみのグレイ	口縁内削ぎ気味。口唇下7.8㎜の所に太い沈線が廻る。	19K11・P1432	第53図17
越前擂鉢			113.0	ブラウンみのグレイ	ブラウンみのグレイ	口縁内削ぎ気味。全面に卸し目。	20L4・第84号竪穴	第53図18
美濃擂鉢		122.0		くらいブラウンみのグレイ	にぶい黄みのオレンジ	右上がりの段が明瞭に残る。	19K17Ⅰ	第53図19

表22　遺物観察表（鉄製品他）

	口径・長さmm	底径・幅 mm	器高・厚さmm	重量 g	特　　　徴	出　土　地　点	図版番号
六器鋺	70.0	35.0	36.0	61.0	完形品、簡素な形態。	19M15P751	第54図1
六器鋺	(38.0)	(34.0)	(2.5)	10.9	口縁が肥厚している。	19L7Ⅰ	第54図2
六器台皿	(50.0)	(11.0)	(1.0)	28.9		19L7Ⅰ	第54図3
六器台皿	(54.0)	(34.0)	(2.0)	11.8	皿部分推径88mm。	19M4P426	第54図4
花瓶		(60.0)	(19.0)	14.3	台座部分推径60mm。	19L17Ⅲ	第54図5
鉦	34.5	9.0	8.0	4.0	耳部分。	19M19土壙1	第54図6
鉦	(116.0)	(85.0)	(7.0)	305.0	側縁に耳が付く。被熱のためか銹化が激しい。	19K23溝18	第54図7
鍔	45.5	25.0	15.9	15.9	楕円形で切り出しがある。縁に3.5mm隆帯がつく。	19L20P1474	第54図8
笄	(54.0)	(11.0)	(2.0)	5.0	平形笄。胴部には草花が彫られる。	19K12P1441	第54図9
玉				0.1	径3mm、高さ2mm、あさい緑みの青。	19L24土壙8	第54図10
釣針			17.5	0.3	アグ無し、かえしが付く。	19L24土壙8	第54図11
碁石	23.5	8.0		5.6		'97Ⅰ	第54図12
硯	(31.5)	17.0	(28.0)		全長・全幅とも不明。側縁帯幅4mm。	19M20Ⅰ-1	第54図13
硯	(22.0)	16.0	(34.0)		全長・全幅とも不明。側縁帯幅4mm。	'97Ⅰ	第54図14
硯	63.0	9.0	(84.0)		長方硯、暗灰色を呈する。	19L22P990	第54図15
刀子	26.0	5.0	233.0	696.0	平作り、木質の柄が僅かに残る。	20L13Ⅲ-1	第54図16
不明金具	92.5	35.0	11.5	156.4	両端に打痕がある。	19L19-1	第54図17
釘	5.0	4.0	54.0	3.3	折釘、完形品。	19L14溝37	第54図18
釘	6.0	6.0	74.0	4.6	折釘、完形品。	19L17溝2	第54図19
釘	12.5	8.0	75.0	12.9	折釘、完形品。	19M13Ⅲ	第54図20
鏃	7.5	8.0	(87.5)	2.9	茎長23mm。根先部・茎断面とも四角形。	20L12Ⅲ	第54図21
漁具	2.7	14.0	20.5	154.5	茎長55mm、槍先の形状を示す。	20K1P1291	第54図22
火箸	5.0	4.5	19.9	12.5	断面楕円形？ねじりが入る。	20L7P1114	第54図23
鎹	7.0	5.5	11.5	7.5	断面角形。方向の違う両端は鋭く尖る。	19M4P423	第54図24
壺金	19.0	11.0	75.0	17.4	鉄板を折り合わせ軸受け部を作る。	20L14	第54図25
砥石	70.0	67.0	231.0		砥面五面とも使用のため抉られている。四面が煤？の付着のため黒い。	19M8	第54図26
砥石	64.5	56.0	132.0		砥面二面。軟質の石で滑らか。	20KP1284	第54図27
陶錘	39.0	31.5		32.6	やや小型で不整形。孔内径15.0mm	20L13	第54図28
陶錘	42.5	33.0		44.7	不整形。孔内径21.0mm	20K12	第54図29
陶錘	43.0	41.0		67.8	丸棒に粘土を巻き付ける製作過程が見える。孔内径17.0mm	20L5	第54図30
陶錘	60.0	43.0		95.9	七面体を呈する。孔内径16.0mm。	20L9	第54図31
陶錘	68.0	45.0		116.7	不整形。孔内径20.0mm。	20L8	第54図32
陶錘	70.5	48.0		125.0	不整形。孔内径21.0mm。	18L21P299	第54図33
茶臼	(380.0)		99.0		下臼。8分画7溝臼面径190mm回転方向反時計回り。	'97Ⅰ-1	第55図1
陽物	49.0	39.0	85.0	89.0	石製品。被熱しているか？	19M14P812	第55図2
鉄鍋	136.0	112.0	6.0	250.0	外帯幅32～34mm。	19M13第88号竪穴	第55図3
鉄鍋	110.0	83.0	5.0	102.0	外帯幅22mm。補修のためか、多量の銅による鋳掛け部分あり。	19K22第85号竪穴	第55図4
鉄鍋			4.0	2050.0	口径370mm、底径250mm、器高130mm、外帯幅36mm、丸形湯口。	19L25第87号竪穴	第55図5
鉄鍋			4.0	265.0	底径320mm。	20L12Ⅲ	第55図6
鉄鍋			3.0	469.0	口径（376mm）、底径（680mm）、器高142mm、外帯幅36mm。	20L12Ⅲ	第55図7
柱材	132.0	125.0	(314.0)		角材。	20K2P1265	第55図8
柱材	678.5	57.0			杭状。	20K1P1258	第55図9
柱材	370.0	124.0			角材。	20K1P1259	第55図10
骨角器	105.0	6.5	5.5		中柄。被熱。	18L24P299	第56図1
骨角器	77.0	7.5	5.5		両端欠損。被熱。	18L24P299	第56図2
骨角器	58.5	8.5	6.0		両端欠損。被熱。	18L24P278	第56図3
骨角器	48.0	24.0	13.0		環状製品。半分欠失。被熱。	'97Ⅰ	第56図4

表23　出土遺物集計表　（陶磁器）

産地	舶							国																	
種別	中		国					瀬戸美濃										越中							
器種	青磁	白磁	染付	赤絵	鉄釉	朝鮮	小　計	灰釉	鉄釉	鉄絵	志野	皆焼	土御	織部	瑞浪	信楽	備前	瀬戸	小　計	瓶類計	合　計	その他	近　代	総　計
碗	150	4	266	5		8	433	67	67		1							1	136	569			38	607
皿	77	419	445				941	663	17		8	5							693	1,634			9	1,640
杯		11	6				17																9	26
壺																								
香炉	4						4																	4
徳利										1					457	3			461					461
鉢・壺・鉢	3	1					4	1							35				36				22	62
袋物					1		1		1										1				1	3
その他									1										1			6	13	20
計	234	435	717	5	1	8	1,466	731	86	1	9	5			492	3		1	1,329	2,203	2,728	6	89	2,823

表24　出土遺物集計表　（鉄製品他）

種	別	点　数	重量（g）
鉄製品	武器・武具	鏃	1	2.9
		刀子	14	91.0
		刀	1	69.6
		小札	51	138.3
		計	67	301.8
	冑具・鎧具	漁具	1	23.8
		釣針	1	0.3
		紳金具	1	4.0
		計	3	28.1
	建築加工	釘	173	340.4
		鎹	9	121.3
		鞴	5	79.3
		雑金	1	7.5
		計	188	548.5
	生活具	鉄	253	7967.0
		火打金	1	8.5
		火箸	12	83.7
		鍵前	1	28.8
		計	267	8088.0
	不明金具		1	156.4
	不明		19	424.5
合　計			545	9547.3
銅製品	武器・武具	小柄	1	16.3
		鐏	1	5.0
		鋲	1	15.9
		金祖	1	5.9
		目貫	1	3.1
		計	5	46.2
	容器具	鉦	3	441.0
		六器鋲	2	71.9
		六器台皿	2	40.7
		花瓶	1	14.3
		計	8	567.9
	不明		5	39.2
合　計			18	653.3
鍛冶関連	スラッグ		6	373.0

種	別	点　数
石製品	硯	5
	茶臼	1
	碁石	2
	砥石	25
	砥石原石	5
	鏃物	1
合　計		39
骨角器	中柄	1
	櫛状製品	1
	不明	74
合　計		76
木製品	柱	10
	礎板	1
	板	7
	横	1
	斜物	1
	漆椀	1
	灯明台	1
	天秤棒	1
	串	3
	挟串	1
	箸	31
	鉤	1
	折敷	1
	柄	5
	角材	65
	板材	43
	薄板	30
	丸棒	26
自然木他	自然木	51
	樹皮	5
	不明	10
合　計		295
その他	ガラス玉	2
	陶錘	12
	漆器	2
	獣骨	34

	銭　名	点数	初鋳年（西暦）
銅銭	祥符元宝	1	1008
	天聖元宝	2	1023
	熙寧元宝	1	1068
	元祐通宝	2	1086
	洪武通宝	3	1368
	永楽通宝	4	1403
	無名銭	2	
	不　明	80	
	小　計	95	
	寛永通宝	1	
	合　計	96	

Ⅲ 小 括

今年度調査区で検出・出土した遺構・遺物につい若干の補足、考察を加えたい。

掘立柱建物跡：掘立柱建物跡は39棟想定したが、間仕切りがある建物を23棟検出した。その内11棟は中央に２間×３間ないし３間×３間の部屋がある。更にその内、第４・５・８・９号建物跡の４棟には、他に２間×２間、１間×２間の部屋がある。鈴木亘先生によれば、中央にある２間×３間の様な大きな部屋は、近世の民家で「広間型住居」と呼ばれているものの「広間」に相当するのではないか、とのことである。又、２間×２間、１間×２間は、それぞれ「座敷」、「納戸」に相当する部屋と考えられるとの御教示も受けた。

中央の部屋（広間）にも各建物毎に特徴があり、特に第９号建物跡では、中央の２間分の柱間を広くすることによって、広間を大きくする工夫がなされている。又、第９号建物跡に先行する第８号建物跡では中央の部屋が３間×３間と大きく、これはむしろ近世民家に見られる広間というよりは、中世の会所に見られる九間である。勿論、史料等からうかがえる会所と勝山館跡で検出された建物を同列に扱うのは無理があるので、今後更なる検討を要することはいうまでもない。しかし、勝山館跡で検出された九間をもつ建物は、会所に見られる九間を指向した可能性が十分ある。平成三年度に検出した勝山館の中心建物「客殿」は九間を遥かた間取りであり、九間を有する本格的建物が、勝山館には存在している。故に九間を知り、それを指向することは十分考えられるのである。推測に推測を重ねてしまうが、案外、近世民家の広間の源流は、中世の会所の九間にあるのでなかろうか。

「広間」や「座敷」、「納戸」と想定される部屋を有する間取りの建物は、調査の結果から遅くとも16世紀後半には成立していたと推測される。又、松崎から山梨県勝沼城跡等でも「広間」を持つ建物跡が検出されているとの教示を得た。16世紀代この様な間取りの建物が、中世の城館をはじめとして続々と見つかっていることは、近世民家の成立過程を考える上で、今後留意されなくてはならないと思う。今回は、柱配置から想定できる間取りのみの議論で終始しているので、限界もあるが、今後近世の建物跡、民家と比較検討した上での更なる考察を加えたい。

一方、間仕切りが無い建物跡も類型化が出来そうである。検討不足のため具体案は提示できないが、桁行梁間とも三間の建物跡を九棟想定したので、この一例について若干述べてみたい。この平面形の建物は６号建物跡を除いた他は中央通路に面さない地割に配される傾向があり、さらに広間を有する建物に先行するものである。建物の規模や構造からすると、あまり大型とは言えないので雑舎の類として想定できそうである。しかし、第16号建物跡の六器銭の埋納？事例からすると、規模や構造からその性格を雑舎と推測するのは極めて困難である。広間を有する建物跡に先行することも併せて考えると、住居用建物の古い形態の一種と考えても良いのではなかろうか。

建物規模・構造と占地の関係：中央通路に面する建物は桁行六間、梁間三間のやや大型の建物ないし、六間・九間の広間を有する建物が配される傾向にある。更にその幾つかは、「座敷」・「納戸」と想定した部屋を有する。このことは平成８年度以前の調査でもほぼ同じ結果が得られている。

一方、中央通路に直接面さない地割には、桁行四間以下で、間仕切りが無い建物が多い。特に18Ｌ22～19Ｌ22区付近にある通路を挟んで、第12・16・24号建物跡の様な桁行三間×梁間三間の建物跡が並ぶ時期が想定される。やがてこの通路が廃絶されると、桁行が長い第13・14号建物跡、２間×３間の広間を持つ第25号建物跡が、通路跡地を取り込んで建てられる。或いは、桁行が長い建物を建てるために通路を廃絶したのであろうか。Ｘ遺で松崎が指摘している通り、六間や九間のような広い空間（広間）がある建物は居住性の高い建物と考えられる。地割の改編とともに居住性の高い住居が、中央通路に面さない奥まった所にも建てられ始めるのである。しかし、これらの地区には桁行六間で「座敷」・「納戸」と想定した部屋のある建物は建てられることは無かったようである。このことは中央通路に面する建物との性格の違いを反映しているのではなかろうか。つまり、座敷の有無が建物の階層差と見ることが出来るのではないか。又、中央通路に面する地割を占める

者と奥まった地割を占める者の階層差を反映しているのではなかろうか。今後は、中央通路に面する建物と面しない建物の各々の地割に属する遺物の特性も加味し、上記の推測をより具体的に仮説として示したい。

遺物と遺構の関係：淳州窯系染付皿が2個体分出土した。図は掲げられなかったが、他にも数個体分の皿や碗の破片が出土している。これらの遺物は、中央通路に面した第9・39号建物を区画する溝から出土した。勝山館の後半期（終末期）の遺構と遺物の関係を考える重要な資料であろう。今後、終末期の遺物と考えられる唐津、志野などとともに出土点数・状況などを検討し、勝山館後・終末期の様相を考えてみたい。

大型の井戸跡について：大型の井戸を検出したのは、今年度調査の中で特記すべき事項と言えよう。勝山館跡の中心部となる台地上では過去に2基の井戸が検出されている。一つは、平成三年度調査で検出した「客殿」空間に取り込まれる大型井戸（井戸の検出は平成4年度調査）。もう一つは、平成四年度調査区で検出した曲物枠が納められていた土壙31である。前者は客殿に付属する施設と考えられ、土壙31は勝山館中心部に暮らす人々の必要を十分に果たせるものでは無いと考えられる。この点から中心部台地上における水確保については、不明な点が多かった。今回検出した井戸は、客殿付属の井戸に匹敵する規模のものである。又、ひとつの地割内において建物と併存するのではなく、占有する配置状況になっている。中心部において各地割毎に従属する井戸は無い上に、規模の大きさから言っても、館中心部の共同施設であったことが考えられる。堆積状況からは自然廃絶とも人工廃絶ともつかぬ様子であり、今一つこの井戸の使用状況が掴めぬ所だが、刳物や櫃、天秤棒、滑車枠といった類例のあまり多く見ない木製品が良好な遺存状態で出土したことは、大きな収穫であった。

以上、推論の域を出ない雑駁な記述となってしまったが、今後更なる資料整理を行い、より多くの情報を提供することで、調査者としての責を果たして行きたい。（松田）

Ⅳ　保存処理

1　鉄製品

武具（小札）・生活用具（鉄鍋・釘）等800点の処理を行った。錆除去後、エタノール脱水、パラロイドNAD－10のソルベントナフサ20～30%溶液による減圧樹脂含浸、更に接合等を行った。処理後はRP材、酸素インジケーターとともに封入し、保管している。

2　銅製品

武具・仏具・銭等122点の処理を行った。エアーブラシ、メス等による錆除去後、エタノール脱水、ベンゾトリアゾールの2～3%溶液による減圧樹脂含浸、更に接合等を行った。処理後はRP材、酸素インジケーターとともにに封入し、保管している。

3　骨角器

銛頭、骨鏃、中柄等500点の処理を行った。パラロイドB－72のキシレン1%溶液による減圧樹脂含浸、更に接合等を行った。（松田）

Ⅴ まとめ

勝山館跡主体部の中心となる、第二・第三平坦面は、南西から北東方向の長軸180ｍ、第二平坦面前方の幅100ｍ、第三平坦面後方の幅30ｍの梯形をなしている。この第二・第三平坦面の中央を縦断して上ノ国町が昭和46年に設置した自然遊歩道が貫いている。

第一平坦面の最南西部、第二平坦面の直下には二重に空壕が切られ、緩やかな斜面を削り取って作った段差は５ｍを越え、内側の壕底から第二平坦面端部にいたる比高差は８～10ｍに達する。第二平坦面の端部には櫓列が廻り、中央には空壕を渡る斜め昇りの橋がかけられる。壕は二条とも中央で大きく屈曲し、横矢掛の構えとなっている。

平成８年度の調査区である遊歩道南西半中央付近には、現況地形図にも大きな段差が明示されており、これを第二・第三平坦面の境としてきた。一方、今年度の調査区である遊歩道北西側には、自然遊歩道に平行して段差の高まりが見られ、それがほぼ中央付近で鉤の手に寺の沢方向に折れ、土塁と溝状の凹みを作って前後に区画している。これを同様に第二・第三平坦面の境としたところである。（第１・２図）

平成２年、自然遊歩道の北東先端部とその北西地区の発掘調査に着手以来、この想定される第二平坦面での発掘が継続されてきた。

８年度の調査では、第三平坦面との境には1.8～2.0ｍの段差が作り出され、初期の頃の壕（？）状の凹みが一部残存しているなど、館の時代には明瞭な区画の存在していたことが明らかとなった。

今年度の調査区では、その境としてきた溝は、江戸時代の後半に掘られた物であり、それに平行する土塁はその盛り上げ土で作られたものであることが判明した。しかし、この幕末の土塁のほぼ直下に館の時代の区画段が見つかり、その北東側直下に区画溝も存在していた。調査前の想定から２ｍ程区画溝の位置が北東側へずれていたが、やはり第二・第三平坦面の境は館の時代から作られていたこととして良いようである。

前方を大きな段差と二重の空壕で厳重に守り、後方にも段差と溝で明瞭な区画を設けて画した、勝山館主体部の中でも最も広いこの第二平坦面全面を今年度で掘り上げたのを機に少しく概括することとしたい。

９年度の調査で判明した江戸時代の区画である土塁と溝は、幕末天保12年の松前藩主晶広のお国入りを前にした江差（檜山）奉行所の前年の一連の工事の一つであったものと推される。前述のように自然遊歩道に沿って作られた段状の盛り土が、鉤の手に寺の沢方向に折れて、土塁と溝からなる区画が作られるが、過年度までの調査で、この段状の盛り土には溝が平行し、その溝中から近世後半の陶磁器が出土することなどから、中央の自然遊歩道に先行して通路があり、それを藩主の国入りに際し、左右に拡幅削平拡幅し、両側にその土を盛り上げたものと解してきた。鉤の手に折れた土塁もその盛り上げ部分に連続するものであり、溝も又通路のそれに連続するものであった。藩主の国入りを前にその通り道を整備する工事でありながら、第二、第三平坦面の境を強調する溝や土塁を新たに作ったのは何故だろうか。

寛政元年（1789）、この地を訪れた菅江真澄が夷王山々頂に雷でた時、案内に立った上ノ国の子供が「ここは何がしどのの館、家居、、、」と明瞭にその場所毎に説明を加えていることは、かなり後になるまで、勝山館の構成が伝えられ、記憶されていたことを示しており、檜山奉行や松前藩にこの第二・第三平坦面を画すことの意義が、或いは幕末の頃まで伝えられていたとも推するところである。ちなみに、自然遊歩道が作られる以前の上ノ国市街地から夷王山に至るこの道を上ノ国地区の人々は「参道」と呼び、それは又、江戸時代を通じ、毎年１月藩主名代が上ノ国三社である夷王山神社や、館神八幡宮へ代参する「（御）代参道路」の詰まったものである。

平成２年～９年までの第二平坦面の調査で検出した遺構は掘立柱の建物跡173棟、竪穴建物跡72基、土壙221基、井戸3基である。出土遺物では陶磁器26,804点の内舶載品12,691点、国産品中擂鉢片4,206点であり、鉄製品6,915点123,081.９ｇ、銅製品532点4,415ｇ、鉄滓・銅滓を含む鍛冶関連品が591点19,532.２ｇ、石製品672点、陶錘76点、木製品5,452点、漆器片34、銅銭243枚、ガラス玉15点、骨角器154点などが主なものである[註1]。

第二平坦面の長軸中央に沿う自然遊歩道の下位

には、館の時代の中央通路が通り、この通りの左右に雨水などを処理する溝で画された敷地が並び、これらの建物跡などの遺構が配され、遺物が出土している。区画溝自体が幾度か改変されるとともに建物跡も３～５回程の建て替えが行われている。出土する陶磁器の年代は、一部伝世品を除き15世紀の第４四半期以降16世紀末葉までの間と推される。例示すると、20片の珠洲Ⅵ期擂鉢を除く擂鉢のほとんどは越前産であり、碗・皿の初源を瀬戸・美濃大窯Ⅰ期に、末葉は志野、唐津胎土目、大窯の末期に求めているところである。

中央通り沿いの両側には５・６×３・２間の棟筋が通りに直交する建物が多く配され、六間や九間の間取りが見られる。

第二平坦面北部には段と柱列で明確に画された地区があり、そこには、鈴木先生が「客殿」とした中門廊とそれに続く九間の対面所、同じく九間の内に寝室を持つ居間からなる大型の建物に代表される、勝山館の中心建物が何度か建てかえられていた。この建物跡には台所様の建物や井戸が付され、周辺には庭園状の配石や石敷き礫石立ての建物、鋼鋳造作業場跡などが配されていた。

第二平坦面東隅には、南北に長軸を持つ区画が作られその中に幢状の建物が建て替えられている。この東隅から南東、華ノ沢直上の縁辺には、櫓列に沿って通路を兼ねた帯郭が作られ、それに平行する長軸を持つ建物が配されている。端部に作られる櫓列の柱穴も太く、布掘りされる櫓列の掘り方も広く深く、数回の作りかえが見られる。これは明らかに北西寺ノ沢沿いの縁辺とは異なるところであり、北東～南東方向の防禦を強く意識した作りであることを示している。

中央通り沿いの建物跡と両側縁の華ノ沢、寺ノ沢沿いの櫓列との間には、やや小型の建物が配される傾向にあるようである。

こうした掘立柱建物跡の概その状況に陶磁器の出土傾向を併せて見ると、客殿空間では、平成３年度出土数のみではあるが、2,782点中舶載品が1,624点と過半を超えること、擂鉢の量が全体の６％と極端に少ないことなどがみられる。又、平成元年度の旧道跡周辺出土とあるものの殆どはこの地区に属すると見られることは、この地区が勝山館の末期まで存続し、機能していたことを示すものであろう。又、陶磁器中には名物松花にも近いとされる[脚注1]四耳壺や、唐津奇茶碗、茶入れ、志野丸碗、向付などが豊富にあり、客殿空間にふさわしいものとなっている。

一方平成７年度調査区である、中央通り南東部で唐物茶入れが出土するなど各年次調査区それぞれの遺物も豊富なものとなっている。第二平坦面の出土陶磁器片と館後方の貝塚（ゴミ捨場）内出土のものとに幾つか接合例があり、第二平坦面で日常的に物が使用され、捨場に破損品が整理されていることを示している。又各年次毎に漁網用陶錘が出土し、鍛冶関連遺物も見られる。更に客殿空間を除く各年次調査区から骨角器が出土している。つまり、各年次調査区には、一部欠けるものもあるが、狩・漁労具から大工道具、鍛冶関連用品、仏具、茶道具までの種々の遺物が見られるのである。これらの遺物一つ一つの帰属する建物跡などの遺構が特定される時、更に具体的に遺構の性格や人々の構成を知ることができるが、少なくともこれを第二平坦面全体として把えた時、これら各種の遺物の性格や機能から、それらに関わる人々の存在が推されるところであり、一つのまとまりが想定されるのである。

筆者は華ノ沢、檜ノ沢、寺ノ沢地内などに建物配置を示す平坦地が見られ、柵型や虎口状の作りを伴う箇所もあることから、こうした地区には、第二平坦面とは別な一団が存在すると想定した。それは、第二平坦面が客殿空間の占有者に直属する全ゆる階層の一団が占地する場ではないかということである。こうした一団の幾つかが勝山館の地内に分かれて存在し、全体がこの客殿空間の占有者のもとにあると想像するものである。

竪穴建物は古い時期に属する例が多いようであるが16世紀後半の陶磁器を数個体一括して保有しているものがあり、時代・性格共になお検討が必要である。土壙にについても同様である。

各地区や遺構と遺物の相互関係を厳密にし、勝山館の実体に近づく努力を重ねなければならない。諸先学、諸先生の御指導を切にお願い申し上げます。

（松崎）

註）１　いずれの数字も概数であり、重複、脱漏或いは、今後の詳細な検討による変更があることをご了知下さい。

２　井上喜久男氏のご教示による。

報告書抄録

ふりがな	しせき　かみのくにかつやまだてあと
書名	史跡　上之国勝山館跡　XIX
副書名	平成9年度発掘調査環境整備事業概要
巻次	19
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	松崎水穂　松田輝哉　長内孝幸
編集機関	上ノ国町教育委員会
所在地	〒049-0611　北海道檜山郡上ノ国町字大留100　TEL 01395-5-2230
発行年月日	西暦　1998年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
かつやまだて 勝山館跡	かみのくにちょうかつやま 上ノ国町字勝山	C－02	40	41°48′	140°6′	平成9年 5月～ 12月	1,300㎡	環境整備事業に伴う調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
勝山館跡	城館	中世	掘立柱建物跡39棟 竪穴建物跡10棟 井戸跡 通路跡 柵列跡	陶磁器 青磁・白磁・染付 朝鮮 瀬戸美濃・越前 珠州 鉄製品 鍋・刀子・小札 銅製品 銭・仏具 骨角器	

図　版

PL.1　調査区全景

1　調査区全景(北から)

2　調査区全景(北東から)

1 第1～9号建物跡
(手前中央通り－南東から)

2 第31～34号建物跡(南東から)

3 第1～9号建物跡
(北東から)

1　第85号竪穴炭化材検出状況（上）

2　第91号竪穴検出状況（下）

3　土壙4土層堆積状況

4　穴器銅出土状況

5　陶磁器出土状況

6　陶磁器出土状況

7　柱穴内礎板検出状況

8　棚列検出状況

5　木製品出土状況(桶？他－下底部)

3　茅材検出状況(上位)

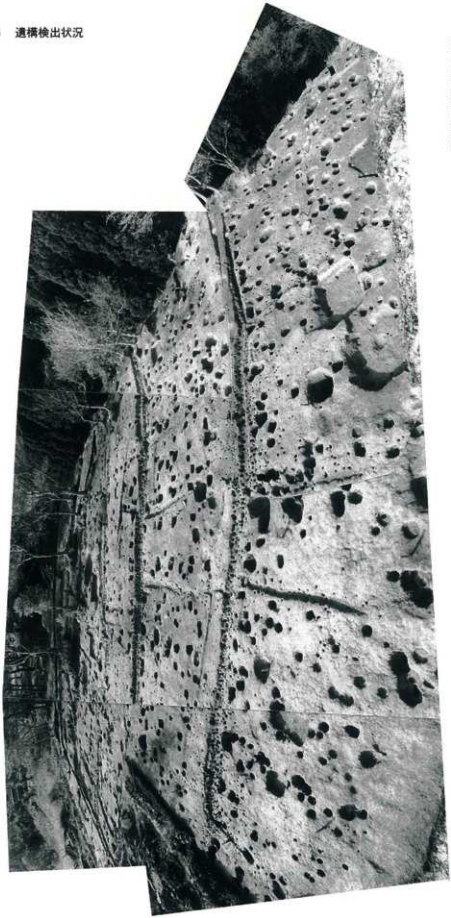
1　土層堆積状況

6　木製品出土状況(滑車枠他－最下底部)

4　木質遺物検出状況(中段)

2　完掘状況

PL.5　遺構検出状況

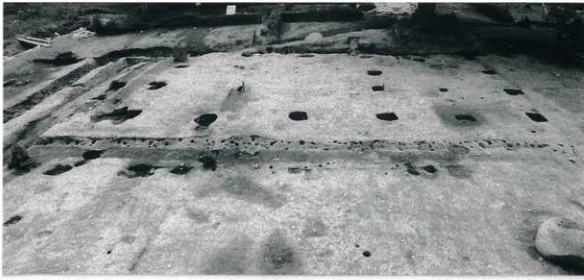


調査区全景（北東から）

1 第6～9号建物跡(南東から)

2 第9号建物跡(南東から)

3 第9号建物跡(北東から)



PL.7　遺構検出状況

1　井戸跡・第35～37号建物跡・第83号竪穴建物跡（南東から）

2　井戸跡・第35・36号建物跡・第83号竪穴建物跡（北東から）

3　36号建物跡（北東から）

PL.8 遺構検出状況

1 第1～5号建物跡（北東から）

2 第31～34号建物跡（北東から）

3 第31～34号建物跡（北東から）

4 第31～34号建物跡（南東から）

1　露20～30年観察面(北東から)

2　露20～30年観察面(東から)

3　露24・25年観察面(東から)

4　露24・25年観察面(東から)

PL.10　遺構検出状況

1　第10～14号建物跡（北東から）

2　第10～14号建物跡（北西から）

3　第15～23号建物跡（北東から）

4　第19～22号建物跡（北東から）

PL.11　遺構検出状況

1　通路跡検出状況(北東から)

2　通路跡検出状況(北東から)

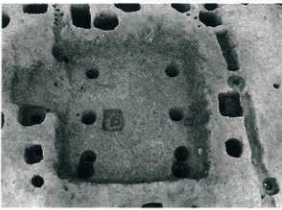
4　柵列跡検出状況(南西から)

3　柵列跡堆積状況(北東から)

1 第89号竪穴建物跡(南東から)

2 第89号竪穴建物跡範囲検出状況(南東から)

3 第86号竪穴建物跡(北東から)



4 第86号竪穴建物跡堆積状況(北東から)

5 第88号竪穴建物跡土層堆積状況(南東から)

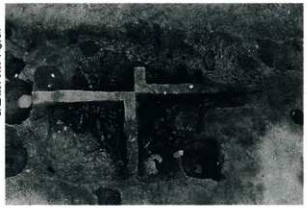
6 第88号竪穴建物跡堆積状況(北西から)

8 第84号竪穴建物跡(北東から)

7 第88号竪穴建物跡(南東から)

PL.13　遺構検出状況

1　第85号竪穴建物跡炭化材検出状況（北西から）



2　第85号竪穴建物跡（北東から）

3　第91号竪穴建物跡（北西から）

4　第91号竪穴建物跡（南西から）

5　第87号竪穴建物跡鉄鍋出土状況（北から）

6　第87号竪穴建物跡（北東から）

7　第83号竪穴建物跡（北西から）

8　第83号竪穴建物跡（南西から）

1　井戸跡　集石検出状況(北西から)

3　井戸跡　茅材？検出状況(南西から)

2　井戸跡　茅材？検出状況

5　井戸跡　茅材？他検出状況(北から)

4　井戸跡　木製品他検出状況(北西から)

7　井戸跡　樺皮出土状況

6　井戸跡　木製品等検出状況(南西から)

PL.15　井戸跡　木製品出土状況

1　井戸跡　木製品出土状況（刳物）

2　井戸跡　木製品出土状況（桶）

3　井戸跡　木製品出土状況（滑車枠他）

1 土壙1（南東から）

2 土壙1堆積状況（南東から）

3 土壙24堆積状況（北東から）

4 土壙24（北東から）

5 土壙2（南西から）

6 土壙2堆積状況（南西から）

7 土壙8（北東から）

8 土壙23（西から）

9 鉦出土状況

10 溝5 炭化材検出状況

史跡　上之国勝山館跡　XIX

－平成９年度発掘調査環境整備事業概報－

発　行　上ノ国町教育委員会

北海道檜山郡上ノ国町字大留100

印　刷　平成10年３月27日

発　行　平成10年３月31日

印刷所　㈱三和印刷